

予算特別委員会（第3分科会）記録

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1. 会議の日時 | 令和7年2月28日（金）午前10時0分～午後4時11分 |
| 2. 会議の場所 | 第2委員会室 |
| 3. 会議の議事 | 下記のとおり |
| 4. 出席委員の氏名 | 下記のとおり |

協議事項

（文化スポーツ局）

- | | |
|------------|----------------------------------|
| 1. 予算第1号議案 | 令和7年度神戸市一般会計予算（関係分） |
| 2. 第9号議案 | 神戸市都市整備等基金条例等の一部を改正する等の条例の件（関係分） |
| 3. 第10号議案 | 神戸市立体育施設条例の一部を改正する条例の件（関係分） |

出席委員（欠は欠席委員）

主 査	松 本 のり子			
副主査	諫 山 大 介			
分科員	森 田 たき子	のまち 圭 一	なんの ゆうこ	木戸 さだかず
	浅 井 美 佳	坂 口 有希子	香 川 真 二	上 原 みなみ
	さとう まちこ	平 野 達 司	上 畠 寛 弘	宮 田 公 子
	赤田 かつのり	住本 かずのり	五 島 大 亮	平 野 章 三
	平 井 真千子	壬 生 潤		
委員長	高 瀬 勝 也			

議 事

（午前10時0分開会）

○主査（松本のり子） おはようございます。

ただいまから予算特別委員会第3分科会を開会いたします。

最初に私から御挨拶を申し上げます。このたび副委員長に就任し、本分科会の主査として分科会運営を担当することになりました。理事並びに委員各位におかれましては、本分科会の運営が円滑に進められますよう、格段の御協力をお願いいたしまして、甚だ簡単ではございますが御挨拶とさせていただきます。

次に、分科会の運営につきましては、去る2月26日の委員会で決定されましたところにより行ってまいりたいと存じますので、皆様の御協力をお願いいたします。

次に、同26日の理事会において決定されました事項について御報告いたします。

まず、委員各位の席の配置につきましては、お手元の定席表のとおり、また、質疑に当たっては発言席を設けて、その席で行っていただくことになりましたので御了承願います。

次に、質疑順位につきましては、特別審査においてはお手元の質疑順位表のとおりとし、総括質疑においては大会派順といたします。なお、公務等により予定の質疑順位で不都合が生じる場合は、交渉会派については交渉会派の最後、5番目に質疑順位を入れ替えることを原則といたしますので、お含みおき願います。

次に、局別審査の質疑時間につきましては、議運決定事項により、答弁を含めて、自由民主党さんは60分、日本維新の会さんは55分、公明党さんは50分、日本共産党さんは40分、こうべ未来さんは35分、つなぐさんは15分、平野章三委員及び上原委員はそれぞれ10分、また、質疑者数については、自由民主党さんは3名以内、日本維新の会さん、公明党さん及び日本共産党さんはそれぞれ2名以内、その他の会派はそれぞれ1名となっておりますので、よろしく願いいたします。

以上、報告を終わります。

（文化スポーツ局）

○主査（松本のり子） それでは、日程によりまして、文化スポーツ局関係の審査を行います。

当局におかれては簡明な説明をお願いします。

それでは、当局の説明を求めます。

局長、着席されたままで結構です。

○宮道文化スポーツ局長 おはようございます。文化スポーツ局長の宮道でございます。それでは着座にて失礼いたします。

令和7年度予算案及び関連議案のうち文化スポーツ局所管分につきまして御説明申し上げます。お手元の令和7年度予算説明書の1ページを御覧ください。

1 総括でございます。

文化スポーツ局では、阪神・淡路大震災から30年目の節目を迎え、人々に夢と希望を与えてくれた文化とスポーツの力を改めて認識し、後世へと継承するために、市民の心豊かな生活やまちの魅力向上を実現するため、文化・スポーツの振興を一体的に推進してまいります。

次に、2 主要施策でございます。

1 スポーツの振興として、神戸マラソン2025の開催では、11月16日に、感謝と友情をテーマに震災30年事業として開催します。今大会からは折り返し地点を明石市域へと延伸し、フィニッシュ地点を神戸ハーバーランドへ変更することにより、高低差を解消し、競技性を向上させ、より魅力的なコースへと変更します。

（2）王子公園の再整備では、王子公園再整備基本計画に基づき、令和12年度概成に向け、施設的设计・整備等を行います。

（3）ポートアイランドスポーツセンターの再整備に向けた調査検討では、整備内容や整備手法、スケジュールについて、改めて有識者や市民の意見を伺いながら精査し、再整備基本計画の一部改定を行います。

2 ページを御覧ください。

（4）ヴィッセル神戸30周年記念事業では、阪神・淡路大震災の年に始動したヴィッセル神戸が実施するチャリティーマッチに対して、企業版ふるさと納税の活用による支援を行います。

（5）市民スポーツの振興では、H A T神戸において、民設民営で開設される通年型アイススケートリンクの活用などを通じて、市民が日常的にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、トップスポーツチームと連携した町なか等での交流事業を行います。

また、中学校部活動の地域移行に向けては、指導者や運営者の育成に取り組む競技団体などに対する支援や大会運営組織の構築に向けた調査・検討などを行います。

（6）ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催準備では、令和9年5月の大会開催に向けて、神戸市内で開催される競技の準備を行います。

3 ページを御覧ください。

2 文化芸術の振興として、（1）K O B E国際音楽祭2025の開催では、第11回神戸国際フルートコンクールの開催に合わせ、約2か月間にわたり、市内50か所以上で100以上の企画を実施します。また、神戸と大邱の代表的なフルート奏者による記念演奏会も開催します。

（2）K O B Eまちなかパフォーマンスの推進では、登録アーティストが公認会場で質の高いパフォーマンスを行うことで、市民が文化芸術に触れられる機会を創出し、まちの魅力向上を図ります。

（3）地下鉄海岸線の駅における若手アーティストの作品展示では、地下鉄海岸線の複数の駅において、若手アーティストの作品を展示することで、海岸線全体を1つのミュージアムとして周遊してもらえるよう取り組むほか、出展アーティストの作品を購入できる仕組みにつなげていきます。

4 ページを御覧ください。

（4）神戸六甲ミーツ・アート2025 b e y o n d への支援では、アートによる六甲山のブランド価値向上や現代アートの振興を図ります。

（5）第52回神戸まつりの開催では、震災30年関連事業として、5月18日に三宮フラワーロード周辺においてチャリティー音楽イベントCOMING K O B Eと連携した企画を実施するとともに、被災地の物産ブースやワークショップを展開します。

（6）新・神戸文化ホール整備では、令和9年12月の工事完了に向けて、大ホールや小ホールの整備を進めるほか管理運営計画の検討を進めます。また、開館に向けたソフト事業の企画・検討を行います。

（7）新北区文化センターの整備では、令和9年秋頃の供用開始に向けて、建設工事を引き続き

進めます。

5 ページを御覧ください。

（８）青少年科学館のリニューアルでは、大規模リニューアルの第２期目として、第４・５展示室等の改修を実施するとともに、第３期リニューアルに向けた調査・検討を行います。

次に、３文化財の保存・活用として、（１）歴史的建造物等の活用によるまちの活性化では、北野町山本通重要伝統的建造物群保存地区において、旧山口邸・旧ハンター住宅の調査・設計・整備を行うほか、市内文化財のライトアップの調査・検討・設計を行います。

（２）五色塚古墳の整備では、令和７年度の完成に向けてガイダンス施設の整備を行います。

（３）神戸歴史遺産では、国・県・市指定等文化財に加え、一定の要件を満たす未指定文化財を神戸歴史遺産に認定するとともに、ふるさと納税等を活用し、保存や活用のための助成を行います。

（４）文化財保護・文化財調査、埋蔵文化財センター運営等では、文化財の保存のため、修理助成や現状調査、埋蔵文化財発掘調査を行います。また、埋蔵文化財センターにおいて、出土品の復元の作業・調査や企画展・講演会等を実施します。

6 ページを御覧ください。

4 博物館・美術館の魅力向上として、（１）博物館特別展の開催等では、震災30年大ゴッホ展一夜のカフェテラスなど多様な特別展を開催するとともに、ナイトタイムミュージアムを引き続き実施します。

（２）小磯記念美術館特別展の開催では、小磯良平氏の作品や同氏にゆかりのある作品を中心に展示を行います。

7 ページを御覧ください。

（３）神戸ゆかりの美術館特別展の開催では、神戸にゆかりのある芸術文化に加えて、多様な現代日本を代表する文化も取り上げ、幅広い世代を集客できるような展覧会を行います。

次に、５図書館サービスの充実として、（１）新垂水図書館の整備では、建設工事を行い、令和７年９月の開館に向けた準備を進めます。

（２）新北図書館の整備では、令和９年秋頃の供用開始に向けて建設工事を引き続き進めます。

8 ページを御覧ください。

（３）新三宮図書館の整備では、令和９年１２月の工事完了に向け、内装工事設計等の整備を進めます。

（４）神戸「本」の文化振興プロジェクトの推進では、読書推進イベントやSNSによる発信などにより、本と人との出会いの場をつくることで、神戸の本文化を振興していきます。

6 自然の家・公民館等の管理運営では、令和６年４月にリニューアルオープンした自然の家において、市民の野外体験活動の機会の充実を図るほか、洞川教育キャンプ場について、自然の家との役割分担を踏まえ、運営方法の見直しや施設の在り方の検討を行います。公民館やコミスタこうべにおいては、講座事業や貸館事業などを実施し、市民の学習活動の推進を図ります。

9 ページを御覧ください。

1 歳入歳出予算一覧でございます。

なお、金額につきましては、１万円未満を省略して御説明申し上げます。

歳入は、第17款使用料及び手数料から第25款市債までで、下から３段目、歳入合計欄のとおり、117億4,865万円でございます。

10ページを御覧ください。

歳出は、第3款市民費で下から3段目、歳出合計欄のとおり198億8,328万円でございます。

11ページから14ページにかけては、2歳入予算の説明を、15ページから17ページにかけては、3歳出予算の説明を記載しておりますので、後ほど御覧ください。

18ページを御覧ください。

4債務負担行為でございます。記載のとおり東灘区文化センターほか12施設E S C O事業など合計16の事項につきまして、それぞれ期間及び限度額を定めようとするものでございます。

続きまして、令和7年度予算関連議案について御説明申し上げます。

19ページを御覧ください。

第9号議案神戸市都市整備等基金条例等の一部を改正する等の条例の件は、設置目的が類似するなど、基金の見直しを行うに当たり、神戸市勤労者福祉事業基金条例を廃止しようとするものでございます。

20ページを御覧ください。

第10号議案神戸市立体育施設条例の一部を改正する条例の件は、人工芝等を新設する神戸市立小野浜公園球技場を体育施設として規定するとともに、使用料について定めようとするものでございます。

以上、令和7年度予算案及び関連議案のうち、文化スポーツ所管分につきまして御説明申し上げました。何とぞよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○主査（松本のり子） 当局の説明は終わりました。

引き続き、順位により質疑を行います。

なお、委員会運営の効率化のため、当局におかれては簡明な答弁に努めるとともに、適当なものについては担当部課長からも答弁されるよう、この際特に申し上げておきます。

また、質疑者が要望にとどめた項目についてはコメントを要しませんので、念のため申し添えておきます。

また、委員各位におかれましては、質疑の要点をおまとめの上、簡明にお願いいたします。

それでは、赤田委員。

○分科員（赤田かつのり） おはようございます。予算特別委員会、まず最初に始めさせていただきます。日本共産党の赤田かつのりでございます。

文化の発展は、豊かな人間性を育み、社会の進歩に欠かせないものです。芸術・文化を自由に創造し、享受することは国民の基本的権利であり、その条件を整えることは政治の責任です。文化・芸術を人間が生きる糧として大切に守り、発展させるためにも十分な予算を組むことを強く求め、質問に入らせていただきます。

まず、図書館についてです。図書館は、市民の知りたい、調べたいという願いを保障する大切な役割があり、生存権の文化的側面である学習権を保障する機関であります。

そこで、地域の図書館の職員体制についてお聞きしたいと思いますが、図書館の司書には、資料や情報を自ら適切に選択できるよう利用者に協力・支援するなどの役割があり、専門職として図書館の運営に重要な役割を果たしています。

市内の11の地域図書館の職員について調べてみると、司書でない方が少なからずおられることが分かりました。その方も図書館を利用される方のために、よりよい地域図書館の運営のために一生懸命働いてると思いますが、全ての図書館で常勤の司書を確保するようにしていくべきだと

考えますがいかがでしょうか。

- 中山文化スポーツ局中央図書館長 委員御指摘のとおりでございますが、図書館の運営において、司書は専門職として非常に重要な役割を果たしてございます。

直営である中央図書館でございますが、その司書は、窓口サービスや資料の企画展示だけではなく、各地域図書館やサービスポイントの管理統括、新図書館の整備、蔵書の収集管理、図書館システムの開発・運用、さらには豊富な蔵書と高い専門性を基にレファレンスサービスにおいて地域図書館をバックアップするなど、本市の図書館サービスの中核としての機能を担っているところでございます。

一方で、地域図書館でございますが、利用者にとって身近で利用しやすい図書館であるとともに、地域の情報拠点として地域に関する資料や情報を積極的に収集しまして提供するという役割を果たしており、指定管理者には、本市が定めた要求水準に基づきまして、民間のノウハウ・アイデアを生かしながら、図書館サービスの向上に努めていただいているところでございます。

指定管理者への要求水準にはスタッフの資質を確保することを求めています。例えば返本や書架整理などの簡易な業務に従事するスタッフを除いた全スタッフの6割以上が司書・司書補の資格を有することを必須条件としているほか、館長補佐や窓口責任者といった役職には、資格だけでなく、図書館の勤務経験も必須要件としているところでございます。

実際に、現在の各地域図書館では、司書スタッフの割合は要求水準を大きく上回っており、どの館でも館長・館長補佐・窓口責任者の役職者は全員が司書資格を有する状況でございます。

さらに資質の確保の観点からは、要求水準において、年4回以上の館内研修の実施を求めています。また、年度ごとの事業計画書にその研修計画を記載しているところでございます。

司書の常勤・非常勤のお話でございますが、地域図書館における常勤と非常勤の割合は公表しているところでございまして、令和6年5月1日現在で、司書資格の必要のない簡易な業務に従事するスタッフを除きまして、常勤スタッフのうちの司書数は135名中の120名ということで約89%、非常勤スタッフのうちの司書数は50名中の48名、96%になっているところでございます。合わせますと185名中168名、約91%が司書の資格を持っているということになります。

司書の割合が高い中、非常勤の方も効果的に活用しながら図書館の運営を行っているところでございまして、常勤の司書スタッフについては十分に使うことができているんじゃないかと考えているところでございます。

以上です。

- 分科員（赤田かつのり） 91%だという答弁がありましたけれども、私、実はこの質問を準備するに当たって、震災以前から三宮図書館、東灘図書館など市内の各図書館——地域図書館——で館長を歴任された方からお話伺ったんです。もうかなり高齢の方なんですけどね。直営時代は、職員採用で——職員採用の公募かな——必ず司書を確保していたんだというふうに述べておられました。つまり多分100%やと思うんです、当時が。平成20年やから——17～18年前から指定管理者制度を採用したわけですけども、それ以後曖昧になっていきよんじゃないかというふうに思うんです。

ところで、常勤の職員であってもその中には非正規の方がおられると思うんです。この非正規の方はどれだけおられるでしょうか。

- 中山文化スポーツ局中央図書館長 一般的に正規雇用労働者と言われますのは労働契約の期間の定めがない。無期限雇用であったり、フルタイムの労働であったり、直接雇用していると、3つ

の要件を満たす者というふうになってございますが、逆に言えば、非常勤雇用の労働者というのは、先ほど申し上げた3つを満たさない者ということを言われています。

地域図書館を受託している指定管理者にこの考えでの正規職員の割合を確認はしているんですけども、公表していないと回答があったので、本市としては把握はできてないんですけども、ただ、先ほど申し上げたように常勤・非常勤では把握してございまして、先ほどの割合になっているというふうなところでございます。

○分科員（赤田かつのり） だから要するに、常勤であっても非正規の方がおられることが、これが——何て言うかな——実際運営業務をやっていく上でもいろいろ現場でも支障を来すんじゃないかというふうにも心配するんです。

今、指定管理者が公表していないので把握していないという答弁があったと思うんですけども、でもそれは館長なり局長なり行かれて、そこで、各図書館で懇談をすれば分かることやと思うんですが、それも行っても教えてくれないということですか。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 そこは企業のノウハウの中身のところでございますので、割合が幾らかというところについてはですね、教えてもらえないというか、そこはないというところになってございますが、ただ私もよく現場行かせてもらいます。そのときですね、それぞれスタッフさんの表情とか見ますと、かなり生き生きとされている方も多いですし、いろんなことを言ってこられる市民の方がいらっしゃいます。その市民の方にも丁寧に対応されている姿を見ますと、そのような形で、何か図書館運営として支障を来しているかという、私はそのようには見えていないんですけども。

○分科員（赤田かつのり） 非正規の方っていうのは、そもそも極めて賃金が低いってことはよく知られてることではありますが、例えば2月25日付の朝日新聞で、これ他都市の話ですけど、他県の話ですけども、44歳の非正規の司書が勤続20年でありながら時間給で15万円弱で、いわゆる働く貧困層の境界線とされる年収200万円に届かないという、そういう方の取材をした記事がありました。

学校図書館も含めてですけども公共図書館、公立の図書館というのは、非正規雇用の職員の方たちが安定雇用で働きたいと。現場ではそれは生き生きされてるでしょう。何となくそれは僕も垂水図書館行って思ったことありますけども、でもそれは別問題で、安定雇用で働きたいと国会にも要請が全国レベルであると聞いてるんです。だから、そういう要望って多分重なり合うものがあると思うんです。

それで、ちょっと中央図書館の人材派遣契約に関する単価契約を見ますと、契約単価が時間給税込みで1,746円とのことなんですけども、そう教えていただきましたが、地域図書館の正規職員の方たちはその水準よりも低いんじゃないでしょうか。実態を調査すべきじゃないかと思うんですが、できないという答弁あるのか。ちょっともう1回お願いします。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 すみません。委員おっしゃる——先ほど申し上げたのに似てるんですけども、やはり各個人個人の給料っていうのは、企業のほうの内部努力といいますか、内部のノウハウの部分になりますので、教えていただけないというような状況になってございます。

○分科員（赤田かつのり） つまり、神戸市は他都市よりも先んじて指定管理者制度を導入したと、平成20年度からでしたか、どんどん進めていったということになるんですけども、市民から見れば、自分とこの地域の図書館が神戸市立図書館ですよ。そこでは、どこそこはどこが指定管

理を取っているか、そんなことみんな関心もないし、僕だって調べなければそれは分かりません。覚えてません、一々。垂水は分かりますけども。神戸市の市立の図書館である人やから当然公務員として働いておられるのかなというイメージを持つんです。そういう人たちが非正規で民間に雇われて、民間というか、そういう指定管理者に雇われて、その中で労働実態も分からない。神戸市自身が、当局自身が分からないというこれ自体が、そういう形態自身が、私は非常に奇異な感じがしてならないんです。何て言うか、賃上げがこれだけ社会問題になっているときに、非常に図書館の職員の方というのは専門職としての職責を生かすために一生懸命働いておられ、当然勉強されてると思うんです。けども、朝出勤をされて、開館前にブックポストを回収したり、返却の処理をしたり、元のほうに戻したり、そして開館してから開架作業や、またたくさん入った本を積み上げて力仕事をやられたり、休憩を挟んでまたいろいろと利用者の願いに応えるために一生懸命働いておられる。大変忙しいと思うんです。そしてまた夕方になってくると、多分勤務の交代もあると思うんですけども、そういった中で、やっぱり——どう言うんですか——円滑にしっかり働いて、そして市民の要求に、利用者の要求に応じていくようにするためにも、多くの方が安定雇用で働きたいと、こう願ってると思うんです。ですから、私はこれ何度も会派として質問しておりますけど、もう指定管理者制度という方向から直営に方向を転換して、そして今働く皆さんも十分に——当然それは職責に対してはプライドを持っておられると思う、誇りを持っておられると思うんですけども、しっかり司書の資格を取る、希望される方、取ることも含めて、大いにそれを保障しながら、図書館の運営を直営にして、神戸市として責任を持って市民に知的——何て言うかな——願いに応じていくような、そういう運営に転換すべきやと思うんですけど、その辺いかがでしょうか。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 議員おっしゃるように、現場に行きますと、本を運んだり、いろんな質問を受けたりとかして、実際腰も痛くなったりしたりとか大変な部分もあるんですけれども、指定管理者制度になりまして、例えば第三者の目で見ていただく図書館協議会の先生方にもいろいろ評価いただけてますし、指定管理の選定評価委員会の方にも評価いただけてますけれども、非常に評価が高うございます。賃金のところは把握してございませんけれども、例えばですけれども、昨今の物価上昇等ございますので、その辺り指定管理者と話をしながら指定管理料も上げてきてございます。そういう中で、何とか指定管理者のよさを生かしながら、官民の両輪で図書館の運営は効率的に、最大、市民のためにとっていい図書館になるように、効率的に効果的に図書館運営をしていきたいと考えてございます。

○分科員（赤田かつのり） その辺は平行線になりますが、引き続きこの問題というのは重視していきたいと思っております。

次に、観点変えまして、市民サービスの問題なんですけども、ちょっと予算書をいろいろ見ました。過去——それちょっとお聞きしたのは、事前に、過去5か年の市民1人当たりの資料費、これ事前にお聞きしたんですけども、令和4年度が83.0円、令和5年度が86円、令和6年度は106.1円と増えていましたが、令和7年度予算では95.6円と下がっているのは何ででしょうか。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 資料費の予算でございますけれども、令和7年度予算では1億4,250万を資料購入のための予算と今回させていただいております。令和6年度は1億5,925万円であり1,675万円減少してるところであります。その理由でございますけれども、令和6年度末で新垂水図書館の資料購入が——もうすぐ垂水できますので——完了するということと、逆に新北図書館が令和8年度から9年度に延びたことによりまして、開館が延期になったことで、

資料の購入スケジュールをちょっと先延ばしにしています。資料といいますのは最新の情報で直近の資料を買うっていうのがやっぱり一番市民にとって喜ばれることだと思いますので、そういった意味で新北図書館が開館延期になったことによりまして、少し新北の予算をちょっとずらしたというようなことによるもので、図書館全体としての資料費は確保できているというようなことだと思います。

- 分科員（赤田かつのり） 要するに人口で割り算することに大きな意味があると思ってまして。令和6年度150万人余りの人口があった。それが7年度は1万人ほど減ったのかな。分母が下がっているんだったら資料費を一定確保しておいたら、数字的には上がらないから——算数の問題ですけど——そう思うんです。それが減ってるというのは、どうもこれは人口減少に対応した対応かなというふうな疑念も抱いてしまいます。

物価高騰の影響。例えば一般市民の方は、私もそうですけども、書店やアマゾンなどで購入する前に図書館でどんな本かを試したいという要望が多くあります。これでは希望する書籍が借りにくくなるような状況がなかなか改善されないかと思うんです。職員からすると、読みたい本や新刊本など殺到する人気のある書籍があって、2週間ですかね、貸出期間の中で、例えば50番目の人というのは1年たっても回ってこない、リクエストに応えたいというふうに職員の方っておられても応えられない、こういう悩みというのがおありじゃないかと思うので、やっぱり資料費を確保してと言うけども、もっと増やすように予算要求すべきじゃないですか。

- 中山文化スポーツ局中央図書館長 図書館の資料費につきましては、議員御存じのとおり新館整備を今どんどんしていらっしゃるところでございます。その中で、名谷もそうですし西図書館もそうですし、それぞれ蔵書冊数を増やしてきています。なので、予算はある一定——凸凹ありますけれども——一定額は確保する中で蔵書数は確実に増やして行っていますので、市内トータルで見たときに選べる本というのは確実に増えてきているところでございます。

ただ、おっしゃるように、市民にいろんな本を幅広く読んでいただくというのが図書館の役割ですので、その辺り選書につきましては、最近ではインターネットでも見えますし、いろんな手段を使って、書店にも足を運んでどんな本が売れてるかも見えます。その辺り一番効率的に喜んでもらえるような本を選んでいきたいと思います。

ただ、ベストセラーにつきましてはなかなか、もう委員御存じのように難しく、図書館でどんとあると書店で買う人がいなくなって、その辺で、書店とも——今回本の文化振興プロジェクトということを7月からやっていますけれども、このプロジェクトは図書館と本屋さんと地元出版社、地元の本屋さんと一緒に読書推進をしようということで連携して取組を今しているところでございますけれども、ちょっとベストセラーについては、できる限り上限、今は全館で30冊ってしてるんですけれども、あとは寄贈いただいたりもするので、まだ多いところもありますけれども、その辺りベストセラーに偏ると、一時借りれますけど、ちょっと時間がたてばみんな借りなくなったりとか波もあるのでその辺、10年20年先も読んでもらえるような本も含めていろいろ考えて丁寧にやっていきたいと思います。

- 分科員（赤田かつのり） いや、どう言うのかな、どんな本かなと期待しても実際に本を手にとってみると何やいうこともあるんです。だからやっぱり十分に、そういう人気のある本というのは確保するぐらいが喜ばれると思います。

それで、次に図書館協議会のことを聞きたいと思います。

住民から本当に喜ばれる地域図書館にしていくために、図書館協議会、これは図書館法に定め

られてるものですけども、この協議会の在り方を見直す必要があると考えます。全ての地域図書館に図書館協議会を設置し、地域住民も参画して、地域の実情や歴史などに応じた特色のある図書館運営をしていくべきだと考えますが、いかがでしょうか。

- 中山文化スポーツ局中央図書館長 地域の図書館におきましては、利用者である地域の方々と図書館スタッフの距離がかなり近うございます。ですので、日頃からのカウンターやフロアでじかに御意見を頂戴すること多いことでございます。また、館長への手紙ということで御意見箱も設置していろんな意見をいただいているところでございます。

また、地域の図書館におきましては、図書館内にとどまらず外でのイベントもいろいろやってございまして、行政とか地域の企業、商店とかいろんな施設、あとNPO法人など、連携する場に赴いたときは図書館についての御意見をいただいて、ともに読書推進の事業を実施しているところでございます。これらの取組を通して図書館人数の把握を行って、いただいた御意見については可能な限り運営に反映するように努めているところでございます。

委員御指摘のとおり、図書館協議会とは図書館法に基づいて設置する規定でございます。神戸市の図書館協議会では、中央図書館だけじゃなくて地域図書館を含めた個々の図書館についての評価、運営の状況と図書館と地元の関係機関との連携などについて御意見や御評価もいただいているところでございます。ちなみに図書館協議会の評価は非常に高いものをいただいているところでございます。

このような状況を踏まえまして、現状の地域図書館におきましては、地元の声をよく伺いながら運営を行っているということができていると考えてございますので、中央図書館・地域図書館と個々に図書館協議会を設置する予定は今ございません。

- 分科員（赤田かつのり） その図書館協議会、私もちょっとネットで調べて議事録を見たぐらいのことなんですけどね。1時間半って決まっていますよね。年4回でしたかね。合計すると6時間で、これで委員の人数とか構成も10人もいない人数やったかな、限られてるんです。それで、全ての図書館、それぞれの図書館の特性があり、多様な要求がある。そこには働いておられる皆さんの声がある。それを十分カバーできると思えないんですけどね。だから申し上げてるんですけど、もう1度答弁をお願いします。

- 中山文化スポーツ局中央図書館長 各地域図書館、利用者に近いということはもう確かに近くて、いろんなお話あるんですけれども、その利用者の方からの要望につきましては、日頃から中央図書館と連携はしてるんですけれども、特に月1回図書館長会をしてございまして、そこで全てを出していただいて、中で議論しているということと、あとは市民満足度調査も毎年してございます。そこでも評価いただいているんですけども、そこでもいろんな自由意見欄がございまして、そこでも評価いただいて、こういった意見があるかっていうのは年に何回か開催いたします図書館協議会において外に出してやっているというような状況でございます。

- 分科員（赤田かつのり） この図書館協議会というのは、図書館長の諮問機関であり意見具申機関でしょう。だから、図書館長の会議っていうのまた違うと思うんです。その役割が。やっぱり協議会というものをつくっていることに大きな意味が私はあると思うんです。

それから、現在の委員の構成を見ましても——今現在の図書館協議会——行政と市民とのネットワークを広げ、図書館をよりよくしていくことを目的としている、そういう人たちがいます。利用者の会の図書館ネットワークというものがありますけども——おられますが、豊かな議論をしていくためにもそういった方も、個別では話をされてると、いろいろ要請されていると聞いて

ますし、私もそういう資料頂きますけども、図書館協議会に加えることも1つの案として提案しますが、いかがでしょうか。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 今図書館協議会のメンバーにはボランティア団体で活躍していただいている方も入ってございます。また、ネットモニターの市民の方も入ってございます。その辺りで一般の図書館に関わっておられる方についての委員というのは決めていっているんですけども、今議員おっしゃられたネットワークさんとも日頃からもちろんお話ししているところがございます。何かそのような形で、この委員に入らないと意見が——何て言うんですか——通らないとか、分かってもらえないんじゃないかというのは、多分ないとは思いますが、その辺り、もし何かネットワークさんもよく図書館に来られてますので、もちろん私のほうにいろいろおっしゃっていただけたら、その辺りは誠実に考えていきたいと思ひますし、このネットワークの方も、この議事録も公開してますので、御覧いただいて、何か意見があったらいつでもお聞きさせていただきたいと思ひますので、そのようにお伝えいただけたらと思ひます。

○分科員（赤田かつのり） あともう1つ別の観点なんですけど、議論を見てまして、私は職員の賃金のことや成果など、そういうことも、やっぱり働く者の観点もやっぱり協議の論議としてはないっていうのもちょっとどうかなという感じが私はしています。これ意見だけ。

それで、もう1つですけれども、今度垂水の図書館についてお聞きします。

新垂水図書館は、何度でも利用したくなるような図書館になってほしいと私自身も思っています。令和2年に調査したアンケート調査を拝見しました。400件弱やったかな、回答ありましたけども、全体の機能や雰囲気についての自由意見が多く、自習スペースが欲しいとか、静かな図書館を、子供が使いやすい図書館などは至極当然の要求だと思います。アンケート以外にもいろいろ聞いています。例えば名古屋から神戸のほうに移られた方が、向こうの地域図書館では、小さな図書館だけでも市民が提供した書籍を引き受けてくれた。いろいろ書籍の提供です。それがここではちょっとできないものかなと、そういう要望があったりとか、それからよくあるのは、座って読むスペースが限られていた。今現在は。それは新しい図書館になったら十分に確保してほしいという要望もなかなか切実なものがあって、期待も大きいし、そういうのがあると思うんです。いろんな意見を議員誰もが聞いていると思ひます。

同時に私が言いたいのは、垂水の北部にも地域図書館をつくってほしいという要望もあるんです。図書館は日常的生活圏域になれば利用しにくくなります。とりわけ高齢者や子供、障害者にとっては、より身近なところにあることが望ましいです。分館を北部に整備することも検討すべきと考えますがいかがでしょうか。

○中山文化スポーツ局中央図書館長 ちょっと初めてお伺いしましたので、分館、今は垂水の駅前の、言ってみれば垂水の方が一番便利なところに、交通の結節点でもありますし、そこでまず駅前リノベーションの新垂水図書館のリノベーションということで造ってるわけなんですけれども、ほかの図書館が必要かどうかについてはいろんな観点がございます。ほかにもまだ整備が途中と聞きますか、長い間まだ——何て言うんですかね——新しい図書館ができていりながらまだ新しいになっていない図書館も将来出てくるかと思ひます。その辺も含めてこれはじっくりと検討していかないといけないということと、図書館といたしましては、そういうところに例えばバス図書館——図書館のバスとか、あとはサービスポイントを設けたりとかいろいろ工夫もしてございますので、またその辺は、垂水の北部の方につきましても、もちろんほかの地域と同じように足りているかどうかは検討していく、研究していく必要があると思ひます。

○分科員（赤田かつのり） 神戸市の図書館の数っていうのは12かな、中央図書館を入れて。これ人口比で見ると決して多いとは言えません。令和3年度の統計を見ました。それで人口で見ますと、人口152万7,000人当時として、神戸市は12万7,200人に1館にすぎませんが、政令指定都市で、これは20市の中で14番目なんです。全国平均が約5万人に1館ですから、その水準にするぐらいの計画はするべきだと私は思います。

図書館は、学びを広げ、知る権利を保障する貴重な場であります。公共の役割を十分発揮できるように、建物や設備、そして書籍、そして職員の待遇を神戸市が責任を持って抜本的に改善することを強く願います。

それでは次に、文化ホールについてお聞きしたいと思います。

現在の文化ホールは、歴史のある周囲の環境に恵まれた場所に立地しています。設備も大変優れていることはよく知られていることです。先ほど説明もありました新文化ホール開業ですけども、開業しても、現在の大倉山の文化ホールもそのまま残して運営すべきだと思いますがいかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 赤田委員からございました新しい文化ホールができた後も現地で残してくれないかという、そういうことでよろしゅうございますか。

これずっと議論の中で建て替えがなぜ必要かというようなことは、私どもずっと説明をしてきてございます。ちょっと繰り返しになりますが、構造上バリアフリー化が全然できていないというところがあります。それから、客席の耐震、天井耐震とかも確保できてございませんし、防火の面・避難の面・出入口・非常照明・24時間換気・ホール客席の天井耐震・日影規制、こういった既存不適格が既にあります。こういったことを解消しようと思うと建て替えなければ無理なんですけども、現地建て替えは難しいというような中で、さらに、もし長寿命化をそれでも十分でないところはしたというような場合でも、多額のコストがかかる中で、もう間もなく50年を超えて、鉄骨・鉄筋ですと65年ということですから10年ほどしかない残り期間ということになります。そういったことでは、長期に残していくことが難しいということで、三宮に新しく文化ホールを建てさせていただく基本計画を議会のほうでもお認めをいただいたということでございます。

その中で、記載しておりますのは、現在の文化ホールのいわゆる跡につきましては、大倉山地区全体は、全市的な視点で再整備の検討を進めるということで、これも議会の承認をいただいているところでございまして、したがって今のところ引き続きというのは難しいと思います。

○分科員（赤田かつのり） そうは言っても、優れた構造であるんです。それで、昔宮崎市長が1976年10月には一るめいという情報誌です。その創刊に当たっての挨拶文の中で、いつも考えていることですが、スポーツをする、音楽を聴き、芝居を見る、本を調べ、散歩するということは、私たち人間の生活の中で何か格別のこと、新しいことであってはならず、むしろ日常の生活そのものでなければなりません。神戸駅の北、楠公さんの森から大倉山のふるさとの森に至る地域に中央図書館、文化ホールなど文化施設が集中しておりますが、私は今言ったような意味から、市民の皆さんがこの環境を我がものとして、自分たちの生活の中にうまく取り込んで利用してくださるようお願いしておりますという、こういう重みのある言葉がありました。見つけましたけども、いろいろ建て替えの難しさ、現実難しさいろいろあるんですけども、それは時間がかかってお金がかかっても、やっぱり文化ホールですから、これは将来のためにもこの場所をしっかりと残すということを、これをこの地域の再整備の中にしっかりと入れるということは、やっぱりそれは改めて検討すべきじゃないでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長　そういう意味では、私申し上げたのは大倉山地区全体の全市的な視点で再整備の検討を進めるということで議会の承認を得ていますので、こういった形がいいのかというのは今後考えていくことかなと思ってございます。

○分科員（赤田かつのり）　現在の文化ホールのよさというのは、多くの玄人の方々がよく知っているなと思うんです。それも以前も何回も議論されたと思うんですが、例えば演劇の方、大道具や小道具の搬入がしやすい構造だそうです、これ。戦前から戦後にかけて長く演劇界をリードしてきた名優の宇野重吉さんという方おられますが、ほか高い見識のある方の要望に応じて神戸市が、例えば大道具・小道具の搬入しやすい、段差をなくしたのかな、ちょっと——だと思いますけども、構造もかなり工夫されたということを知りました。

新しい文化ホールはというと、これは説明書にありますように、これは4階から8階の部分ということでビルの中の一角なんです。そうすると、これは演技をされる方々が物を搬入する上でもこれでいいのかということは、そういう——何て言うかな——演じる方々の視点に立って造っているかどうかで非常に疑問なんです。

それからもう1つは、これまで神戸文化ホールは営利を目的としない様々な団体の日頃の練習の発表の場として利用されてきました。音楽・演劇・それから舞踊・伝統芸能・演芸または中学校の文化祭、中学校や高校の音楽劇やミュージカル・クラシック演奏などいろいろ使われてきておりますが、新文化ホールではそういった地元の芸術団体が発表の場として活用できなくなるのではないかなと思うんですが、どうでしょうか。

○三宅文化スポーツ局副局長　新しい文化ホールでの利用がどうなるかというお話かと思います。

新しい神戸文化ホールにつきましては、現在の整備基本計画におきまして、現在の文化ホールが担ってきた機能を基本的には継承するというようにしております。ですので、指定管理者の主催事業、そしていわゆる市民の皆さんもお使いになる貸館の事業、この割合につきましても基本的には現在のホールの考え方を継承するというふうに思っております。

新しいホールになりましたら三宮に移転するということもありますので、指定管理者の自主事業が少し増えるようなことはあるかもしれませんが、これまで御利用いただいております市民の皆様が引き続き貸館として御利用いただけるような枠というのは維持できるように調整をしてみたいと、そのように考えてございます。

○分科員（赤田かつのり）　担ってきた機能を継承すると言いながらも場所が違ふんです。今の倉山のところで、かなりそういう——何て言うかな——見識のある方からの意見を受けながら、当時の市政が整備したところが大変評価されてきた。それと今度のところというのは、今度は三宮で、高層ビルの中で大ホールが中ホールあり小ホールがありやったかな、そういうふうに造ってるだけであって、単に箱物だけではないんです。やっぱり、繰り返しお聞きするんですけども、そういった本当に演じる方々の視点に立てているとは到底言い難いというふうに思えてなりません。

もう1つは、利用する人には活用できなくなるという心配があるんですけども、率直に言って利用料が上がるんじゃないかという心配あるんです。上がらないというのは断言できますか。

○三宅文化スポーツ局副局長　新ホールの利用料金につきましては、今後決定をしていくということで現在調査を進めておりますけれども、考え方といたしましては、現在の文化ホールの利用料金でありますとか近隣のホールの利用料金、また、ホールの運営経費。また、昨今の物価や人件費の上昇、こういったことを踏まえながら検討する必要があるというふうには考えてございます。

ただ、これまで文化ホールを利用されてきました市民の皆様にも引き続き利用していただきたい料金設定にはしたいというふうには考えてございます。

○分科員（赤田かつのり） それぐらいのことは絶対しなければ本当に——何て言うかな——現在の文化ホールはなくなってしまう。しかも利用しにくい文化ホールだけが残るとなれば本当に大きな損失になると思うんです。やっぱり僕たちは今現在の文化ホールを残すほうがプロからもアマチュアからも喜ばれるものだというふうに思います。

次に、最後に神戸マラソンについてお聞きしたいと思いますが、神戸マラソン2025からコースが変更することになったことは先ほども説明がありました。私にも何度も神戸マラソンが始まって以来、応募して参加をしている知人がいますけども、フィニッシュ地点の手前の急な坂道がきついいともお聞きしました。しかし、今回のコースの変更は、スピードレース化を図るためというふうなことのようですけども、その観点だけでコースを見直すのはどうかと思います。例えば、垂水区では国道2号線南側の地域住民の方、特に高齢の方からは、当日現場が混雑して、家族に何かあっても歩いて駅まで行きにくい——例えば舞子駅に行くとか——緊急時に困るとの声を聞いています。塩屋から西舞子の折り返し地点のところまでの沿道には、9時半から12時の時間帯で約11万人の方が応援に来られるわけでありましたが、その間、長時間にわたる交通規制を伴うことがあります。市民誰もが心から喜ばれる大会運営にするべきだと思うんです。ですから、競技性や経済効果に着目するだけでなく、周辺住民の生活に配慮したものにすべきだと思いますがいかがでしょうか。

○河辺文化スポーツ局部長 委員御指摘のとおりコース変更は2025大会から行います。2024大会でも、交通規制の周知につきましては、沿道の住民や事業者に対しまして、事務局員が足を運びまして、チラシを持参して説明とかポスティング、こういったことを春とか秋にお願い、協力をして回っております。

コース変更に伴う御意見、新たな折り返し地点、フィニッシュ地点、そういったところはできるだけ早い段階でお知らせできる情報をお知らせしながら御意見を伺っているところでございます。

これからも周辺住民に対しましては、市民生活、事業活動の影響も御意見頂戴してますので、御理解いただけるように丁寧に説明をしてまいりたいと思っております。

○分科員（赤田かつのり） 単に説明だけでいいのかなというのもしゃあやっぱりあるんです。もちろんそういう人たちも神戸マラソンそのものはいいことやと思っはるんです。ただ、自分たちの生活との関わりで言うたら、やっぱりすごく心配になってるので、そのところを、単に本当に説明がどこまで丁寧にやらなあかんということと、本当に必要な改善策をどうとらうとしてるのか、もうちょっと具体的な動きはないんですか。

○河辺文化スポーツ局部長 長時間の規制がかかりますので、そういったアクセスであったり歩道とか、そういった迂回路の案内とかそういったことも周知してますし、緊急車両の動線も確保するということで、やはり安全・安心に住民の方も生活していただけるように、共存できるように周知をしております。

○分科員（赤田かつのり） 心から感謝と友情ということが共感し合えるもの、体感し合えるものであってほしいと思います。

以上です。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

次に、諫山理事、発言席へどうぞ。

○副主査（諫山大介） よろしくお願いいいたします。こうべ未来市会議員団の諫山です。担当予定だった木戸議員を日々粘り強く説得しまして、こちらの審査担当を勝ち取りましたことを御報告させていただきます。

震災関連事業についてですけれども、文化スポーツ局令和7年度の予算案には震災30年関連事業が多数盛り込まれております。震災30年関連事業は、国内外からの多くの支援に対する感謝の気持ちを改めて示し、また、経験や教訓、復興の道のりを後世やほかの被災地にも伝えていくという使命を帯びているからこそ関連事業を名のっていると認識しております。文化スポーツ局の震災30年関連の各事業の内容が関連事業を名ののるのにふさわしい、5年後や10年後を見据えた未来へ継続していくものになっているのか、まずお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 委員から御質問ございました冠をかぶせるだけではないということをきちんと御説明をさせていただければと思います。

私どもの震災30年関連事業では、おっしゃっていただきましたように、復興の過程の厳しい状況の中で、人々に夢と希望を与えてくれた文化とスポーツの力、これを分かりやすい格好で多くの方々に理解していただいた上で継承していきたいというふうに考えています。これがベースとしてありまして、事業ごとに国内外からの支援に関する感謝の気持ちをお示しする。また経験や教訓を具体的にお伝えする。併せて、各被災地支援連携に図るようなもの、こういったものを、そのベースを中心に附随するような形で事業化を考えてございます。

具体的に御説明をさせていただきますと、第52回の神戸まつりでございますけれども、次世代に震災を語り継ぐ象徴的なCOMING KOB Eという事業と一緒に連携した企画を考えておりまして、これまでCOMING KOB Eの会場でしか行っていなかった防災・減災のブースであるとか被災地の物産ブース、こういったものを神戸まつりの会場に拡大展開していただきたいということで考えてございますし、三宮でフラワーロードを使ってできるということでございますので、東遊園地の慰霊と復興のモニュメントへ来場者を誘導するなど、危機管理室なども含めて、各局の協力を得ながら風化させない取組も行っていきたいと思っております。

また、国際音楽祭2025においても、30年前の'95年の8月に日本フードコンベンションというのが、当時液状化がまだひどかったポートアイランドのポートピアホテルを中心に行われたところですが、この30年前に御参加いただいた方々が30年後の今回も開催してくれることになりまして、こういった方々から各地の若きフルーティストに経験とか自分たちが見聞きしたことを伝えていただく。さらには、音楽祭の中では、フィナーレを考えておりますのが、多くの建物も含めて焼失してしまった新長田のエリアでフィナーレを行えないかというふうに考えてございまして、新長田の商店街の方々を中心にスティールパンオーケストラが結成されてございます。ここが全国のスティールパンの方々に参加を呼びかけて、カーニバルをやっておりますので、この辺りを音楽祭のフィナーレに持っていきたいというふうに考えてございます。それは30年かけてよみがえったまちを見ていただくとともに、感謝の発信もそうですけれども、各被災地の希望につなげたいという私どもの願いも込めたものでございます。

神戸マラソンに関しても同様で、これまでもいろいろやってきてございますけれども、意義を伝えていくための取組については、実行委員会で具体化を図っていきたく思っておりますし、その連携とエールという意味では、博物館で行います大ゴッホ展なんですけれども、神戸での開催の後、2026年2月末からは震災15年を迎える福島で開催をすることで事業を組んでございます。何とし

でも神戸開催で弾みをつけた上で、連携とエールを込めて福島につなぎたいというふうに思っています。

一方で、理事御指摘の5年後、10年先を見据えたというところに関しては、こうした私が今申し上げましたような思いを具体的に私たち幹部から若手職員に伝えることが非常に肝要かなというふうに思っています。30年前、当時若手でありました私たちがこの機会にしっかりとしたいと言葉と行動で事業を組んだ上で若手職員に伝えることで、未来につながるようにしてまいりたいと思っています。

○副主査（諫山大介） この30年間、様々な事業に携わって立ち上がった市民の団体と連携しながら1つ形にしていく、その形が行政の方々のメッセージになって若手職員にもなるという認識とっております。冠だけではなく実態を今お聞きしてよかったと思います。

その中で災害の経験の継承が難しくなる30年の壁という言葉もあります。文化スポーツは、その入り口として壁を乗り越える1つの役割が大きいと思っておりますけれども、若い世代に向けてのやっぱり発信性というところで、前回のヴィッセルのイベントでも、若い選手が震災について語ってましたが、この経験の検証、啓発のための有効な手法であると考えております。

最近ではワールド記念ホール40周年イベントで、松陰中学・高等学校の美術部が災害時に人々を守る防災アイテム——エマージェンシーシートという金色の包装紙を使いまして、ホールを包んで巨大なチョコレートを演出するイベントが行われました。これは中高生の参加によって同世代、災害にあまり関心がない層にも発信力が高まったのではないかと考えております。こういった震災関連事業をはじめとする様々な事業を進めるに当たり、発信力の強化という面から、できる限り若者に事業参加してもらい仕組みを取り入れていくべきと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 御質問がございました若者の主体的な参画ということでございます。

ちょっと事例を申し上げさせていただきますと、例えば先ほど申しましたCOMING KOBEBE、こちらでは大学・専門学校の学生など多くの方がボランティアとして参加して一緒につくり上げているものでございます。これまで会場内の減災ビレッジで被災地支援とか震災とか考えていただくブースを展開してきたんですけども、今回先ほど申しましたように広げていきます。この中で若者の防災意識を高める機会をぜひつくりたいというふうに思っています。

さらに、神戸マラソンで言いますと、これまでも、例えば震災の——感謝の思いを込めた絵画募集とか、それに小学生の子がメッセージを添えてランナーに送る、そういったこともやっているんですけども、ここにさらに教訓とかそういうことを分かっているような、それぞれから発信できるようなことがどんなことができるのか。これは実行委員会の中でも検討してまいりたいと思っていますし、こちらにも高校・大学からボランティアの方がたくさん参加しますので、そういった方々にどんなふうに伝えて、どんなふうに発信していただくことができるのか併せて検討してまいりたいと思っています。

また、自らの発信というところで言いますと、KOBEBEまちなかパフォーマンスのパフォーマーの方々には現役の高校生の方もいらっしゃるとか、震災の年にお生まれになられて、今被災から復興への感謝の曲を歌っておられるような方もいらっしゃって、そういった方々にスポットを当てるというのも1つ考えられるのかなと思っています。

委員から御紹介いただきましたワールド記念ホールの関係で、松陰中学校・高等学校の美術部の学生さんの企画を実現することができたんですけども、本当に私自身が感じたのは、彼女らが

自ら企画して実施していくまでの——何て言うんですか——粘り強いところ、それからネーミングなんかも含めて、やはり若い人の感性をいかに取り入れることができるかっていうのが、いろんな層に響くかどうか、そういうことにつながるんだなというふうなことを改めて感じた次第でございます。

そういったことを今後もこの局の事業、様々な事業ございますので、通じながら発信していきたいと思っています。

○副主査（諫山大介） COMING K O B Eがそもそも何で始まったかという原点をやはり来てもらう演者さんだけでなく、聴衆の方にも伝えられるいい機会だと思っておりますし、松陰中・高の美術部は、六甲ミーツ・アートや下町芸術祭でそれぞれ成果が出て、いろんな接点があったと思うんですが、まだまだ市内にもこういう魅力的な部活とか団体もあるように思いますので、上手にこれを事例としまして巻き込んでいただければと思います。

では次、K O B E 国際音楽祭2025についてなんですが、4年に1回開催される神戸フルートコンクールは、8年前の第9回からは市が財源の投入の在り方を巡って多くの議論が重ねられました。4年前の第10回、せっかく盛り上がると思いながらも、コロナ禍の影響で審査がオンラインになるほど様々な議論、葛藤の中での開催だったと思います。第11回となる今回のコンクールはこの第9回を開催する際に寄附などの市民活動を展開された皆さんの思い、すなわち多くの人々を巻き込んだイベントとして盛大に開催され、世界に誇れる、もっと発展していくようにという原点を確認しながら開催するものとなります。これまでの経験を生かして市民に浸透し、また文化的にも経済的にも市民に還元される工夫が講じられているのかお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 理事から御指摘をいただいたとおりでございます。2017年にちょうどそのとき第9回がございまして、ここで音楽祭を行ってその成果が非常に上がったというふうに私どもも感じております。その成果を受けまして、以降今日まで市内に34か所にストリートピアノを設置したり、K O B E まちなかパフォーマンスの制度を始めるなど、多くの方々が町なかで様々な音楽を聴き、楽しめるまちになるように文化行政を進めてきたつもりでございます。今回はこういう当時から変わった環境だとか制度も生かした上で、より多くの方々に還元できます音楽祭になるように取組を行いたいというふうに思っております。

その1つとしては、フルートだけではなくて、ジャンルを問わずに様々な音楽を、先ほど申しました様々な場所で行っていくようなこと。具体的には、世界で活躍する音楽家の方々から地元で親しまれている音楽家の方々、こういった方に至ります幅広い鑑賞機会の提供を市民の方々にしたいと思っておりますし、また、市民の方々が御自身で参加されるようなプログラム、こういったものを通じて多彩な音楽を享受できる環境をつくりたいと思っております。

ほかにも、この4月18日から神戸空港が国際化でつながってまいります。韓国や台湾などの東アジアは非常にフルートが盛んなところございまして、フルートコンクールの応募者数も大変多いところがございます。具体的には、韓国ではフルートを通じた音楽家の相互交流を行うことで音楽祭への誘客を図りたいというふうにも思っておりますし、関係局とも連携した上で、それぞれの国でのプロモーションにもつなげたい。さらに先ほど申しました全国のフルーティストが集まる大会もございます。それは大会のみにとどまらず、音楽祭への参加も呼びかけることで長期間泊まっていただくようなことにつなげられないかというふうに思っておりますし、神戸での経済効果にもやや期待をしたいというふうに思っておりますが、何よりも、今回音楽祭を通して市民の皆さんに喜んでいただけるような結果をしっかりと残すようなことが重要かと思っ

てございますので、今後企画の具体化に向けて創意工夫をやってまいりたいと思っております。

○副主査（諫山大介） 私はちょっとフルートコンクールを軸に、フルートにそんな触れる機会はなかったんですけども、お知り合いの方にいいですよって言って、行ってすてきなコンクールだになっていうのを実感しましたし、かつ4年に1回なので市民になかなか浸透しづらいということも多く工夫があったと思います。特に今回も国際音楽祭という初めての取組ということで、どういものがあるのか、全体像も含めてしっかりPRしていただいて、参加する方だけでなく通りすがりの方も面白そうだなと参加——参加っていうか聞ける、そういう取組も期待したいと思います。

再質問します。先ほどの1問目と同じなんですけど、やはりこれも若い方にどう参加していただくかということで、この神戸国際フルートコンクールは世界三大フルートコンクールの1つに数えられる大変レベルの高いコンクールとお聞きしました。そして、実際に聞いてそうだなと実感したんですが、だからこそ中・高生をはじめとするユース世代がコンクールや演奏家を身近に感じたり、あるいはコンクールと連動した企画に参加できる仕組みというのが必要ではないかと思っています。音楽祭の中に積極的に盛り込んでいくと思いますけれども、この辺りはいかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 理事御指摘の件は私も同様の思いでございまして、世界のトップレベルを神戸のユース世代に体感していただきたいと思っております。そのために行っていこうと思っている具体的なことを少し御紹介をさせていただきますと、コンクールの出場者、これが各学校などにアウトリーチに行くようなこと。それから町なかでの演奏を行うようなことも考えてございます。ほかに、市内の中・高の吹奏楽部・弦楽部・合唱部、こういった子供たち・生徒たちが主役になるような格好で、夏休みを活用してホールや町なかでのコンサート企画をしてございます。スポットライトを中高生に当てて、彼ら自身が音楽祭に参画しているという意識を持っていただきたいというふうに考えてございますし、併せまして500人規模の大規模なアンサンブルを考えておるんですけども、ここにもかつてフルートコンクールで上位入賞された方にも参加していただくんですけど、この方と一緒に共演いただくような格好で高校生以下を無料で呼びかけをしたいというふうにも考えてございます。さらに、コンクールの本選、予選、それから音楽祭の中のホールの事業、こういったものについてはアンダー25のシートをつくるとかで、例えば通常の入場料を半額以下ぐらいに抑えるなどして御来場いただきやすいような格好をつくってまいりたいと思っております。

このように中高生をはじめとしたユース世代、これが音楽に親しんで、そして刺激を受けてほしい。併せて成長していただければというのが今回も音楽祭に求められている意義だというふうに感じておりますので、そういった企画に関しては、様々な格好でしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

○副主査（諫山大介） そうですね。楽器をされてる中高生にとっては、世界トップレベルのものが4年に1度とはいえ神戸で間近で見れるといういいチャンスだと思いますので、先ほどのアンダー25、決して無料ではないところを安くされるということなので、そういう機会もぜひ増やしていただきたいと思います。

コロナ禍は、特に吹奏楽が文化祭がなくなったということで、町なかで演奏会していたと思います。箱でやると私たちも見に行けないんですけども、外でしていただくと気軽にできますので、町なかのどこかがすごい盛り上がってるなという、まち全体で盛り上げるいいきっかけにして

いただければと思っております。

それでは3問目です。中学校部活動の地域移行についてなんですけども——地域展開ですかね——本会議でも様々な意見が飛び交って、やはり先がなかなか見えないからこそ不安であると。答弁のほうもこれからしっかりやっていくいう、御指摘を踏まえてやっていくってことなんですけど、今回、文化スポーツ局においても関連予算が計上されておりました。その1つは大会運営組織の構築に向けた調査・検討というのが掲げられておまして、これに取り組む背景や、前提として大会運営組織についてどういった実態があるのか。また、令和7年度は具体的にどういった調査・検討するとか、こういう辺りをお伺いいたします。

○**檀特文化スポーツ局局长** まず、中学校の部活動の大会運営促進の現状ということなんですけれども、中学校の運動部の大会については、種目によって違いはありますけれども、主に全国大会へつながる神戸市中学校総合体育大会、これが6月から7月に開催されております。神戸市中学校新人大会が9月から11月に開催されております。現在は神戸市中学校体育連盟が主体となって大会運営されておまして、大会の役員や審判などの大会運営は主に部活動顧問である教員が担っておられます。

文化については、例えば吹奏楽部なんですけど、神戸市吹奏楽連盟が中学生と高校生の部を同日開催するような形で、兵庫県吹奏楽コンクール神戸地区大会、兵庫県アンサンブルコンテスト神戸地区大会といったことを実施しておまして、こちらも教員主導で運営をされております。

地域移行によって教員の関わり方が変化することは想定されますことから、新たな組織の在り方を検討する必要があると考えております。

そのために大会運営組織の構築に向けた調査・検討を実施したいと考えておまして、具体的には、組織運営の在り方について、これは種目ごとに中学校体育連盟、それから競技団体など関係団体との意見交換、調整を行いながら、K O B E ◆ K A T S Uが本格実施となる地域移行後——2026年秋以降——の大会開催に向けて必要な人員や費用を洗い出すことで可視化をしまして、市内において実現可能な大会の在り方や運営組織の構築に向けた調査・検討を行ってまいりたいと考えております。

○**副主査（諫山大介）** まずはどういったものになるのか、競技ごとに形態は違うということで、まず白日の下にやって何が問題点なのかを議論の俎上にのせるっていう認識でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

競技団体によって本当ばらばら、硬式テニスなどは中体連よりも団体が強かったり、サッカーっていうのもクラブチームが強かったりとか、その他、吹奏楽のは私ちょっと分からないですけど、そういう教員の先生もすごく関わってるということですから、もちろんふだんの平日・休日の部活の在り方も、やっぱり試合とかコンクールがあって、モチベーションがあってこそですし、県大会・全国大会がどうつながるかっていうのはやはり気になるところでございます。県・全国出る人は一部かもしれませんが、少なくとも神戸市の大会の運営についてはどうなるか。阪神間だけじゃなくてほかの地域はまだ部活動も残っているところもございますので、この辺りは教育委員会のところでも質問したいと思うんですけども、そういった役割は認識させていただきました。

先ほど述べたものと重なりますけども、文化スポーツ局は、教育委員会との役割分担の下、大会の調査・検討に取り組むということはまず評価させていただきたいです。

実際に調査・検討を進めるに当たりまして、現在の部活動や大会運営についての詳細な実態の

把握、部活顧問などの関係者との意見交換はまず不可欠なんですけども、もちろん教育委員会との連携があってこそだと思うんですが、この辺りは十分に行われているのかお伺いいたします。

- 檀特文化スポーツ局局长** 理事御指摘のとおり、実態の把握については、やはり教育委員会としっかり連携していくことが必要であると考えております。そこで、これまでもK O B E ◆ K A T S Uの推進については、両局幹部での話し合いを何度も行っております。それから実務面でも情報共有、意見交換を行ってきたところでございます。

例えば教育委員会と神戸市スポーツ協会が競技団体に対してK O B E ◆ K A T S Uの制度説明、それから大会運営などについて意見交換を行ってきたところでありますが、その内容についても情報共有を行いながら検討を進めてきたということで、教育委員会との意見交換などを踏まえながら、競技団体を所管する文化スポーツ局としても文化・スポーツ振興の観点からK O B E ◆ K A T S Uの取組を推進する事業として、大会の調査・検討に取り組むことを提案させていただいたところです。引き続き、教育委員会と緊密に連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

とりわけ移行期においては、子供たちが不安を感じないように丁寧な対応が必要と考えられるために、さらなる連携・協力が必要と考えております。今後も教育委員会と一体となって進めてまいりたいと考えております。

- 副主査（諫山大介）** 市長部局と教育委員会との連携は大きくうたわれてますけど、本当にどこまでできるのか、まだ全体像が見えない中で難しいところあると思いますけども、文化スポーツ局の知見をぜひ生かしていただきまして、いい形にできるようよろしくお願いいたします。

それでは最後です。もう時間もたっぷりありますけども、早めでも結構です。

ポートアイランドスポーツセンターの再整備です。これもフルートコンクールの一般質問を最初させて——平成27年にさせていただいたときに、実は王子のスタジアムとかポートアイランドスポーツセンターも大分古いですから見直しもお願いしますと要望に近い質問させていただいた私の原点であります。ようやく建て替えが現地で期待していただんですけども、本当にいろんな状況で大変な中、前に進まないというところなので、そういう意味でやっぱり現在地は確認したいなという思いはございます。

我々には本会議で示されて以来、様々な検討・議論を経て令和4年8月には再整備基本計画が作成されました。昨年度にはP F I方式による運営者の公募を行われましたが、残念ながら価格や人材確保等の面で折り合わず応札がなかった。これも全国でこういう流れであることは認識しております。再度の公募に向け、令和7年度は整備内容・整備手法・スケジュール等について調査・検討を引き続き行うとございます。具体的にはこういったことに取り組むのかお伺いいたします。

- 檀特文化スポーツ局局长** まずちょっと現状のことについて述べたいと思います。ポートアイランドスポーツセンターの再整備につきましては、昨年度入札不調になりまして、今後再公募に向けて検討を進めているところでございます。令和6年度につきましては、整備内容・整備手法の見直しについて検討しておりまして、整備内容については、新しい施設にどのような機能が必要であるかといったような観点で関係者の意見を聞きながら、観客席数——仮設席の見直しでありますとか、サブプール・サブリンクの見直しでありますとか、そういったことについて検討を重ねております。

事業手法につきましては、複数の民間事業者へのヒアリングを行っておりまして、あるいはア

ドバイザリー事業者に意見を伺うなど、そういったことを行っておりまして、前回の公募と同様のPFI方式、これが支払う金額に対して最も価値が高いサービスを得られるというような試算結果が出ております。

それからまた、施設の運営期間が長期にわたることから、事業者の方は将来の変動リスクを考慮して、変動リスクを下げるために過大に見積りを出してくるというような傾向が強いので、光熱水費でありますとか大規模修繕費については公募の対象外として、実際に必要が生じた際に実費で精算していくということが妥当ではないかというような状況になっております。

それからさらに、事業スケジュールに関しては、複数の民間事業者にもこれもヒアリングを行っているのですが、特に建設業界の人手不足、それから資材高騰の影響が非常に顕著でありまして、今すぐには応札が見込めないというような状況になっております。これらの6年度の検討結果を踏まえながら、令和7年度におきましては、整備内容や整備手法、スケジュールについて改めて有識者や市民の皆様、それから利用いただいている方の意見などを伺いながら精査をして、令和7年度中に再整備基本計画の一部改定を行うとともに、建設・設備業界の動向などを注視しながら再公募の時期を的確に見極めてまいりたいというような状況でございます。

○副主査（諫山大介） 基本建て替えて前向きな形だと思いますので、具体的に進めていただきたいと思います。

令和4年8月の基本計画策定に至る過程はゼロからの検討でした。当時たくさんの要望とかがあったと思うんです。今回の再検討は一応作成された基本計画がベースにあるがゆえに、以前お聞きしたサブリンクをなくす、ちょっとなくしてコスト——何ですかね——ダウンサイジングしていこうという流れだと思っておりますが、スケート面に関してはHAT神戸に民営民設の通年型アイススケートリンクっていうのが、当時は考えてなかったここができることになっております。外部要因も変わりました。このような中、各種目の競技団体の関係者の間で意見が異なる部分がまた新たに生じてくると思いますが、これ1つのものにまとめるということに向けて、どのような視点で意見交換をしていこうと考えておりますか。

○檀特文化スポーツ局局长 前回公募するに当たっては、基本計画策定に向けて、全部で4回の有識者会議を開催しまして、競技団体や学識経験者、市民委員などから意見を伺いながら、令和4年8月に基本計画を策定したところでございます。

このたびまた再公募に向けて、改めて先ほど申し上げたような整備内容、整備手法などの見直しを行いながら進めていくわけですが、再度有識者の意見をいただくような場を設けていきたいというふうに考えております。

理事御指摘のとおり、一旦策定された基本計画の見直しを行うことについては、いろんな立場の方がいらっしゃいますので、競技団体・競技者・市民・学識経験者、いろんな立場の方から考え方があってと思いますので、各委員から丁寧に意見を伺いながら進めていきたいというふうに考えております。

HAT神戸の通年型アイススケートリンクについても令和7年6月下旬ぐらいから供用が開始される予定というふうに聞いておりまして、その動向も注視しながら進めていく必要があるというふうには考えております。

ポートアイランドスポーツセンターについては、水泳・スケート競技・一般利用・全国大会を含めた大会利用、様々な利用が想定されますことから、それぞれの方が利用しやすい施設の整備ができるように丁寧に御意見を伺いながら事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

○副主査（諫山大介） それぞれ競技団体、ちょっと私も一部のところへ言ってしまうとそこばかりになりますので、今日はあえて伏せますけれども、その中でせつかく最初の基本策定をベースにしながら、試合運営とかによくないことが起きないように形にできればと祈っておりますし、今日はちょっとお聞きしないですけど、有識者会議ではいつ着工するとか、有識者会議では発表されますから、いつ着工予定であるとか。そこはどうでしょうか。

○檀特文化スポーツ局局长 いつ着工するか、いつ公募するかというところについては、業界の状況などを慎重に見極める必要があるので、そういうところで発表できればいいと思うのですけれども、それはちょっとその状況によつて的確に判断していきたいというふうに思います。

○副主査（諫山大介） 承知しました。有識者の方も議論しやすいベースはつくっていただければと思っております。

質問のほうはもう終わります。最後、コメントですけど、第9回神戸国際フルートコンクールの存続がかかるとき、存続を願う市民グループの夕方の会合に、私議員のなり立てで、右も左も分からないまま参加させていただきました。そのとき課長時代の宮道局長も毎回参加されたことが懐かしく思います。立場、文化は違いますが、神戸市の文化・スポーツの発展に相互に寄与できればということを書いて今日終わらせていただきます。

以上です。ありがとうございました。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

次に、平井委員、発言席へどうぞ。

○分科員（平井真千子） よろしく願いいたします。まず、青少年科学館についてお聞きいたします。

青少年科学館は、令和5年度より大規模リニューアルを順次実施しており、本予算案では、2期目として第4・第5展示室の改修を実施するとともに、令和8年度以降に予定している第3期リニューアルに向けた調査・検討を行うとされています。開館から40年を経て、展示を陳腐化させないようにと意欲的に取り組まれていることは評価いたします。ただ、科学館は、延べ床面積が1万2,000平方メートルを超える広さがある。また、5階建てで隅々まで見て歩くのはなかなか大変なものがあります。また、構造が本館と新館に分かれており、自分の現在地や順路が分かりにくく、どこに行ったら何を見たらよいのかが非常に分かりにくいのが難点と感じております。校外学習で来る場合は観覧の目的やコースについて先生が指導してくれるのでまだ見れるのかもしれないですけども、個人の来館者も楽しみやすいように展示室を集約したり年齢別やテーマ別の分かりやすいコース提案をするといった工夫もリニューアルに合わせて取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

次に、地下鉄海岸線の若手アーティストの作品展示についてです。

令和7年度の新規事業として、地下鉄海岸線の駅に若手アーティストの作品を展示し、さらには販売につなげる事業が予定されております。駅の魅力を高め、なおかつ若手アーティストの支援につながるととても素晴らしい企画だと思います。

実際の運営に当たっては、公募により委託事業者を選定する予定と聞いております。神戸を拠点として地道な活動をしている若手アーティストを応援する企画となってほしいと願っておりますが、どのような事業者をどのような基準で選定しようとしておられるのかお伺いいたします。

次に、ストリートピアノについてお伺いいたします。

令和元年以降、設置を進めてきたストリートピアノですが、現在の設置数は34台に上り、全国

的に見てもストリートピアノの多いまちとなっております。街角で不意に演奏に出会えるという楽しさに市民も親しみを持ってきたように思いますし、また、それが神戸の特色になっているというのが非常によいことだなと感じております。

ですが、最近は新たな設置についてお聞きをしておりません。地下鉄海岸線においては、全駅にピアノが設置されていることが特色となっております。ストリートピアノによるまちの彩りをさらに広げるために、西神・山手線においても設置箇所を積極的に増やしてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

次に、神戸文化ホールについてです。新しい神戸文化ホールについては、さきの本会議で、大ホールの内装に係る議案が可決をされ、整備が具体化しつつあります。また、本予算案でも、管理運営計画の検討や開館に向けたソフト事業の企画検討を行うとされており、2028年の開館に向けて着実に進展していると実感しております。

ただ、多くの市民にとっては、そういった過程が見えにくいことから、まだ十分に新しい文化ホールができるということについて浸透してないと感じております。

新しいホールは、神戸の文化芸術のさらなる振興という点においても、また、都心・三宮再整備という点からも目玉となる事業でありますので、多くの市民の皆さんに注目していただきたいものです。

新ホール開館時にどのような公演や企画を行うのか。市民の関心や期待を醸成するような検討の進め方が望ましいと考えますが、どのように取り組まれるのかお聞きをいたします。

最後に、K O B E ◆ K A T S Uについてお聞きいたします。

K O B E ◆ K A T S Uの活動団体の第1次募集では620件の応募があり、今後登録に向けた審査をしていくとのことでした。クラブの数や質、また地域的な偏在についてまだまだ課題がございます。教育委員会としては、今後細やかに調整や個別の働きかけを強化していくということです。先日の代表質疑でも、吉田議員からこうした課題に神戸市一丸となって取り組むべきであると指摘をさせていただきました。文化スポーツ局としても、先ほども指摘があったところですが、各種スポーツの競技団体や、また文化芸術団体との関係が既にあるという強みを生かしてともに取り組んでいくべきと考えます。文化スポーツ局と教育委員会の間で密接に現状を共有し、足らずを補っていくことが必要であります。今は教育委員会として完結して取り組んでいくという方針を持っておられるようでございますけれども、ここは局長自ら積極的に意見交換や情報交換を行う必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

以上、よろしくお願いします。

○宮道文化スポーツ局長 平井委員からございました。5点いただきましたが、青少年科学館のリニューアル、海岸線の若手アーティストの関係、新文化ホールと部活動の地域移行、これ私のほうから御答弁させていただきます。

まず、青少年科学館のリニューアルでございます。

おっしゃっていただいたように非常に大きな建物で、1万2,000平米ございますので非常に大きいところでございます。40年たってるんですけども、例えば呼び名がいまだに本館と新館と言ったりとか、呼び名自身にも問題があるのかなというのを感じております。

今回のリニューアルでは、大きな方針としまして、新しい——今の名称で言いますと新館2階の第4展示室と言っています神戸の科学と技術、これと3階にあります第5展示室、生命の科学、これを2階に整理・統合しようということで、展示室を6つから5つに集約しようというふう

に考えてございます。そうすることで、今の呼び方ですけど、本館から新館へ全て展示室を一筆書きで見て回ることができる分かりやすいルートが設定ができるかというふうに考えております。

あわせて、これまで部分的なリニューアルを重ねてきたことがちょっと原因となっておりますと思いますが、統一感がなくなっているサイン。こちらのほうも抜本的に見直した上で、おっしゃっていただきましたように、私自身も今自分がどこにおるのかっていうのはなかなか分かりにくいときがあります。自分がどこに、どの展示室にいるのか、目的の展示室にはどう行けばいいのかが分かるように準備を進めていきたいというふうに考えてございます。

さらに展示物の構成も、非常に展示数が多いことから込み入った格好になっているのも分かりにくい1つかと思ってございます。その意味では、各展示室のテーマ、これに沿いまして中心となるシンボリックなコア展示、これをメインとした上で、その周辺に関連するような展示を置いて分かりやすいような形に何とかしたいと思っております。その際には展示数もやっぱり減らして、視覚的にも見えやすいような形をつくりたいというふうに思っておりますし、御指摘いただきましたお勧めコース、こういったものもいろいろ考えてまいりたいというふうに思っております。

次に、海岸線での若手アーティストの作品の展示ということでございます。

今回の事業では、地下鉄海岸線の壁面を活用して展示することで、海岸線全体が1つのミュージアムとして周遊していただけるような、そういう仕掛けをつくりたいというふうに思っております。さらにその展示作品、ここにちょっと工夫をしなければいけないかなと思ってございますが、アーティストのホームページとか、例えばその作者の作品をオンラインで購入できるような、そういったプラットフォームができればそのQRコードなどを掲載する、こんな仕組みも導入しまして、私たちとしてはアート作品を購入するということになりますといささかハードルが高いような印象をどうしても持ってしまいますので、そういう心理的なハードルを下げた上で、若手アーティストの制作の支援につながるような、そういったこともしてまいりたいというふうに考えてございます。

事業者の選定、求める業務のところでございます。若手アーティストの支援、それから海岸線の活性化を実施するに当たって、1つはやっぱりアーティストの選定が重要かと思っておりますし、そういうディレクションも必要かと思えます。それには必要な専門的な知見もありますが、もう一方でプロモーションですとか話題性を生み出す力、こういうふうなものも必要かなというふうに思っております。あまり偏った形にならないためにも、そういう意味では各地で現在も行われていますアートフェア、これがいろんなギャラリーを集めた形で行っております。例えばこういう実績があることが私たちにとっては望ましいのかなというふうに思っておりますし、そういう事業者を公募し、選定することで、幅広くアーティストの支援が可能になるんじゃないかと、そのように考えてございます。

3点目で新しい神戸文化ホールのことでございます。

御指摘を賜りましたように、この文化ホール、私たちの文化芸術のさらなる振興においても、また本市としても三宮再整備という点についても、私たちの局にとっては新しいホールと新しい三宮図書館、これが市民に関わりの深い目玉というふうに考えております。時期を捉えた上で、例えばイメージパースを用いて市長会見を行うなど、これまでも広報はしてきましたが、都心・三宮再整備の大きな事業の中でなかなか存在感が示せていないというのは事実かなというふうに思っております。7年度の取組に関しましては、新しいホールに関する情報をどれだけ多く

の方々にどういう機会を知っていただくかということについて、工夫をしたいと思っております。これまでもパブリックコメントとかを通じた上で複数回、計画段階から聞いてきてますが、やはりこれではなかなか分かりにくいというのがあります。より具体的に分かりやすい方法でお知らせをしていきたい。例えば、神戸文化ホール——今のホールのホワイエや各区の文化センター、こういったところでコーナーをつくった上で、新しいホールの完成総パースなどに、どんな点が新しいホールになると変わっていくんだというようなことを短いフレーズで紹介したようなものでパネル展示をしていくようなことも、身近な場で目に触れていただく機会を数多くつくることとして重要かと思っております。

あわせまして、その際には機能連携も図れると思っておりますので、図書館に関しても情報の発信もしていきたいというふうに思っております。

お知らせするだけではなくてお聞きをしたいことも実はございまして、新しいホールでこんなものを見たいというような御意見、またはプレーヤーとしてこういうことをやってみたい、こういう御意見を分かりやすく御紹介した上でお聞きができればというふうに考えてございます。知っていただいた上で声をお聞かせいただくこと、こういったことを併せまして、少しでもホールを、やっぱりわくわくして待っていただきたいというふうに思っておりますので、そういう夢や期待感の醸成に向けたような取組にしたいというふうに考えてございます。

最後に、部活動の地域移行に関して、局長自らということで御意見を賜りました。

これまでも私ども文化スポーツ局は、中学生の時代に文化芸術やスポーツを生涯にわたって楽しんでいく、このための基盤形成というのは、私たちの局として非常に重要だというふうに考えております。そうしたことから積極的に関与をしてきたつもりでございます。

私も長くこの仕事をしておりますので、私のところにはK O B E ◆ K A T S U に不安を持つ競技団体、関係者の方から頻繁に不安の声が寄せられてきておりました。そうしたこともありまして、今年度、私自ら教育長や教育委員会の幹部と何度も意見交換を直接させていただいて情報交換の機会も持ちました。それは教育委員会がどこまでゴールを考えているのかみたいな全体像を聞かせていただきたいということで積極的な意見交換をさせていただきました。あわせて、そこで関係者からお聞きしている不安点などもフィードバックしてきたところでございます。そうした意見交換を踏まえた上で、令和7年度の予算として提案をさせていただいておりますが、K O B E ◆ K A T S U の制度の中で、ちょっとこれを上から俯瞰して見ますと大会が抜けているなどか指導者の養成をどんなふうにしていくのかっていうのが抜けているんじゃないかというようなことで、私どものほうから改めて提案という形で、我が局として予算要求させていただいたところでございます。

今後は実務的なやり取り、これはもちろんのことですけれども、局長や幹部が必要に応じて率直な意見交換を行っていかないと、地域移行に向けて発生する様々な課題の解決にはなりにくいのかなというふうに思っております。

教育委員会が行うということではありますが、私どものほうも積極的に関与しながら、特に移行期、この4月に入学する1年生は来年の2年生になった9月以降、どこに入っているのかという問題もあります。この辺りのところをしっかりとフォローができるような形で、力を合わせながら、教育委員会とともに地域移行の実現に向けてしっかりやってまいりたいというふうに思っております。

他の件につきまして、ストリートピアノは副局長からお答えさせていただきます。

○三宅文化スポーツ局副局長 私のほうからストリートピアノにつきまして御答弁申し上げます。

まず、ストリートピアノにつきましては、市民1人1人が生涯にわたりまして文化芸術に触れ、楽しみ、学んでいただくとともに、町なかにピアノの音色があふれるような環境づくりを目的として設置をしてまいりました。平成30年度から毎年ピアノを増やししながら、現在、委員にも御指摘いただきましたが、市内に34台のピアノを設置しているところでございます。

また、地下鉄海岸線につきましては、沿線の活性化事業の一環ということで、特徴を出すために10駅全駅に設置をしておるところでございます。

また、委員から御提案のありました、地下鉄の西神・山手線につきましては、現在、新神戸駅と新長田駅、それと西神中央駅の3駅に設置をしているというのが現状でございます。

このストリートピアノを設置するに当たりましては、日常的な管理を設置した場所をお願いしております。また、スプリングラーの設置が義務づけられることでありますとか、施設利用者の動線を確保する必要があるなど、設置にはそれぞれ条件に合った場所を探すというようなこともございます。

また、設置する限りは、できるだけ御利用いただきたいというようなことも考えてございます。

現状かなり台数も増えてきているという状況ですので、これからさらに目標を掲げて台数を増やしていくという計画は現在のところはございません。

ただ一方で、ここに置いてほしいといったような地元、地域からのお声があった場合は、御提案いただいた西神・山手線におきましても、交通局とも相談をし、物理的な条件など具体的に検討してまいりたい、このように考えてございます。

以上です。

○分科員（平井真千子） まず、ストリートピアノなんですけれども、別に設置を否定されているわけではないので頑張っていたきたいと思うんです。西神・山手線ということでは言わせていただきましたのは、海岸線もそうですけれども、押しなべて沿線がやっぱり活性化が必要、人口減少の課題などもあるような地域でございますので、駅にピアノがあるっていうのがちょっとした応援として考えていただければありがたいと思っております。

また、駅っていう空間が硬質な壁に囲まれているからか知らないですけど、どこもやっぱり駅にあるピアノの響きがすばらしくて、弾いてる方も非常に気持ちがいいというものもあると思いますので、非常に魅力を感じているところですのでよろしくお願いいたします。

そして、再質問させていただきますのが青少年科学館ですけれども、今、本館・新館っていう名前も改めていかれるっていうその中で、新たな順路設定やサインもしていかれるということで期待をしたいと思います。確かに新館って言っても、もう新館もすごく古いので、本館・新館と言われてどっちがって思いますよね、来館者は。そこに名前つけていくというのも必要なことかなと思います。

展示の内容が本当に本館と新館でよく整理をされていれば、例えば本館は宇宙館、地球館とかいうような名前で、新館が——何だろう——神戸とか、そういうふうに整理されていれば非常に分かりやすいかなと思うんですけど、そこもなかなかゾーニングの難しさというのは今後あるかと思いますが、整えていただければと思っております。

また、名前で言いますと第1展示室、第2展示室という名前も非常に分かりにくいと思います。例えば第2展示室が3階で第3展示室が2階とかいう、もしかして最初はそういう順路になっていたのかなと想像はされますけれども、ホームページなんか見ましても第1展示室の中身はこれ

です。第2展示室の中身はこれですって言われて、でも第1展示室と言われてもそれがどこにあるのか分からないので、もうそれやったら普通に本館1階はこれです、本館2階ですって言うてくれたほうが来館者も非常に分かりやすい。今のままだと展示室の内容を調べて、それが一体どのフロアなのかっていうのをフロアマップを見て突合しないといけないっていうような、もう非常に不便を感じておりますので、その辺もぜひ改善をしていただきたいと思いますので、いかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 おっしゃっていただきましたように40年たって新館と言っているのかもしれませんがなものであるかと思っておりますので、本当は大丸さんが海側・山側ってやっていて、非常に神戸の人に分かりやすいんです。ただ、ポートアイランドにありますので、四方が海なのでどうするかなということで、ただ北館・南館とかそんな名前などがつけられたらというふうに思っておりますし、第1展示室・第2展示室、全然これ私も分からないんです。数字の展示名称をテーマが分かる名称に変えたい。これも変えます。例えば小さな子供たちが今遊べるような場が、今の言い方ですと、新館第6展示室になってるんですけども、例えばそこは小さな子供たちが遊べる公園みたいなもんだということで、サイエンスキッズパークとか、そういう名前をつけると、例えば北館の1階サイエンスキッズパークみたいな格好ですと少しでも分かっていたいただけるのかなと思っております、一言で、名は体を表すというふうに申しますけども、そういう通じるような名称をつけてまいりたいと思っております。

○分科員（平井真千子） そのとおりに進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、今後もお勧めコースなども設定していくということの答弁もありましたけれども、現状ではホームページでお勧めモデルコース2つ提案されているんですけども、もう2つしかありませんし、そもそも1階・2階しかお勧めする展示がないっていうような案内になっております。案内すべき展示が今の状態ではあんまりないのかなっていうのもちょっと寂しいと思うんですけども、繰り返しになりますけれども、やっぱりリニューアルを繰り返してきて、非常に全体的なコンセプトがばらついていて、コンセプトって書いてあるんですけどもばらついてるなとは思っていますので、直ちにこの2期の中で抜本的にっていうことは難しいと思っておりますけれども、今後の第3期のリニューアルにおきまして、展示を詰め込み過ぎることなく、科学館のコンセプトに必要な展示をちょっと絞って考えていかれてはどうかと思っております。それも、どんな展示がいいのか本当に人の好みによるなど、この間も私もいろんな委員の声なども聞きながら思ったんですけども、好みに偏ることなく一貫性のある学びが得られるような館となりますように期待をしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

次に、地下鉄海岸線の作品展なんですけど、アートフェアなどを既にされているような方たちにとっていただくというようなことですので、何となく灘駅のアートの展示とかそういう雰囲気かなっていう気持ちもするんですけども、あれも非常にいいものだと思っておりますけれども、ただ、あのときもコンセプトが神戸ゆかりということで、そうすると結局神戸在住の方っていうのがちょっと少なくなるかなと思っております。神戸にゆかりがあったとしても制作拠点なり在住地は神戸以外のところということですので、できれば今回の企画では、神戸に在住している方、また、神戸にアトリエを置いて制作されてる方というのを選定されるような募集の条件にしていきたいなと思っております。真に地域性のある方に光が、今まで埋もれていた方にも光が当たるようなのが望ましいのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 委員おっしゃっていただきましたことは私もほぼ同感でございます。神戸ゆかりというとやや広いところがあります。できれば神戸にお住まいの、もしくは神戸にアトリエがあるとか、通ってそこで作っておられるという方々が展示できると、やはり市民からの応援も多くなるかというふうに思っております。やっぱり理想形として私がこれで思っておりますのは、関係性を持ったアーティストの方々が、例えば海岸線沿線でもクリエイターの方々が空き家を使ってアトリエに変えたりとかいうようなこともしてございます。そういう方々と一緒に協働するとか、それを機会として海岸線沿線に引っ越してくるとか、もともと海岸線沿線に移り住んだクリエイターの方々の作品が展示できるとか、やはり神戸に今いらっしゃる方にどういった光が当たるかっていうのは考えてまいりたいと思います。

ただ、事業の当初のところで間口をそこまで絞ってしまうとなかなかしんどいかもしれません。当初はゆかりぐらいから始めてやや絞っていくような、そんなことも考えてみたいと思います。

○分科員（平井真千子） 私は神戸在住で縛っても十分にアーティストの方が集まると確信をしておりますので、そこは強くお願いしておきたいなと思っております。

それと今回販売につながるというところ非常に素晴らしいと思ってるんですけども、ギャラリーさんとかも手挙げの事業者の中に入ってこられるかと思うんですが、自前のギャラリーで販売しているのとは違って、神戸市の場所で場所代がなくできるわけですから、そこはしっかりとアーティストの方に販売の利益がしっかり入るような、そこまで仕様書に入れられませんということかもしれないですけども、ちょっとそういう理念はしっかりと出しながら、真にアーティストの応援になるように、それと先ほどもおっしゃいましたけれども、やっぱり見た方が応援したいという気持ちになるような企画。このまちにこんなアーティストいたんやな、長田も捨てたもんやないなとか、そういう思いを持てるような企画になっていただけたら本当に素晴らしいんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後ちょっとK O B E ◆ K A T S Uについて一言いただけたらと思うんですけども、とにかく今のところ教育委員会が、自分たちでできると、これから細やかにやっていくんだって、その掘り起こしについてですけども、おっしゃってますけれども、できればいいなと思います。でも本当にできるのかどうか、今のお互いの情報共有の状況ではちょっと分からないなというのが本当のところかなと思うんです。宮道局長、本当にここまでスポーツに関しても、また文化の振興に関しても、局長になれるまでも存在感を発揮をされてきたということに本当に敬意を表したいと思いますけれども、ぜひ最後にK O B E ◆ K A T S Uにもちょっと存在感を発揮していただけたらという思いがあるんですけどもいかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 3月末までが在任期間ではございますが、残る期間を含めてしっかりとやりたいと思っておりますし、何よりも我が局のチームで、もう9月ぐらいからK O B E ◆ K A T S Uに関して、自分たちがどういうことをできるのかっていうのを主体的に考えてきたところもありますので、そういったところの意見交換を率直にやらせていただいて、局としてもきっちり今の中学生が困らないように、これからの中学生にいい環境が持てるように取り組みたいと思っております。

○分科員（平井真千子） ありがとうございます。その一緒にやるよっていう気持ちが教育委員会のほうにも届くように最後までリーダーシップを発揮していただけたらと思っております。長年お疲れさまでございました。

これで質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

次に、浅井委員、発言席へどうぞ。

○分科員（浅井美佳） よろしく願いいたします。自民党の浅井です。文化スポーツ局への質疑は初めてなのでいささか緊張しておりますが、一問一答形式でお願いいたします。

まず、先ほど平井議員から質疑にあったとおり、令和7年度の新規事業として、地下鉄海岸線の駅で若手アーティストの作品を展示し、さらには作品の販売へとつなげる事業が予定されています。町なかで文化芸術を楽しんでいただくという効果が期待できることはもちろん、アーティストにとって自分の作品を多くの人に知ってもらい、その上で作品で対価を得ることにつながる仕組みは貴重なものであり、ぜひ事業として成功するよう積極的に取り組んでほしいと思っています。

さて、この事業では、ギャラリー等と連携して作品の販売へとつなげていくとのことですが、ちょっと視点を変えまして、そのプラットフォームを活用し、例えば六甲ミーツ・アートの出展作家さんの作品など、神戸市が関係するほかのアート事業の作品について販売の機会を与えることで、神戸ならではのアーティスト支援ができると考えますが御見解をお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 御提案いただきましたプラットフォームですが、この事業では展示アーティストの作品をまたスマホみたいなものからでも買えるような、そういうプラットフォームをきちっと持っている、もしくはつくる、そういった団体と一緒にやりたいというふうに思っております。

民間事業者といいますか市とギャラリー等の事業者がそれぞれの役割をしっかりと決めて取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。

このプラットフォームをつくっていただくのは、民間の事業者の方につくっていただくかなというふうに思っておりますので、その際に事業で縦割りにするのではなくて、例えばミーツ・アートでいうと、例えば現代アートのつながりがあるとか、そうした方々の作品を海岸線のところで展示はしてなくても買うことができるような仕組みができないかどうかというのは、事業者が決まるときにいろいろ相談をさせていただけないかなというふうに思っておりますので、今回公募して選定に至ります中で相談をぜひさせていただければというふうに思います。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

それでは、要望という形になってしまうんですけども、ぜひ公募かけていただけたときにちょっと入れてもらえたりしたらありがたいなと思いつつ、例えば大きな作品を船に乗せて神戸港から出せるかもしれないですし、海岸線のミュージアム、次世代ミュージアム以外では神戸市も少しだけマージンを取る形にさせていただいてもウィン・ウィンになると思いますので、ぜひ前向きに実施いただければと思います。大変明るい話ですし、神戸から未来のアーティストを応援するいい仕組みになると思いますので、よろしくお願いいたします。

次、令和6年度から本格実施しているまちなかパフォーマンスについては、現在の公認アーティスト49組に加えて新たに27組のアーティストが加わる予定だと聞いています。

まちなかパフォーマンスでは、神戸電子専門学校の学生さんたちが開発したアプリ Street を通じてアーティストがいわゆる投げ銭を受け取れるとのことで、その点ではアーティストの収入というニーズに寄り添ったものとなっていると考えます。

まちなかパフォーマンスが2年目を迎えるに当たり、アーティストからの提案を受けたり、アーティストの方々と意見交換する機会を設け、より一層アーティストさんのニーズを踏まえた事

業にすべきだと考えますが御見解をお伺いします。

- 宮道文化スポーツ局長 御指摘をいただきましたがまさにそのとおりで、先ほども御答弁申しましたが若手の方々に参画いただこうと思うと、彼らの意見を聞かないと、私どもが、おじさんが考えてもろくなものはないなと思ってございます。なので御指摘いただきましたように、アーティストからの提案やニーズに寄り添っていくというようなことを念頭に置いて、例えば公認会場でパフォーマンスいただいた後、都度プレーヤーの方にもアンケートを実施して回答をいただいておりますし、昨年11月ですけれども、2回にわたりまして登録アーティストの方々と意見交換をする場を持たせていただきました。そこには、私も、最後ですけれども入らせていただいて、いろんな御意見を共有したところでございます。

あわせて、今回、次年度の更新の意向の確認をする際も制度改善の意見をいただきました。例えば、土日の提供枠をもっと増やしてほしいとか、人通りの多い公認会場が欲しいとか、イベント的に各会場で実施するほうがいいのか、いろんな意見をいただいております。

今、現状としては、こういうニーズに応えられるように土日の提供枠とか、平日の夜の枠、利用できる時間を増やせるように会場を提供いただいている方々と調整させていただいておりますし、より人通りが見込めるような公認会場を——難しいかもしれませんが、どこかにつくらないといけないというふうに思っていて、今トライしているところです。

さらには、登録アーティストの間の連携にも力を入れていきたいというふうにも考えております。先ほど、K O B E 国際音楽祭のお話をさせていただきましたけれども、こういった中にも出演の機会をつくるというようなこともイベント的にはできるかなと思っていますので、そういうことを含めて若い方々の御意見を聞きながら、彼らにとってやりがいのあるような制度にしていければと思っています。

- 分科員（浅井美佳） 何だか明るいお話ばかりで、未来が楽しみになってくるんですけども、ありがとうございます。

アートや芸術に関わる若手にとって文化・芸術で収益化できることも重要なのですが、作品や自分自身を広く知ってもらうこともそれ以上に重要なことだと思います。現状、市長からの表彰についてもスポーツは、その年に活躍された多くの方々がスポーツ優秀賞の対象になることに比べて、文化は長年にわたって活躍し、文化の発展に寄与した方に限られるなど、光が当たる機会が相対的に少ないことは大変残念に思います。ですが、例えば、バレエの国内三大コンクールの1つは神戸で毎年開催されており、過去、神戸市民での優勝者もいらっしゃいますし、あとは安政の時代から続いている日本の伝統芸能である剣詩舞の全国大会優勝者も、去年、神戸市の若手の方でした。

そこで、例えば舞踊や音楽、美術などの文化・芸術関係の若手に対し、新たな表彰制度を創設するような取組も必要だと思いますが、御見解をお伺いいたします。

- 宮道文化スポーツ局長 若手の方々をできるだけ市民の方に知っていただけるようにするのは、これ私たちの仕事の1つじゃないかというふうに思っております。委員から御指摘いただきましたように、本当に文化賞・文化奨励賞・活動功労賞、それぞれにやっぱり文化の発展に顕著な業績があるとか、新進気鋭で将来が期待されるとか、長年のひたむきな努力とか、そうした若干ハードルが高いところはあるのかなと思ってございますが、だからこそ値打ちがある部分もございまして、18歳以下でありましたら、地域協働局になりますが、神戸市としては、全国大会で1位・2位、もしくは国際大会で1位から3位までの成績を収めた方々を対象に、こ

うベユース賞、文化・スポーツ部門ということで差し上げるようなこともしております。

私たちの文化スポーツ局としては、局の方針として、今年度も文化スポーツに取り組む市民の方々がチャンスと希望が持てるような、そういうまちを目指すというのを局の方針にしておりますので、今年度もウイングを広げて日々情報所有に努めた上で、表彰だけではなくて、いろいろなジャンルで若手の方々を市民の方に知っていただく機会をつくらせていただきました。先ほどのまちなかパフォーマンスの公認パフォーマーをホームページで紹介しているようなこともその1つかかもしれませんし、灘駅の南側に六甲ミーツ・アートの展示作家に加えて、市内の若手の作家の作品を展示をさせていただいていること、ほかにも文化振興財団とともに、若手アーティストの文化センターでの発表会、こういったことにも取り組んでおるところでございます。

私自身、今年度も局長室に様々な形で、文化の関係者の若手の方々に表敬だとか御意見交換にお越しいただいてきておりました。今後も引き続きこの文化スポーツ局として、文化振興財団も含めて、表彰制度にかかわらず、若手の方々のモチベーションアップになるようなことを積極的にやってまいりたいとは思っております。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

ちょっと次の話題に行く前に、表彰制度というのが、どうしてもやっぱり18歳までというところがあって、19歳から30歳ぐらいまでに花が開くところはちょっとごそっと抜けてしまっているんです。そこに関しては、どこにも所属が——ユースとも言えず、何と云えばいいのかみたいなところもあり、一方でスポーツのほうだったら対象になるというところはあるので、何で文化のほう——舞踊とか、特にバレエとかそうなんですけど——私自身バレエやってたんですけど、何でないんというところは、やっぱり市民の方からも声が聞こえてくるので、表彰制度と言わずという気持ちは非常に分かりますし期待しているところではあるんですけども、表彰制度も検討いただければありがたいなと思っております。こちら要望とさせていただきます。

今おっしゃってくださった、より多くの方に若手アーティストの方々の活躍を知っていただくというのは、私も大変重要だと思っています。ほかの若手の方々や子供たちにとっても憧れ・目標となるものでありますし、そういった活躍をしている若手が数多く神戸にいるということが神戸のステータスへとつながり、次世代のアーティストを招き、生み出す原動力となるのではないかなと思っています。

こちらは、文化・芸術だけでなく、スポーツでも同様だと考えています。国際都市神戸の魅力の1つとして、国際大会等に挑戦・活躍している若手アーティストやスポーツ選手に体験談を語ってもらい、広報につながるような機会を新たに設けてはいかがでしょうか、御見解をお伺いします。

○宮道文化スポーツ局長 御提案をいただきました、若手アーティスト・スポーツ選手の存在をもっと知っていただいたりした上で、次の世代を育ててはどうかということだと思います。

これまでやっておることを少し御紹介をさせていただきますと——これからやることもありますが、これまでやってきたこととしては、まず、スポーツの分野です。小学校6年生の児童を対象にしまして、ヴィッセル神戸で活躍する選手が小学校を訪問して児童との対話を通じてサッカーの魅力、夢を持つことの大切さ、そういったことを伝える訪問事業——夢で逢えたらと言っていますが、これを実施させていただいております。

あわせてまして、アイナック神戸レオネッサで活躍する選手が、小学校4年生の児童を対象に友情のすばらしさですとか、そういったことを子供たちに伝える訪問事業——絆の時間と呼んでま

す。こういったものも実施をしております、当然ながら、昨日もなでしこジャパンがアメリカに13年ぶりに勝ちましたけども、国際大会で活躍されている方々もこの中にもたくさんいらっしゃるって、そういった方々とお話いただくのは物すごく刺激になっているんじゃないかなというふうに思います。

加えて、文化のところで言いますと、今年行いますフルートコンクールの関係で、若手のフルート奏者と触れ合える機会を、デュオドームに設けますサテライト会場でつくりたいとも思っていますし、コンクール出場者による学校へのアウトリーチ、それから、そういう方々と一緒に共演する機会、こういったものもつくっていければというふうに思っています。

次世代の子供たちの成長につながるような、そういう交流機会ができればというふうに思っています。

今年度、世界パラ陸上を行いました、今行っている中ではパラリンピアンが市内の小・中・高、それから特別支援学校を訪問して講話を行いますあすチャレ！スクールというものも実施をしております。これは、そういう希望以外にも共生社会の気づきだとか学びの機会を提供するような、そういうところにもつながっているのかなと思っています。

神戸の子供たちが世界で活躍するような方々と触れ合うことで、将来のイメージを膨らますことができたり、モチベーションを高めることができれば、これやっばりとてもいいことだなと思っています、引き続き積極的に取り組んでいきたいと思っています。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

もうおっしゃるとおり、本当にたくさんのトップレベルの選手さん、先ほど出てないところでもアマチュアの選手さんで、例えばアルコ神戸さんともよくタイアップされていらっしゃると思うんですけども、そういうアマチュア選手——神戸にはアマチュア選手で世界で活躍する方々もいらっしゃるって、その方々も含めて文化スポーツ局さんのほうで子供たちに話す機会を与えてくださってるのは本当にありがたいと思っています。

質問の意図は、子供たちのほうでも、例えば、ちょっと一部の子供たちにどうしても限られてしまうんですが、ヴィッセル神戸さんのユースだったり、イニエスタアカデミーさんのところだったり、海外で知見を積んで帰ってくるということをされてる方々もいらっしゃいます。どうしても少ないんですけども、それって、でも神戸ならではの環境だと思っていて、もちろん全員が行けるわけでもない、いろんな理由があると思うんですけども、そういう方々の体験を疑似体験することで、同世代の子供たちも、そういう環境が神戸にあるんだというのも分かるかもしれないですし、もしかしたらほかの都市から神戸にそれが1つの理由で来てくれ——選んでもらえたらいいなとも思いますので、上の若手の活躍してる選手だけではなく、国際都市ならではの体験をした子供たちの体験も、ぜひ表敬などもされておられますが、そうじゃない形で広報紙でもいいですし、何かしらちょっとより多くの体験をシェアすることも御検討いただければと思います。要望にさせていただきます。

ちょっと趣旨を変えて、博物館・美術館のお話をさせていただきたいと思っています。

市内には様々な博物館・美術館や展示施設があることから、私としては、それぞれがほかの施設とは異なる特色を際立たせて訴求力を高めると同時に、お互いが連携して相乗効果を生んでいくことが、来館者の増加に向けて重要だと考えております。

その中で、小磯記念美術館については、御遺族より寄贈された作品を中心とした約3,200点のコレクションや、移築復元したアトリエもあり、制作当時の雰囲気を感じることができる美術館

となっています。また、月1回、赤ちゃん家族の日の開催や、日展に合わせて六甲アイランド内の彫刻を回るツアーを開催されるなど、集客にも力を入れておられます。

我が会派の大野議員も直接関係者の皆様と意見交換されると聞いていますが、美術館の活性化のために本当に様々な工夫がなされている一方で、小磯氏と関連の濃いものだけで特別展を開催することに限度が来つつあるとも聞いております。

この現状を打開するためには、常設の小磯氏のアトリエやコレクション展を必ず順路に入れつつ、特別展においては、例えば美術全般、西洋美術全般を広くターゲットにするなど、思い切った変革で、年間約2万人の入館者数を大きく増やせる可能性があると考えられるのですが、御見解をお伺いします。

○三尾文化スポーツ局博物館副館長兼事務局長 来館者増加に向けてターゲットの拡大ということで御答弁させていただきます。

議員御承知のとおり、小磯記念美術館でございますが、神戸で生まれて、神戸で制作を続け、また、文化勲章も受賞されています。小磯良平氏の画業を検証する目的で、平成4年に六甲アイランドに開館し、以降、小磯作品の保存・調査・研究、普及活動の1つとして、毎年コレクション展を開催しているところでございます。また、近接する神戸ゆかりの美術館、ここでは、神戸ゆかりの芸術家作品だけでなく、昨年度のさくらももこ展、この4月に開幕するサンリオ展のように、集客性が高く、まちのにぎわいづくりにつながる展覧会も開催しているところです。できるだけ様々な美術の領域に触れていただきたいという思いもございまして、この2つの美術館の機能を分担して展覧会を開催しているところでございます。

ただ、御紹介いただきましたように、小磯記念美術館、昨今では漫画家の青池保子展の開催、今御紹介いただいた赤ちゃん家族の日などを設けながら、子育て世代の来館促進などの努力もしておるところでございますが、入館者数を暦年で見ますと、やっぱり伸び悩む状況にもございます。

この状況を打開するには新たな取組というのも必要であると考えてございます。

1つは、全国的に知名度の高い芸術家、海外で活躍した画家などの展覧会を企画・誘致することが必要ではないかというふうにも考えてございます。そこで令和7年、この夏にかけまして、フランスを中心とした西洋画壇で高い評価を受けている洋画家、藤田嗣治展を開催いたします。レオナール・フジタとしてフランスでとても高い評価を受けている著名な日本人画家の作品を紹介することで、多くの方が来館することを期待しています。

また、1つは、議員御指摘いただいたように、さらに展示の幅を広げることでございます。美術館全体として展示台の調和であるとか、展示室の面積、構造上可能であること、こういうことも検討した上で、美術全般にターゲットを広げ、よりインパクトの強い特別展の開催可能性について、展覧会を共催する新聞社などと協議していきたいと考えております。

こういった取組を進めまして、より多くの人々が小磯記念美術館に来館する機会を創出することで、これまでと異なる美術分野の新たなファン層を獲得できればと考えておりまして、その際には常設展示しております小磯作品にも触れていただくような動線もしっかり確保することで、神戸の誇る小磯作品のさらなる周知につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

ぜひ、ちょっと枠組みを取り払ったような、そして小磯氏にも寄与するような取組を引き続き

お願いできればと思います。ありがとうございます。

そして、今度は垂水区に移動しまして、五色塚古墳の再整備の一環として、現在レクチャールームや展示スペースを備えたガイダンス施設の整備が進められています。魅力的な観光施設である五色塚古墳ですが、この整備により訴求力のある施設とするため、出土品の現物展示もぜひ行っていただきたいと考えるのですが、いかがでしょうか。

○三宅文化スポーツ局副局長　ただいま御紹介いただきましたガイダンス施設につきましてですが、こちらの施設では、現在古墳内の管理事務所が行っております見学受付でありますとか、史跡の日常管理業務、また出土品の展示機能を引き継ぐ、それとともに、1階・2階にガイダンス室、2階には展望テラスとレクチャールームを設けまして、見学者に親しみをもち楽しんでいただける施設になるように計画をしておるところでございます。

展示計画といたしましては、1階のガイダンス室には五色塚古墳の歴史的位置づけ、また、2階のガイダンス室では、復元整備の歴史を通して歴史遺産としての価値を紹介するような展示を今計画しているところでございます。

そして、2階の展望テラスからの眺望と、また現地での体験により、ガイダンス施設と史跡の一体化を図りまして、施設の保護や愛着、誇りにつなげていきたいというふうに考えてございます。

五色塚古墳の魅力といたしましては、古墳そのものを現地で体感できることに加え、御指摘いただきましたように、出土した埴輪などの実物資料を実際に見ることで、リアルな古代体験につながるのではないかとというふうに考えております。実際、展示をするものを今考えておりますのは、高さが約1.5メートルもあります大型の埴輪を3点、また、10センチ以上もある大型の勾玉を2点、また、須恵器や土師器などの当時使用されていた器など、こういったものを展示ケースに入れるのではなくて、露出展示という形で、展示品の質感なども見ていただけるように配置をしていきたいというふうに計画してます。

さらに、また来てみたいと、何度でも来てみたいと思っていただけるように、動画でありますとか、実際に手で触れることができるような展示物を配置することで、より分かりやすく、より親しみを持てる展示にしていきたいと考えてございます。

○分科員（浅井美佳）　ありがとうございます。

思ったより大きな展示が予定されていて、驚きました。非常に魅力的だなと思って伺ってありました。

堺の世界遺産になった古墳のガイダンス施設にて学芸員さんに説明いただいたときに、こちらの神戸の五色塚古墳は、国内でも当時の姿を復元した珍しい施設だと――価値のあるものだというふうに、その方もおっしゃっていました。ぜひマリリンピアから五色塚古墳に行っていただいて、明石海峡大橋を見ていただいてという、あの辺りの周遊に寄与できたらと思うので、引き続き頑張っていただければと思います。

ぜひ、ガイダンスの中で神戸市埋蔵文化財センターの案内もお願いできたらなと思っております。やっぱり関連性があるので、好きな方は好きですし、そこで子供たちも体験ができる取組もあるので、非常に勉強にもなるのかなと思っています。

このように複数の美術館や施設があるのですから、ある施設の特別展の展示、あるいは常設展でもいいんですけど――と連動された展示を別の施設でも行うことによって、来館者の神戸市内の周遊を促すという――あると思うんですけども、いかがでしょうか。

○三尾文化スポーツ局博物館副館長兼事務局長 今、先生から御指摘いただきましたように、神戸市内、たくさん博物館・美術館、多くの文化施設もございます。来館者の周遊性向上に向けて取り組むことは非常に大切な視点であるというふうに考えてございまして、昨年夏にも小磯記念美術館で開催しました絵本の旅展というのがございます。これは神戸の出版文化という視点にも焦点を当てた展覧会でございます、この展覧会の際には、図書館と美術館双方で本展示とか子供たちへの対象にしたイベントを開催するような取組を行ってございます。

今年も神戸ゆかりの美術館での特別展の中でも、こういうふうな図書館やそのほかの文化施設などと連携した企画を開催できないか検討したいと考えてございます。どうしてもそれぞれの館で実施する美術館というのは共催するメディアとか展覧会の会期が異なりますので、難しい面はございますが、毎月、市内にある官民のミュージアム同士で情報交換する場を設けてございますので、観覧者の周遊性という観点——この視点を意識しながら、どのようなことができるのかしっかりと検討してまいりたいと考えております。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

特にそういう若年層とか子育て世帯にアプローチしたのはすごいいいなと思っていて、一定の期間で全部の美術館を回ったら、それで1つ皆さんここにはこれがあるのなんというふうに覚えていただけるので、すごくいいアイデアだなと思いました。

そうですね——私が想像してたのはもっと——ごめんなさい、一般的な話だったので、全然——あれなんですけれども、例えば、もし博物館でダリ展の企画があったとしたら、灘区には横尾忠則現代美術館もありますが、神戸市内でのそのほかの美術館や施設でシュルレアリスムの展示を連動して行うなど、テーマを決めた市内周遊というのも1つ面白いのかなと思っております。ぜひ、御検討いただければと思います。

そして、こちら——ごめんなさい、要望になるんですけれども、博物館というやっぱり恐竜標本などの骨格標本などもちょっと期待してしまうところではあるんですが、やっぱり三田市に行くことになるんです。一部、少しだけでも展示があるとうれしいなと思うこともあるので、こちらは一市民の子育て世代の要望としてお受け取りいただければと思います。

では、最後に、K O B E ◆ K A T S Uについて、1問だけ伺います。

前回の決算特別委員会で教育委員会に私のほうから質疑させていただいたものの中で、移行後のK O B E ◆ K A T S Uのクラブが大会に出たいと思ったときに、兵庫県中学校体育連盟主催の各種大会であれば、連盟が競技ごとに決めている細かい規則に沿える団体でないと参加できないこととなっている、例えば、あくまでも現時点の規則であります、野球であれば、コーチの資格を持った方がその団体にいることなど沿わなければ、大会参加自体ができない規則があります。それに関して教育委員会の方は、団体に働きかけるといような答弁であったんですけれども、一方文化スポーツ局では、令和7年度予算案に、指導者・運営者の育成等に取り組む競技団体等に対する支援を計上しておられます。先ほど、平井議員への答弁で、局長自ら教育委員会との意見交換を行っていただく中で、例えば大会について支援が足りていないのではないかという気づきがあったと伺いました。もう本当にありがたいなと思っております。これは、先ほど申し上げた大会参加資格も念頭に置いたものなののでしょうか。支援の目的や具体的な内容について伺います。

○檀特文化スポーツ局局长 まず、支援の目的ですけれども、この支援を通じてK O B E ◆ K A T S Uの登録団体を増やしたりクラブの発掘をしていきたいと——促進していきたいというふうな

目的がございます。

当然、この大会参加資格を念頭に置いた支援にも制度設計をしていきたいと思っております、委員御指摘のとおり、競技ごとに大会への参加資格のようなものが定められておりまして、ハードルもある中で、児童とか生徒の競技モチベーションを高めるためには、やはり大会への参加が非常に重要だと思っておりますので、これから競技団体の意見などをお聞きしながら、各種大会への参加要件の取得につながるような実効性のある制度設計となるように、教育委員会などと緊密に連携しながら取り組んでまいりたいと思います。

○分科員（浅井美佳） ありがとうございます。

本当にもう大会参加が重要な子もいるという視点、あまりほかの局では出なかったりもするのでありがたいとは思っております——今のいただいたコメント。

引き続き、市役所一体となって、そして局長にとっては任期最後までお力をいただくことになってしまいますが、K O B E ◆ K A T S U の成功に向けても、共に進んでいただければありがたいです。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

委員の皆様申し上げます。

午前中の審査はこの程度にとどめ、この際、暫時休憩いたします。

午後 1 時 30 分より再開いたします。

（午後 0 時 27 分休憩）

（午後 1 時 30 分再開）

○主査（松本のり子） ただいまから予算特別委員会第 3 分科会を再開いたします。

午前中に引き続き、文化スポーツ局に対する質疑を続行いたします。

それでは、のまち委員、どうぞ。

○分科員（のまち圭一） それでは、午後からよろしくお願いいたします。

日本維新の会から、私、のまちとさとうで質問させていただきます。

まず、博物館を活用した周遊性について伺います。

神戸市立博物館は、旧居留地に立地しており、2025 年 4 月には、ジーライオンアリーナ神戸も開業する予定であり、エリア全体に、これまで以上に多くの人が訪れることが予想されています。また、博物館においても、今年 9 月 20 日から 2026 年 2 月 1 日にかけて、阪神・淡路大震災 30 年大ゴッホ展夜のカフェテラスを開催する予定と伺っております。この展覧会を目的に非常に多くの方が神戸に訪れるのではないかと注目しています。

こうした展覧会については、地域経済の活性化にもつなげていくという視点から重要と考えています。博物館だけでなく、周辺の商業施設とも連携して、お互いに相乗効果を出せるよう、また、市民や観光客にも周遊していただけるように積極的に取り組んでいくべきと考えますが、御見解をお伺いします。

○三尾文化スポーツ局博物館副館長兼事務局長 委員御指摘のとおり、ウォーターフロントの再開発によりまして、博物館の周辺の環境は大きく変化してございます。ジーライオンアリーナが 4 月 4 日に開館しまして、旧居留地エリアの人の流れが大きく変わるものと考えられ、地域のにぎわいづくりにしっかりと取り組まなければならないものと認識してございます。

このため、今年度より、ウオーターフロントエリアのホテル・飲食店などと博物館の特別展につきまして、相互割引・相互サービス、広報面なども含めまして、本格的に連携を始めているところでございますし、さらに、博物館のライトアップの改修予算、この2月補正で前倒し予算化させていただきまして、神戸ストークスの試合やウオーターフロントでの様々なイベントと適時連携できるよう開始することで、港湾局などとも協力しながら、夜の魅力向上にも取り組んでまいりたいと考えてございます。

また、そうした中、この9月に——大ゴッホ展が開催されますが、全国各地から大変多くの方が観覧に来られると考えてございまして、委員の御指摘のとおり、展覧会にとどまらず、まちのにぎわいづくり、地域の活性化につなげていきたいと考えてございます。

そのイベントの1つとしまして、展覧会にゴッホの名作「夜のカフェテラス」、これが来日するのが20年ぶりということもございます。それに合わせて博物館周辺の公開空地や店舗などで地域団体ともにオープンカフェを設けるなど、まちの回遊性が生まれる仕掛けづくりを行ってまいりたいと考えております。

また、これまでの周辺のホテルや店舗などとの広報協力、また相互割引など、これに加えてジーライオンアリーナや周辺の商業施設とも連携し、お互いに相乗効果ができるような取組についてしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

○分科員（のまち圭一） ジーライオンアリーナでイベントがあると大体4時・5時ぐらいから開始になるんで、グッズ販売とかで午前中には行かれる方が多くあります。その後昼御飯を食べつつ、4～5時間時間を潰すことになると思いますので、この周辺エリアというのが非常に活気が出てくる場所でもありますし、今博物館では高校生無料ですよ。大学生も割引してたかと思うので、そのジーライオンアリーナに来られる方の年齢層もびったり合うところですので、ぜひとも積極的にアピールしていただきたいということと、ちょっとまだ来年以降、分からないですけど、ルミナリエのタイミングにうまいことカフェテラスが合えば、さらに多くの人の流れってのはできると思いますので、積極的にぜひともやっていただきたいと思います。

次に、博物館のテーマの設定について伺います。

博物館では、所蔵する歴史資料等などを活用した展覧会とゴッホ展のように地域経済の活性化につながるような集客力のある展覧会をバランスよく実施する方針と伺っていますが、集客面という視点で考えると、どの時期にこういったテーマの展覧会を開催するのか非常に重要であると考えます。例えば、NHKの朝の連続ドラマや大河ドラマなどの題材の多くは、2年前からテーマが決まっており、放映の時期に合わせて、関連するテーマの展覧会を実施することで、ふだん、博物館を訪れない人にも博物館に来館いただける動機づけとなり、集客にもつながるのではないかと考えます。また、六甲ミーツ・アートなどのようなイベントと神戸市内のアートを関連づけるイベントを連動して、企画などをうまいことをすれば、市内の周遊性の向上にもつながると思いますが、御見解をお願いします。

○三尾文化スポーツ局博物館副館長兼事務局長 展覧会の目的の1つというのが、見る人に深い感動や知識の場を提供していくことでございますが、委員御指摘のとおり、集客という視点、非常に重要なところでございます。ほかの施設や、また出来事、時期も含めて、相乗効果が得られれば、展覧会だけでなく地域経済の活性化にも寄与するものと考えております。

今、例示で御指摘いただいたNHKという観点、NHKの大河ドラマという点では、過去にはなりますけども、2012年に当館で開催しました平清盛展、これはNHK神戸放送局等と共催し実

施したもので、相乗効果もございまして、4万人以上の観客を動員できてございます。また、現在放送中の大河ドラマ「べらぼう」では、浮世絵に焦点が当てられたものでございまして、来年当館でも、幕末から明治に活躍した浮世絵師の展覧会を開催すべく、現在準備を進めているところでもございます。

特別展のうち大規模な展覧会はどうしても新聞社、テレビなどのメディアと共催しながら実施していくものでございます。引き続き、共催するマスメディアと連携し、情報収集しながら、委員御指摘いただいたように、時期を失せず、また六甲ミーツ・アートなどのイベントとかも引き続き連携も取りながら、神戸に魅力ある展覧会が誘致できるよう意識して努めてまいりたいと考えております。

○分科員（のまち圭一） 先日見させていただいたときに、ちょうど銅版画ですかね——展示していて、まさに今の大河ドラマも版画というところでうまいこと連携——時代はちょっと違いますが、そういう版画というところに意識があるので——そういうふうにあるんだなとちょっと面白く見させてもらったところなんですけど、なかなか奇をてらい過ぎると逆に失敗する可能性もあるんで難しいところなんですけど、次の大河で、今度は秀吉というところで、神戸にはザビエルの絵があります。タイミング的にもちょうど時期的にも合うやつだと思います。ちょっと来年以降なんで、もう予定が決まっていると思いますけども、そういうふうなところで宣伝、そういうことを多くしていただければいいのかなと思います。

次に、市内のほかの博物館・美術館との連携について伺います。

文化スポーツ局所管の神戸市立博物館・小磯記念美術館・神戸ゆかりの美術館をはじめ、市内には県立美術館であるとか、竹中大工道具館など、公・民間問わず魅力的な博物館・美術館が多数存在しています。現在、市立博物館や小磯記念美術館では、それぞれミュージアムカード——年間パスを発行していますが、例えば3館を通じて回っていただけるような年間パスの発行、ひいては公・民にかかわらず市民や観光客が周遊して、年間を通じた集客を図るような取組が必要でないかと考えています。

神戸観光局では、現在、K O B E観光スマートパスポートというのを販売しておりまして、最大2日間で市内の複数の施設を楽しめることができるというふうにありますけども、2日間ではなく、年間を通して周遊性を高めるとともに、親子でも楽しめるという観点から、経済観光局と連携して、例えば大人版の有料のびのびパスポートのようなものをつくって横の連携を強化し、さらに博物館・美術館に人を呼び込めるような取組をしてはどうかと考えますが、御見解をお願いします。

○三尾文化スポーツ局博物館副館長兼事務局長 今先生から御指摘いただいた複数施設にまたがる共通年間パスというのは、実は各館それぞれ展覧会で共催するメディアであったり会期であったり、関連料金が異なる上、非常に制度化が難しい面がございます。

そのように現時点では、地理的に近接する小磯記念美術館・神戸ゆかりの美術館・神戸ファッション美術館、3館で常設展の相互割引を実施しているほか、今先生から御紹介ありましたK O B E観光スマートパスポート、これが市内の公・民の観光施設を1日ないしは2日定額で利用できるものでございまして、これに各館が参画しているところでございます。

このような取組については、公・民にかかわらず、市内のミュージアムでやはり広げていきたいと思ひまして、年間という形では難しいかもしれませんが、この横の連携を強化しながら、さらに神戸に人を呼び込むような仕掛けづくりについて検討していきたいともございます。

先ほど委員からお話がありました六甲ミーツ・アート、これとの連携の具体的な施策としましては、このような博物館・美術館の連携にとどまらず、例えば、ゴッホ展、前半は、この秋に開催される現代アートの芸術祭、六甲ミーツ・アートとの連携、後半は神戸ルミナリエとの連携、このような取組もどのようなことができるかもしっかりと検討していきたいと考えてございます。以上でございます。

○分科員（のまち圭一） できれば親子でいろいろ楽しめるようなそういうパスポートというのがあれば、皆さん一緒になって行けると思いますので、ぜひとも検討を願いたいと思います。

のびのびパスポートというのを、大人版ってところで名前を1週間前から考えてたんですけども、結局何も浮かばないということで、ウェルビーイングパスポートとか考えたんですけど、あまりぴんと来なかったのをやめときます。

次に、文化財の保存・活用について伺います。

神戸歴史遺産についてですけども、令和3年1月に開始された神戸歴史遺産制度は、国・県・市指定の文化財に加え、市内でおおむね50年以上愛されている地域の歴史資源などを神戸歴史遺産として認定し、ふるさと納税を活用して修理などの助成を行う神戸市独自の制度であり、いい制度であると考えています。

一方で、公費を投入する関係もあり、助成金の対象事業として成果を公開することができる事業との要件になっており、文化財によっては民家など、ふだんから市民が生活しているようなものもあり、公開が難しい、また準備などで多くの手間がかかり、これら認定をもらうんじゃないかという声もお聞きしました。それぞれの状況によって柔軟に対応するよう見直すべきと考えますが、御見解をお願いします。

○三宅文化スポーツ局副局長 神戸歴史遺産制度についてでございます。

概要につきましては、先ほど委員のほうからかいつまんで御説明をいただけたと思っておりますので、詳しくは割愛をさせていただきます。

ただ、そもそもこの歴史遺産制度が始まりましたのは、なかなか地域の方々が大切に守られてきた市内各地の歴史遺産、こちらがそれらを代々といひましようか、長らく守ってこられた方々が高齢化でありますとか、減少するというようなことで、守り続けていくということが難しくなってきたと、これを財政的な支援をすることで、地域の皆さんにさらにこれからも守っていこうと、大切にしていこうという機運が盛り上がるということを期待をしてつくった制度でございます。

委員のほうからございましたが、助成の要件のほうに、成果を公開ができる事業というのを1つ要件にしてございまして、ただ全てができるかといいますと、やはり歴史遺産の中には、現在も生活されていらっしゃる民家も含まれております。なかなかそういった現状では、家の中を全て公開するようなことというのは難しい。こういったことは御指摘のとおりかと思っております。

一方で、この助成の要件であります成果を公開するという方法ですけれども、具体的な方法や内容としましては、実際に中に入って見ていただくというようなことだけではなくて、修理の状況を、例えばインターネット上で公開するなど、いろんな方法があると思いますので、所有者の方にとって可能な方法で少しでも公開いただけるようなこと、こんなことを考えていければなどは思っております。

いずれにしても、地域で大切に守られてきた神戸の歴史的な遺産を広くこの制度を活用していただいて継承していただきたいというふうに考えておりますので、個々の事情に応じて柔軟

に対応をさせていただきたい、そのための御相談には随時対応させていただきたいと考えてございます。

- 分科員（のまち圭一） 特に、この中央区だと北野坂の辺りの建物というのが非常に——洋館が、もらい手がなくてみたいな感じで朽ち果てていってるという状況もあるところもあると聞いてますので、そこは柔軟に対応していただけたらと思います。

次に、北野の話なんですけども、旧山口邸ですけども、旧山口邸は北野にある数少ない和風の伝統的建造物であり、神戸市が土地・建物合わせて9.5億円という多額の公費を投入して取得しました。文化財であるため活用については一定の制限があると理解をしておりますが、観光客などを呼び込めるような付加価値をつけて活用していただきたいと考えておりますが、どのような方向性で検討を進めているか、見解をお願いします。

- 宮道文化スポーツ局長 委員からの御質問でございます山口邸の活用方向の可能性ということなんですけども、私どもこの山口邸、確かに大正時代に建てられた北野を代表する数少ない和館の建物でございます。ただそれだけではなくて、もう少し地域全体のことを考えられるようなことも含めて考えたいと思って取得をさせていただいたものでございます。

この山口邸が存在しておりますのが、北野の——すみません、簡単に伝建物地区——伝建地区と言いますけども、伝建地区の一番東側のところなんです。つまり新幹線の新神戸駅に最も近い、ロープウエーのエレベーターを使うと、垂直に上がった上でそのまま西へ通ってこれるような、そんなところでございます。東側のゲートウエーになり得るんじゃないかというのは、私どもは考えてございます。

今まで北野の場合、東側がどうしても弱かったんですけども、逆に新神戸に近いところから東側のゲートウエーができますと、北野のエリアーの活用に資するんじゃないかというふうに思っております。

その取得をした際に、あわせて今、王子動物園の中に旧ハンター住宅がありますが、これもともと北野に建っていた史実がありまして、大きな和館と一緒に並んで建っていたというところがございます。これを耐震工事のために解体・再建するに当たって、北野の方々、それからハンター氏の関係者の方々から、建物を何とか北野地区に戻せないかというのを強く要望を受けておりまして、私どもとしても今回の工事に合わせて、例えば山口邸の敷地内への移築も含めて検討をしたいというふうに思っております。住民の方々からも、そうした山口邸を活用すれば、周辺へ波及するというようなお声もいただいております。こういうところに国の重要文化財でもありますハンター住宅も併せて和館と洋館が並ぶような形でゲートウエーがくれたとすれば、それこそ150年前からダイバーシティを体現していた神戸のまちにふさわしいものになるんじゃないかというふうに考えてございます。

建物自身の具体的な活用については、これまでは有料の公開施設というのが割と多かったんですけども、近年、文化財に関しても、それ以外の——例えばカフェに使うとか宿泊所に使うとか、そういったことも可能にはなってきてございます。今後、活用を検討していくに当たっては、やはり経済の観点とかまちづくりの観点も含めた上で、市場にあったような格好で展開してまいりたいというふうに考えてございます。

- 分科員（のまち圭一） 具体的にどれぐらいの時期までにというのはあるんでしょうか。
- 宮道文化スポーツ局長 今の大方のスケジュールでいうと、2030年から31年ぐらいにハンターの移築まで含めて考えられるかなという、これはおおよそのところでございますけども、そのよう

な状況でございます。

- 分科員（のまち圭一） あと5～6年というところで、それぞれそれこそ国際線の定期便の就航というところの1つの目玉になる——観光の目玉として使えるのかなというところもありますし、この北野地区がさらによくなるように、ぜひともこれはよろしく願いたいします。

次に、文化振興財団について伺います。

神戸市の外郭団体である公益財団法人神戸市民文化振興財団が主催するランチタイム・ワンコインコンサートに、市長夫人である久元祐子氏が出演しています。久元祐子氏は、プロのピアニストであり、民間からの依頼公演や演奏場所として神戸で活躍されること自体は問題ないと思いますが、市からの公金が入っている神戸市の外郭団体主催の公演に、市長夫人に出演いただくということについては、市民目線で考えた際に疑問があります。どういった経緯で出演をいただくことになったのか、市として問題ないと考えているのか見解をお願いします。

- 宮道文化スポーツ局長 文化振興財団が主催をしますコンサートのアーティストの選定のことだというふうに理解してございます。

私自身、文化スポーツ局長の立場としては、ピアニストとして世間の評価を含めても何ら疑問はないのかなというふうに思っていますが、今委員おっしゃられたように、多少の疑問があるということでございますので、経緯から少しお話しさせていただければと思います。

今のこのランチタイム・ワンコインコンサートというのは、令和6年11月に文化振興財団が神戸芸術文化会議——総合芸術団体であります神芸文と呼ばれているところと連携協定を結びました。今回のコンサートもその一環として行う——協力を得て行っているということでございます。

目的は、大きく2つあります。平日のお昼間に500円というような金額で、1時間でですけども短いコンサートを行うことで、ホールに足を運んでいただく方を増やしたい——新規顧客の拡大です。それから、平日の利用促進を図りたいということ、それからもう1つは文化ホールのピアノのことでございます。平成29年に1億円の御寄附を頂きまして、文化ホールのピアノ4台、更新をさせていただきました。そのうちの2台はスタンウェイという世界でも有名なピアノなんです。もう1つ、世界3大ピアノの1つと言われてますベーゼンドルファーのピアノを入れさせていただいてございます。このピアノを——芸文センターなんかにもあるんですけども、よく知っていただきたいという思いもありまして、このコンサートの開催になったということ、2つ目の理由です。

このコンサート自身の構成をちょっとお話しさせていただきますと、来年度末までに6回予定をしております。2月13日に第1回目を行いました、このときには地元のピアニスト2名に出させていただきました。2回目に、おっしゃられましたピアニストであります久元祐子さんが御出演なさるということですが、3回目以降は地元の方々ばかりになっておるということでございます。

そうしたこともあって、こういうスキームとか全体構成を見た中で、さらにピアニストとしての御評価も含めて考えますと、私としては市としても何ら問題はないのかなというふうに思いますが、説明をさせていただいたところでございます。よろしく願いたいします。

- 分科員（のまち圭一） ベーゼンドルファーのピアノというのも、検索してみると久元祐子氏のCDとかというのがたくさん出てきますので、久元祐子氏が非常にこのピアノについての第一人者であるというのは調べればすぐ分かりましたけども、例えばピアノを買われた経緯でありますとかにそういう意見があったのかどうかとか、このピアノを使ってほしいから久元祐子氏を——別の方でもいいんじゃないかっていうところもありますので、そこがある程度疑問に思ったりと

か疑われる可能性もありますので、慎重にするべきではないのかなというところがあります。

過去にも室内管弦楽団と一緒にされたりとかというのがありまして、この10年ぐらいでかなり神戸市でも精力的に活動していただいているというのも、逆に言えば市長のおかげでこの有名なピアニストが神戸でやっていただけるっていうところかもしれませんけども、ある程度一線ちょっと市の団体としては疑われることもあると思いますので、慎重にしていいただければと思います。

次の質問に行きます。

地下鉄海岸線における若手アーティストの作品展示についてでございますが、来年度から新規事業として地下鉄海岸線の駅の壁面等を活用し、若手アーティストの作品を展示し、若手アーティストを支援する取組をさらに三宮・花時計前駅などの海岸線5駅程度で実施する予定と聞いています。若手アーティストの支援の視点では重要であると考えますが、一方で、展示だけでは企画倒れに終わってしまうことも懸念され、例えば著名な方とコラボして作品展示を実施する、有名な評論家に評価してもらう、テレビなどで取り上げてもらうなど、付加価値を高めるような取組を併せて実施することで効果が高まると考えますが、見解をお伺いします。

○宮道文化スポーツ局長 おっしゃられたとおりでございますが、とにかく展示をするだけではなくて、それで話題を呼ばないと価値がないというふうに思っております。

午前中にも御意見をいろいろいただきました。そういったことも含めていろいろ考えてはまいりますけども、本当にこれをやり出すときにやっぱりプロモーションが結構大事だというふうに思っています。それにはいろんなやり方があって、先ほどおっしゃられた著名な方をとかいうこともそうですし、デジタルサイネージのようなもので西神・山手線も含めて市内にあるところでもう大々的にやっていくようなことも含め、話題づくりには、やっぱりそこをきちっとやってまいりたいというふうに考えてございます。

○分科員（のまち圭一） なかなかこれからというところで、いろいろやり方というのを考えていかれるところだと思いますけども、市民が参加できるようなタイプのイベントであるとか、あと現代美術とかそういうのだけじゃなくて、デジタルアートとかAR・VR、そういうのも活用した展示というのもあればさらに盛り上がっていくのかなと思いますので、これは引き続き検討をお願いします。

最後になりますけども、K O B E 国際音楽祭についてでありますけども、この神戸国際フルートコンクールの開催に合わせて、K O B E 国際音楽祭2025を震災30年の関連事業として7月から9月の2か月にわたり開催する予定と聞いています。一方で、神戸まつりは2025年5月18日に開催される予定であり、K O B E 国際音楽祭が始まる2か月前ということもあり、音楽祭のPRを行う時期としては絶好の機会ではないかと考えています。

例えば、神戸まつりに合わせて多くの人が集まり、雰囲気のある旧居留地エリアで大人数でフルート演奏を行うなど、人が集まるタイミングでインパクトのある事業を実施することで、音楽祭の機運醸成につながると考えますが、見解をお伺いします。

○三宅文化スポーツ局副局長 K O B E 国際音楽祭のPRについてでございます。

今、御紹介いただきましたように、以前8年前に音楽祭で旧居留地で300人のフルーティストのアンサンブルをやりました。ただ、神戸まつりの会場ですと、やはり雑踏警備とかの関係でなかなかここまでの規模というのが今難しいなというのが現状でございます。

ただ、今後も音楽祭単体でのPRということではなくて、今回もルミナリエとか六甲アイランドでの日展神戸展、こういったところでもPRしてございますので、様々な事業と連携をしながら

ら、音楽祭の機運醸成ということに努めてまいりたいと思っております。

○分科員（のまち圭一） なかなか普通に生活していてフルートを聴く機会がないですので、こういうところでぜひ何かアピール——フルートの演奏とかいっぱいしていただければと思います。

以上です。

さとうさんと代わります。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

次に、さとう委員、発言席へどうぞ。

○分科員（さとうまちこ） よろしく願いいたします。

最初に、公民館の活用について伺いいたします。

市内に7館ある公民館については、教育委員会から文化スポーツ局に移管され、この4月で4年目となりますが、十分に活用できていない部分もあるのではないかと思います。昭和50年代に開設、施設の耐用年数は20年近くあり、まだまだ活用できることを考えると、従来の社会教育施設としての役割だけではなく、自由かつ柔軟に市民の方が使えるような施設にすべきではないでしょうか。

例えば、以前もお伝えしましたが、日常では夜泣きに悩む御家庭向けの交流施設として夜間開放を行うなど、子育て世帯に活用していただき、災害時には避難所として子育て世帯の方に御利用いただくなど、従来の規則にとらわれずに、幅広い世代に活躍していただけるよう、さらなる活用をしていくべきと考えますがいかがでしょうか。

○檀特文化スポーツ局局长 公民館の活用についてということですが、公民館の多くは児童館とか保育所が併設されていたり、あるいは近接しているということで、公民館の行事とか教室には子育ての世代の方に参加いただけるものが多くございます。各公民館では、未就学児のいる子供・親子を対象とした教室を開催するなど、子育て世代を対象とした事業に取り組んでおりまして、例えば、玉津南公民館では、教室の開催に合わせて保育士による子育て相談会を実施したり、長田公民館では、近隣の保育所と連携して地域向けの広報紙を作成するといったような、公民館ごとにいろんな取組を行っているところです。

それから、若い世代という意味では、学生などの若年層が利用いただくための取組として、例えば、住之江公民館では、長期休暇中に小・中学生を対象とするような学習室開放というようなことをやってまして、今年度からは、地域の高校生・大学生・大学院生が小・中学生に対して学習支援・進路相談を行うというような交流の取組もやっております。

それから、玉津南公民館でも夏季休暇中に小学生を対象とする学習支援事業を実施してまして、昨年度からは近隣の高校生をボランティアとして募りまして、小学生の学習指導に当たるというようなことをやってまして、高校生からはこういうことがあればまたやりたいとか、人と関わる機会が大事だと思ったというような前向きな意見も見られたということです。

あとは、公民館の開館時間、基本的には午後9時までということになっておりまして、それ以降の夜間、自由に開放しというようなところについては、管理運営面での課題がありまして、現状ではなかなか難しいというふうには思っています。

それから、既に公民館については6館が、避難所に指定されておりまして、災害発災時には、子育て世代だけではなく、避難所として近隣の方に利用いただけるというような形になってまして、市民の皆様の個別の事情に寄り添いながら、区役所職員などと連携して避難所運営に努めているというようなところです。

地域のニーズをよく聞きながら、各館の状況に応じて、公民館の活用については柔軟に対応してまいりたいというふうには考えております。

○分科員（さとうまちこ） ありがとうございます。

夜間については、今までも活用されていませんでしたし、子育ての苦労を考えて神戸市公民館条例10条を見ましても、使用料、その際には免除していただきたいというふうに思います。

あと施設・設備については、乳幼児の保護者等の利用の促進を図るため、必要な施設及び設備を備えるよう努めるものとするというふうにもありますので、そのあたりも鑑みまして、ぜひ前向きな検討をお願いしたいと思います。

夜間の警備については、警備会社をお願いするなど、あと慣れたところで避難するというのは非常に心強いものでもありますし、やっぱり気持ちの安定にもつながると思いますので、前向きな検討をお願いいたします。夜泣きで御近所とか御家族に気を使う子育て世帯にとっては安心の居場所になると思いますので、どうぞ局をまたがって連携していただき、積極的な施策の拡充をお願いいたします。

公民館のイメージ刷新についてですけれども、現在公民館の活用に関する問題意識から、公民館のしあさってプロジェクトというプロジェクトが立ち上がっており、各地で展覧会やトークイベントが開催されるなど、公民館にもっと親しんでもらえるような工夫に取り組んでいる事例がございます。

神戸市の公民館においても、利用したことがない方でも利用しやすく感じていただけるよう、イメージの刷新を図ってはいかがでしょうか。例えば、公民館という名称の変更や市民が入りやすく感じてもらえるような照明や施設の改修など、地域の若い方に入っていただき、意見を募ったり、もっと地域から親しんでもらえるような魅力的な施設としていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○檀特文化スポーツ局局长 委員御指摘のとおり、公民館を利用したことがない方にも行ってみたいと思っていただけるように、イメージアップを図っていくということは大事なことだと思っております。

既存の取組ですが、入りやすく感じていただけるような照明、明るさの確保という意味では、順次、施設のLED化を図っているというようなことがございます。

それから、施設改修については、例えば玉津南公民館では玄関周りの舗装の改良でありますとか植栽の整備、バリアフリー化を図るといったような、そういうような取組を行っているところもあります。

あとは、これまで公民館の運営については、地域の学校教育の関係者とか地域組織の代表者、公民館活動グループの代表者といったような方と定期的に意見交換をして、その意見を運営に役立ててきたというようなことがございます。令和5年度あじさいネットの導入後は、これまで利用されなかったような方が増えてきております。大学のサークル活動でありますとかボードゲームなどの利用、新たな目的で利用する若年層も増えているというような状況です。

今後も地域のこれまでの既存の利用者の方の意見をいただくとともに新しい利用者も増えてきているので、利用いただいた方のアンケートを参考にするとかというような形で、これまで利用されてない方のニーズも把握しながら運営に生かしていきたいというふうに思います。

公民館の名称については、長年親しまれている名称ということもありまして、すぐに変更するというような予定は今のところないんですけれども今後も利用者の意見をよく聞きながら、幅広

い世代が来館、再来館したくなるような施設となるように取り組んでまいりたいと思っております。

○分科員（さとうまちこ） 今ある貴重な資源を活用しながら、どなたでも気軽に入れるように——今決してそういったイメージにはちょっと遠いのかなというふうに感じることもございますので、地域では今目立ってなくてもかなりいろんな活動をされている方がいらっしゃいます。会議の中でもそういった方も何とか引っ張り出してきて、新しい意見のほうを取り入れていただけたらと思います。

次に、神戸まつりについてです。

令和4年の決算特別委員会の局別審査において、神戸まつりにて、コスプレーヤーを呼ぶなどといったアニメ・コスプレという新しいジャンルを取り入れ、若者を呼び寄せるきっかけとしてはいかがかと提案させていただきました。令和7年5月18日に開催される第52回神戸まつりでは、サブカルチャーを中心としたイベントなどの企画運営を担っていただく市民提案型イベントの募集を2月7日まで行っておりましたが、応募の状況はいかがだったでしょうか。

また、今回の提案状況を踏まえ、今後既存の方を含め、さらに若者を呼べる神戸まつりへと進化していくべきと考えますが、当局の見解をお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 御提案もいろいろ賜りまして、ありがとうございます。

募集の状況ですが、まず、サブカルということで募集をさせていただいたんですが、この間、先日選考委員による選考が行われましたが、複数団体——まだちょっと幾つとは申し上げにくいので、すみません。3月中旬に市の実行委員会において正式に決定をさせていただく予定にしています。

中身ですが、提案のイベントの中身は、いずれもアニメ・コスプレをメインとするイベントでした。委員御指摘のとおり、アニメ・コスプレ文化の人気や広がり実感しております。

神戸まつりに関して言いますと、2026年以降、一旦会場変更が必要となってまいります。物理的な状況の変化も鑑みた上で、残すべきものは残したい。市民参加の基本の部分は残しつつ、変える部分も相当に出てくるかなというふうに考えてございます。どのように変えていけばいいかというのは、市会・市民の方々の意見もお聞きしながら、市民祭協会の実行委員会で議論してまいるということになりますが、その際、いずれにしましてもさらに若い方の参加が見込まれるような企画については、引き続き検討していくということになると思います。

まず、今回初めて実施するその事業について、来場者とかお越しになられた方々なども含めたアンケート結果なんかも含めて検証してみたいというふうに思っております。

○分科員（さとうまちこ） ありがとうございます。

これに関しては、出演者を見るだけということではなくて、自らも共に楽しめるという観点で、当日は市民の方々の仮装なども広く呼びかけていただけたらと思います。見るだけではなくて、一緒に楽しむという観点でよろしく願いいたします。それについて、宮道局長、ぜひ御参加させていただいて、御一緒に盛り上げていただけたらと思います。

次に、滞在型の神戸まつりです。

関連しまして、そういった中でイベントも実施されるということでありましたが、前にも御提案させていただきましたが、コスプレーヤーの方々に神戸の名所で写真を撮ってもらって、SNS等で宣伝してもらい、多くの方に神戸——千年家ですとか明石海峡大橋などもバックに写真を撮っていただいて、それをその場限りのものとするのではなくて、神戸に滞在し、周遊したいと周

りの方に思っただけのような仕組みづくりをしていくべきと思いますが、いかがでしょうか。

○三宅文化スポーツ局副局長 委員御指摘いただきましたとおり、神戸まつりは集客とか観光需要にも寄与する事業となつてまいりますので、神戸での滞在時間を延ばす取組については、非常に重要なことだということで認識をしてございます。

ですので、今回そのイベント——こちらの主催者にはあらかじめコスプレイヤーとして参加をいただけるような方々に、神戸の観光スポットでありますとか映えるスポットなどを周知いただいて、神戸まつりの前日でありますとか翌日に市内を周遊していただくような、そういった仕組みについてもちょっと相談をしてみたいというふうに考えております。

また、今回提案いただいた団体の中には、以前から神戸でコスプレイベントを実施をしており、神戸の町並みを参加者にSNS等で発信いただくようなイベントをしている団体もございました。今回の取組を契機に、副次的にそのようなイベントの認知度が向上して、SNS等を通してファン同士の交流の輪が広がることで、神戸を周遊していただくような機会になればというふうには考えてございます。

○分科員（さとうまちこ） ありがとうございます。

例えば、周遊の際に仮装されている方にはアトアを無料開放するとか、あとはクルーズを楽しんでいただく、またシティ・ループも開放していただいて、周辺の飲食店には何らかのコラボをしていただくなど、さらに盛り上げるようなことが、そういった仕掛けがあれば本当に皆さん楽しんでいただけるのかなというふうに思います。また、居留地は日頃からウェディングフォトで人気のある映えスポットだらけなんですけれども、ウェディングだけではなくて、神戸のすばらしい町並みを見ていただけるチャンスだと思っています。そちらでアピールをしっかりとしていただけたらと思います。

また、神戸空港の国際線が就航、この4月4日にはジーライオンアリーナ神戸が開業されることを契機に、例えば世界最大級のポップカルチャーイベントであるコミコンを神戸に誘致するなど、既存のジャンルだけではなく、新しいジャンルの文化を神戸へ呼び込めばどうか、神戸は面白い、神戸を訪れたいと思ってもらえるような新たな神戸の魅力づくりに積極的に取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○三宅文化スポーツ局副局長 コミコンの誘致というお話でしたが、まず、私どものほうMICEの誘致を担当してございます神戸観光局のほうに状況の確認をしてみたところ、神戸観光局ではコミックコンベンションに限らず、広く催事主催者からの相談があれば神戸での開催が可能かどうかという調整を行っています。コミコンに関しましては、インテックス大阪で既に開催をされておりまして、それを上回るようなキラーコンテンツがあるかなど、具体的な強みの検討も必要だなというようなことをおっしゃっております。

また、そうした事業や文化が根づくためには、その都市に既に素地があるとか、何かしら接点になり得るようなものがあるかどうか、こういったことも検討の余地があるかなということでございます。

先ほど御答弁差し上げましたが、神戸まつりにおいて、初めてこのアニメ・コスプレなどの事業を行いますので、将来的にこれが神戸の強みになるように、まずは今回の取組を安全に成功させること、これが今私たちがやるべきことかなということで考えてございます。

○分科員（さとうまちこ） ありがとうございます

写真を撮っていただくということはあるんですけども、そこまでできるのであれば、その際

には、神戸の居住支援策とか、神戸の子育てとか教育施策などもアピールしたらよいのではないかと考えています。神戸の子育てナンバーワンなど書いたかわいかったりおしゃれなポップを作って、その前にさりげなく行っていただいて写真で撮って、ついでにそこも宣伝していただくというようなことができれば、ちょっと呼び込みにもつながるのかなというふうにも思います。

ここまで言いますのは、皆さんも御存じのとおり日本のアニメ市場規模は今や3兆円を超えておりまして、右肩上がりですと止まらないということです。海外展開も好調が続いておりまして、アニメ市場もそうですけれども、コスプレ市場もどんどん上がってきております。ぜひ、神戸に、しっかりと新しい文化を取り入れながら発展してきたまちでありますので、起爆剤となるような取組をどうぞよろしくお願いいたします。

次に、五色塚古墳ガイダンス施設についてです。

国の指定史跡である五色塚古墳において、見渡すことができるガイダンス施設が整備されることについては非常に期待しております。

一方で、整備予定のガイダンス施設は、エレベーターが2階までとなっており、屋上に行くためには階段しかないということです。車椅子の方々のため、また高齢の方々のために、屋上までエレベーター設置するというバリアフリーの視点がなかったことについてお聞きしたいのと、今からでも設置できないのかということをお聞きしたいと思います。

○三宅文化スポーツ局副局長 五色塚古墳のガイダンス施設についてでございます。

このガイダンス施設につきましては、令和2年度から整備の計画をしております、令和4年度には基本設計に着手をしたということでございますが、当初からこの2階建ての建物ということで計画を進めてまいっております。

もちろん地域の方々の御意見もいろいろ聞いていく中で、せっかく屋上があるのであれば、屋上にも上がれるようにしたらどうですかというようなそういう御提案もいただきましたので、もともとメンテナンス用の階段というのもございましたので、屋上までは上がれるような設計にはしております。ただ、立つところがやっぱり住宅街ということもございまして、周辺にお住まいの方々からは、プライバシーへの配慮という観点から、屋上には人に上がってほしくないというような御意見もいただいておりますので、基本的には原則、屋上には上がらないというような運用をしたいというふうに考えてございます。

○分科員（さとうまちこ） その視界なんですけど、後ろにちょっと見えなくなるような景観を害しないような板といいますか、クリアな何か立てていただいたらよかったなというのと、もちろん地元の方々は、このガイダンス施設がすごく今の既存のものから比べるとよくなるので、そこで黙ってしまわれるんですけれども、でも屋上に行けたらよかったよねという話はどうしても聞きますし、だけど、これ以上言えないよねというようなことってあるんです。ただ、古墳って上から見れば見るほどその壮大さを感じますし、2階でも見えるのは見えるんですけれども、周りには高層のマンションもありますし、奥上に上がれてそれで見れるならこしたことはないんです。なので、この辺りちょっと私もそうですけど、地元のふれまちなんかでもちょっと残念だなと、だけど、わがまま言えないよねというようなことでありましたので、そういった観点があつたらよかったかなと。屋上をここで締めていただいたら困るんですけれども、やっぱり学校もいろいろ見学行くということで、その中で車椅子の子供がいたりしたら、やっぱりちょっと引け目感じてしまうようなこともあると思いますので、今後こういったことがないよう、もしそういった施設がありましたら、造るときは、やっぱり屋上があるなら屋上に行けるような仕組みというのを

考えていただきたいというふうに思います。

神戸の文化財のPRについてです。

令和7年度予算において、神戸歴史遺産で約3億2,000万、文化財保護、文化財調査、埋蔵文化財センター運営等で約5億円と多くの予算が計上されております。文化財の保護など必要なものというのは一定理解できますが、具体的な内容が市民にはなじみがなく、分かりにくいのではないかと考えます。

市民の皆様はどういったことを実施しているのか分かりやすく伝え、市民理解を得ることは重要であり、ホームページはもちろんのこと、SNS等を使い、神戸の文化財、イベントなどへの発信についてさらなる工夫が必要ではないかと思いますが、御見解を端的にお願いします。

○三宅文化スポーツ局副局長　今インターネットで、例えば神戸文化財というような形で検索をしていただきますと、神戸市の文化財課のホームページ、神戸の文化財というページが一番上にヒットします。そこを入っていただきますと、一応、文化財に関する情報がそこで集約されておまして、ほかのページへリンクがあったりとか、そちらを見ていただきますと、かなり取組については分かるかなということですが今やっではおるんですけれども、ただ、実際ホームページを見ますと、やっぱりちょっと説明が不足しているとか、内容的にもう少し工夫したほうがいいなというような部分もございますので、このページをまず分かりやすい表現に改めると。また、リンク先のページもさらに見てよく分かるような形で、こちら更新を図っていきたいと思っております。

あと、SNSに関しても、実は現状でもXとかフェイスブックでイベント情報とか文化財の紹介、こういったことを発信をしております。ただ、なかなかフォロワーもまだ1,200人ぐらいですので、このあたりも、実際のイベント会場とか講座の場面でこのSNSを来ていただいた方に紹介していくような形でフォロワーを広げていくような取組もやってまいりたいと思っております。また、SNSから神戸の文化財のホームページにも行きやすいような形で検討していきたいと思っております。

御意見ありがとうございます。

○分科員（さとうまちこ）　その中で、神戸の文化財検索ページが閉鎖というふうになっているんですけれども、これもまた見る人しか見ない——いいページだと思うんですけれど、なかなかここにたどり着いて検索する方はいらっしゃらないのかなというふうに思います。

閉鎖ですけれども、恐らくリニューアルということですね。例えば現在地を見たら、グーグルマップみたいに近くの文化財に何があるのかなというようなことが分かるようなことがあれば、そこをやっぱり目を見て、文字で追うじゃなくて感じられるようなページにしていだけたらいいのかなというふうに思います。

次に、神戸マラソンについてです。

神戸マラソン2025ありまして、魅力的なコースとなるように刷新されるということです。その中で、さらに神戸マラソンの魅力を向上させながらより多くの方に参加いただくため、例えば、毎年神戸マラソンを仮装して走ってくださっている市民の有名なランナーの方ですとか、神戸愛が非常に深い方々への特別粋みたいなことをつくっていただけたらどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○河辺文化スポーツ局部長　神戸マラソンを盛り上げていただくランナーは重要だと考えていますが、委員御指摘の仮装のランナーにつきましては、マラソンはあくまでも競技ということにあり

まして、主催者としては転倒防止などの安全・安心の確保の観点から、それを助長するような取組はできないと考えております。

仮装ではなく、過去大会では、お気に入りのランニングスタイルのウェアコーデをInstagramで投稿いただいて、その中からおしゃれランナー賞の受賞者を決めるといった取組を行ってまいりました。このような取組に限らず、大会参加者だけでなく応援する方も盛り上がる取組については今後も検討していきたいと考えています。

○分科員（さとうまちこ） ありがとうございます。

そういった方々が出るのを楽しみにされてる方もいらっしゃると思うので、転倒などにお気をつけていただきながら出場のほうをお願いしますということで、また広くそこも広報していただけたらいいのかなというふうに思います。

次に、K O B E まちなかパフォーマンスについてです。

令和6年度より実施されておりますK O B E まちなかパフォーマンスについては、市民が文化芸術やエンターテインメントに気軽に触れられる機会であり、まちの魅力向上にもつながると思います。今後、まちなかパフォーマンスの取組をさらに多くの方に知っていただくため、市民全体に周知されるよう、L I N E を使い積極的に広報・告知すべきではないかと考えますが、御見解をお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 市の公式L I N E アカウント、現在15万人登録されてますんで、ここから情報発信できたら非常にいいなと思ってるんですけども、L I N E のプッシュ配信に関しては、受信者が興味がないものがあまりくるとブロックされてしまうということがあって、登録解除になるような格好もあり得るということなんで、広報戦略部と相談しながら、ターゲット設定とか投稿の頻度とか、そういったことも含めて、このL I N E をほんまに使えるかということも含めていろいろ相談をしてみたいというふうに考えてます。

○分科員（さとうまちこ） L I N E につきましては、ジャンル分けのようなことができるので、登録のときに興味のあるような、例えばアーティスト系でありますとか芸術系に興味がある方には、やっぱり積極的にプッシュ通知していただいたほうが——あっという間に終わっていたとか、あと通りがかったらあった——それは大事なことですけどけれども、やはり前もって調べなくても情報が来るようなことというのは非常に大事だと思っております。他局でもそうですが、L I N E の使い方にもあまりにも消極的で、結果、これをはどうなんだろうというようなL I N E が来たりしますので、やっぱりそこはジャンルで分けて積極的に通知していただくほうがいいのかなというふうに考えております。それで解除されるんやったらそこまでですし、あとは随分登録者数が本当に倍増しているので、そんなに恐れることなく通知していただけたらいいのかなというふうに思います。

登録アーティストのアンケートでは、屋根のある会場の要望があるということでしたが、西区の学園都市前の野外ステージについては十分活用されているんでしょうか。あちらに関しては、朝と夕方、私も駅に立ったりしておるときにめちゃくちゃ人が多いということで、ああいうところちょっとアーティストの方々が演奏とかされてるとすごく注目度が上がると思うんです。グループの名前をちょっと看板を置いていたりしながら、できたら、場所が場所ではありますので、ちょっと音量などに配慮しながら御活用をどんどんいただけたらいいと思うんですが、いかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 ユニバードームですけども、現状施設の管理者から火曜日の12時から19

時までのその部分しか今貸し出していただけていないので、なかなか御利用がいただけていないというのが実情です。

おっしゃられるように、大学生・高校生が行き交う場になってますので、あそこは非常にいい場所だなというふうに思ってます。なので、他の時間帯、他の曜日、これについても貸し出していただけないからというのは粘り強く交渉してまいりたいと思ってます。

○分科員（さとうまちこ）　そうですね。よろしくお願いします。

別にがんがん楽器かき鳴らさなくても、ちらっと聞いただけですごくいいなというのは分かっていたと思うので、ぜひ、早朝とは言わないんですけど、夕方なんか本当にいいなと思います。どうぞプッシュのほうよろしくお願いします。

ありがとうございました。

○主査（松本のり子）　お疲れさまでした。

次に、壬生委員、発言席へどうぞ。

○分科員（壬生　潤）　公明党の壬生　潤でございます。

それでは、早速、一問一答で質疑をさせていただきます。

初めに、神戸マラソンについて伺いたします。

このたび13回目となる2025年の大会から、折り返し地点を明石市域、フィニッシュ場所を神戸ハーバーランドとする新たなコースで開催することと、期待をしております。

そこで、今回のコース変更にはどのような狙いがあるのか、また、その狙いに対して十分に対応できる新コースとなっているのか、伺いたします。

○河辺文化スポーツ局部長　全国各地で都市型や地方型のマラソン大会が開催されていますけども、最近は定員割れであったり、開催を取りやめる大会が出てくるなど、マラソン大会を取り巻く環境というのは変化していると思っています。これは一時期のブームが一段落して、マラソン大会自体が次のステージに向かう時期に差しかかっているものと考えています。

それらを踏まえまして、神戸マラソンを持続可能な大会とするためには、魅力的なコース設定とホスピタリティーの質のさらなる向上によって、大会の認知度を国内外で高め、ランナーから選ばれる大会へと常にバージョンアップしていくことが重要であると考えていまして、その取組の1つとして、このたび、コースの変更をしようと考えています。

コースの変更については、ランナー目線からは、神戸大橋を渡らずまちの中心部でフィニッシュするということで、高低差の大きい浜手バイパスを回避するということから記録が出やすくなる。大蔵海岸付近を折り返しということで、明石海峡大橋や淡路島といった美しい景観がさらに楽しめる。フィニッシュの神戸ハーバーランドというのは、モザイク前の高浜岸壁から、神戸の象徴的なウオーターフロントの景色が一望できるということもあって、ポートタワー・メリケンパーク、そして元町・旧居留地へ足を伸ばせるエリアになるというふうに考えてます。

地域経済の活性化という視点でも、三宮・元町・神戸等からアクセスがよいまちでの中心部でのフィニッシュするということで、ランナーのみならず、御家族・知人・友人・沿道応援者がまちに滞在しやすくなってにぎわいの創出につながると考えています。

神戸空港も国際チャーター便の就航の機会を生かして、海外ランナーの誘客も促進をして、インバウンド消費も拡大が見込めるといった効果があると考えています。

経済観光局あるいは港湾局と十分に連携して、そういった実現に向けて取り組むことはもちろんですが、兵庫県や明石市とも連携・協力しながら進めてまいりたいと考えております。

○分科員（壬生 潤） 浜手バイパスを登らなくてもよいということは、大変好ましいことだと思います。私も2回走らせていただきました。2018年と2022年、重ねるごとにタイムが悪くなっていくわけですが、加齢のせいもございまして、ただ、浜手バイパスの坂は本当にきついです。30キロを超えただけでもきついの、あとまたその後、浜手バイパスの坂を登らないといけない。もう本当に、もうやめよう、もうやめようと思いながら歩きながらあの坂を上ると、このことが解消されるということは、もう大変ランナー目線からしてもうれしいことです。

ただ、登り切って、後、2回目ですけど、あと1.5キロぐらいというところで——登り切ったところでランナーズハイ状態になりました——初めて。痛くもかゆくもなくなりました。痛くて歩いていたのに痛くもかゆくもなくなって高揚してきまして、最も速いペースで40キロの間、最後まで歩かないで走ったという、これがランナーズハイというのかと。でももう二度と経験したくありません。もうそれぐらいしんどいコースでございます。

それが、要するに市街地で坂のないコースを走っていただけるということは——走らせていただける。これエントリーして、もしもエントリーして抽せんにあたったらということですけども、それはもう非常に喜ばしいことだと思います。けど私は、大蔵海岸へ延びたのはいいんですけども、個人的にはあのハーバーランドではなくして、メリケンパークで広々としたところでやったというふうになるのかなという期待をしてたわけなんですけれども、この毎年よりよいものにしていきたいというお話もありましたですけども、これから先、またコースがもう少し変更になるとか、そういったことをちょっと中長期的に見て、そういう可能性はあるんでしょうか。ちょっとお伺いしたいと思います。

○河辺文化スポーツ局部長 まず、新コース、今年の2025大会で取り組みまして、我々、日本陸連の公認コースとなりますので、一定期間そのコースを基本的には考えておりますけども、もちろん先々というのはまずやった上でいろいろと検討というのはもちろん理解してはいきたいと思っています。ということでございます。

○分科員（壬生 潤） 一連の今回の質疑をさせていただく中で、通底して言えることなのかなと、私いろいろ考えておまして思うのは、やっぱり計画的にスポーツ行政を進めていくことの大切さというのを大変感じました。例えば、この神戸マラソンの大会の運営につきましても、コース設定につきましても、以前からコースについてのいろんな議論はあったかと思うんです。このたび、急な長い上り坂を避けようということになって変更していただいたことについては感謝をしますけれども、やはり、これから先々どんなふうにしていくのだとかいうこの目標というか、そういったものを持った上で、この年はこんなふうにしていこう、その次の年はこんなふうにしていこうとかいう、そういう計画性を持ってすれば、もっとよりよいものになったんじゃないかなというような気がしたりなんかして、それは今回のコース変更でやや地元の方から唐突だみたいなお話があったりとか、そういうことになってるということは、そういう、例えば想定外のことに対応するにしても、やはり要するに計画的な考え方みたいなものを持ってすれば、それも最小限に抑えられたんじゃないかなというような気がしてならないわけです。

ですから、これはもうマラソン大会についてはこのぐらいにしておきますけれども、後でも申し上げますけれども、将来を見据えた形で、またマラソン大会の運営もお願いしたいというふうに思います。

続きまして、町なかでの文化・スポーツの鑑賞・体験についてお伺いいたします。

文化スポーツ局では、ストリートピアノの設置やまちなかパフォーマンス事業、さらに、新規では地下鉄海岸線の駅でのアート作品の展示などを通じて、市民や観光客が日常的に文化・スポーツに触れられる取組を進めようとしています。

私はこれまでも三宮から神戸ハーバーランド辺りまでをまるで1つの広場のように捉え、いつでもどこへ行っても何かイベントをやっている鑑賞できるような状況があればいいのではないかと申し上げてきたところであり、当局の取組の方向性は評価いたします。

このような取組を進める上で重要なのは、そうしたイベントを分かりやすく広く発信していくことだと思います。SNSなどで国内外を問わずに発信できるツールがあふれている現在、関心のある人へ情報を届けていけるよう工夫が必要であると考えます。御見解をお伺いいたします。

○宮道文化スポーツ局長　今現状の告知のやり方、ホームページ等でのやり方をちょっとお話しさせていただきますと、それぞれのところでホームページでやっているということ以外で、市のイベント情報については、公式イベントサイトであるおでかけKOBЕという情報が一元化されて——おでかけKOBЕにされております。このおでかけKOBЕは、もともと市のイベント情報がばらばらでまとまっていないというような課題がありましたので、それを分かりやすくイベント情報をまとめたという経緯がございます。

それで、先ほど委員がおっしゃられました三宮からハーバーランド辺りまでというと、そこでもいいですと、各区ごとの検索ができるようになってございまして、中央区、それから芸術・文化といったジャンル別で情報を絞った検索ができるようになっていましてございまして。

ただ、これだけでは、先ほどもお話がございましたが、プッシュ型の通知だとか、配信だとか、そういったことも併せてやっていかなければいけないだろうというふうに我々も思っております。

文化振興財団のフェイスブックアカウントでまちなかパフォーマンスのSNSの発信などはやっておるんですけども、なかなかこれ単発で十分とは言えないというところです。

一方で、それぞれ今ミュージシャンの方も自分たちのファンも含めてフォロワーをたくさん持っているSNSのアカウントをお持ちです。ですので、例えばそこにハッシュタグで分かりやすい言葉を入れることで、大体若い方がそれで検索されるんです。そうすると、集まった投稿が各種見れるというふうになるのかなと思ってございまして、そんな仕掛けをどういったらできるかというのは、ちょっと検討していかなあかんのですけども、まず、呼びかけていくところから始められないかなというふうに思っております。

情報発信については、世代やターゲットの方々によって刺さるところがかなりツールがいろいろありまして違うところがありますので、どれが効果的なのかはちょっといろいろ考えてみたいと思います。

○分科員（壬生　潤）　ぜひ、このおでかけKOBЕも含めて情報発信に努めていただきたいと思いますんですが、受け手の側の嗜好の問題もあるというような手法ということも、確かにそのとおりだと思います。年代によって使うSNSも違いますし、それは確かにあろうかと思います。

ただ、これから先、シンギュラリティーとかって言いますけれども、まちを歩いてたら勝手にこんなことやってますよみたいなAIくんが教えてくれたりするような時代が、もうそこまで来てるのかも分かりません。ただ、今のところは、なるべく効果的な発信をどうすればいいとかいうことについての模索を、ぜひ、続けていただきたいというふうに思います。

ちょっと再質問で別の観点になるか分かりませんが、まちなかパフォーマンス制度などは

市民が見るための事業ですが、それに加えて市民が町なかで文化やスポーツをするための事業にも力を入れるべきではないでしょうか。例えば、通常、スポーツといえば体育館やグラウンドといった施設を予約し、道具をそろえ、当日はまずウェアに着替えてといったプロセスが必要になります。しかし、そういった準備が必要なスポーツだけではなく、町なかで、さらには海辺や山でも手ぶらで体験できるようなスポーツイベント等を数多く行うことで、神戸のまちの魅力がさらに向上すると考えますが、いかがでしょうか。

○**檀特文化スポーツ局局長** 市民の皆様が町なかで手ぶらで気軽にスポーツを体験できる、そういう環境整備ということで、それは非常に重要なことだと思っております、令和6年度からトップスポーツチームと連携して、まちなかスポーツという事業を展開しております。

実施に当たっては、多くの市民の方の目に触れる場所、それから多くの方に参加いただけるようにというようなことで、神戸まつりなど集客力のあるイベントとの連携、それから人通りの多い駅前広場で開催するといったことで認知度を高めるための工夫をしております。イベントに参加いただく際には、これは服装とか用具を準備せずにふだん着のまま参加いただくことができます。

令和6年度の実績としては、まちなかスポーツ事業を11回実施しております、例えば、元町夜市であるとか、兵庫運河祭といった地域の祭りの機会にトップスポーツチームの協力を得まして、サッカー・バスケットボール・ラグビーの体験などをしていただくというような展開をしております。

神戸市の取組以外にも競技団体が主催するそういうイベントについては、例えば、神戸市テニス協会が11月にメリケンパークでテニスの普及を目的として、神戸ストリートテニスというものを開催しました。このイベントは事前申込み不要で、行けば無料でラケットを貸し出してくれる。神戸出身のテニスプレーヤーとか大学生が相手となって、子供から未経験の者まで——大人まで簡単にテニスを楽しんでいただけるような企画ということで、これ相談を受けまして、これに対して神戸市としては後援名義やおでかけK O B Eといったような広報面での支援などを行いました。当日200名の方が参加されたというものです。

委員御指摘の海・山という意味では、海についてはジャパンビーチゲームズ須磨実行委員会が昨年10月に開催したJ A P A N B E A C H G A M E S 須磨2024でビーチテニス・ビーチ相撲などの女子種目の体験会が開かれまして、これに気軽に参加いただけるということで、これについては神戸市スポーツ協会がスポーツ競技等普及啓発活動支援制度で支援をしております。

それから、山については、新神戸駅のところに登山支援拠点トレイルステーション神戸、ここでガイドツアーとか登山に詳しいスタッフがサポートしているとか、民間の取組も含めて——競技団体とか民間の取組も含めて、いろいろそういうものを普及して、いつでも気軽に手ぶらでというような環境整備が進んでいけばいいなと思っております、こういった機会、継続的に創出すべく、トップスポーツチーム競技団体などと連携しながら、スポーツ事業をてこにしてどんどん広げていくというようなことに取り組んでいきたいというふうに思っております。

○**分科員（壬生 潤）** 大変重要なことであると思います。

特に山と海での手ぶらスポーツには、今後、本当に力を入れていただきたいと思いますが、神戸空港が国際化しまして、本会議でも申し上げました空港島を国内外の旅行者の目的地——ディステーションしてほしいみたいなお話をされたんです。そのときに、神戸はすぐそばに山があって、すぐそばに海があって自然環境に恵まれて、旅行者の方が手ぶらで——要するに、だ

から手ぶらというこの神戸の方だけではなくて、国内外の皆さんが手ぶらでスポーツに楽しめる絶好のロケーションではないかなというふうに、ほんとに近くなわけですから——と思うわけです。

ここを力を入れていただきたいと思うんですけど、ちょっとまた計画のことは後ほど言いますが、2019年の教育委員会がつくったスポーツ推進計画では、現状の課題として、自然環境に恵まれているということで、市街地に接する六甲山には多くのハイキングコースがあり、山頂付近には人工スキー場も整備される。要するに、スキーもできるんですよね——冬ね。また、六甲山系の山筋を中心に市民山の会をはじめ、多くのハイキング同好会が組織され、市民が毎日登山をされています。圧倒的に神戸の市民の皆さんが全国比で登山をされてる方が多いという調査結果もありました。山を生かした取組としては、K O B E 六甲全山縦走大会が毎年開催され、多くの参加者を集めています。一方で、開催回数も多く、競技人口の増加が予測されるトレイルラン大会では組織化等が、また過去に開催されたサイクリングのヒルクライム大会は定着していないことが課題となって、まだまだ山を使い切れていないのではないのでしょうかというような現状認識があります。

サイクリングもこの頃レンタサイクルが増えてきましたし、それから、山を走るトレイルランナーも増えてきましたんで、確かに組織化、これからかなというふうに思いますが、気軽に——本当気軽に旅行者の方も参加できるようなことになれば——コースを区切って、本当に楽しみが増えるんじゃないかな。

一方、海です。海に面した都市でありながら、ウォータースポーツの普及は十分ではなく、ヨットやレガッタ、さらにはサップ等を含めたウォータースポーツの普及が求められます。ウォータースポーツもまだまだこれからだという認識です。

宮道局長はマリンスポーツのエキスパートで、見たら、水中写真家と書いてありました。スキューバダイビングをするだけじゃなくて、そこで写真もです——写真家として撮っておられる。これから先も現在の立場を離れられても、ぜひ、このマリンスポーツの振興にお力を貸していただきたいと思うんですけども、こういった現状がありまして、もっとまだ可能性があって、こういう振興によって国内外の旅行者だけでなく神戸市民もやはりそれで——例えば、今、布引から掬星台ですか——方面へ直接行けるようにできへんかとかいろいろあって、そこはもう夜遅くまでできんかとか、神戸市民にとっても楽しみになるような、そういう山と海の楽しみ。

山・海へ行くいうて開発をずっとやってきて、このたび会計が収束するということですけども、これからは山と海で遊ぶいうふうな感じで、もう楽しんでいただくと、そういう。

そうですか、ぜひコメントがありましたら局長、お願いいたします。

○宮道文化スポーツ局長 山も、私、全山縦走大会の事務局長を長年やってございまして、山のことで言いますと、ちょっとこの調査時点ってやっぱり古いんです。私が文化交流課長で来て全山縦走のことをやり出してから、キャノンボールランという、何と全山縦走を2往復・3往復するぐらいのそういう大会があって、これなんか全国から1,000人が集まってこられてます。こういう方々と全縦とがコラボレーションするような格好で協力したりしておるところでございます。

さらに言いますと、マリンスポーツの達人としては、今の状況で言いますとサップなんかは須磨海岸でレンタルができて、おまけにビーチヨガも含めて簡単にできるようになっておるような状況で、今後そういったことをどうやって発信していけばいいかということ、この職を離れても研究してまいりたいと思ってございます。

○分科員（壬生 潤） ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、先ほど来から申し上げてました計画的なスポーツ行政についてお伺いいたします。

さきの本会議でも質疑しましたが、令和元年度にスポーツ行政が教育委員会から文化スポーツ局へと移管されて、今年でもう7年目を迎えることから、市長部局として新たな計画に向かって施策を実行していくことが肝要であると考えます。特にスポーツ施設については、築50年から60年前後の体育館も複数あり、これらの施設の改修や再整備を計画的に進めていく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

○檀特文化スポーツ局局长 神戸市では、令和7年度以降に全市の基本構想に基づいて、市政全般に関わる政策、施策の基本的な方向を示す基本計画・実施計画2030ビジョンの策定が予定されてまして、これは非常によい機会だと思ってまして、スポーツについてもこの機会を生かして組織横断的な視点を持って、外部の有識者・競技団体・トップスポーツチーム・関係局が、連携しながら、意見を聞きながら、具体的な目標について盛り込めるものはそのビジョンの中に盛り込んでいきたいというふうに考えてます

ただ、盛り込めないものについても個別具体的に計画的に進めていくということが必要だと思っております。スポーツ施設については、教育委員会から文化スポーツ局に新たにできた後に、新規の取組として、駅前再整備などまちづくりの一環として垂水体育館・磯上体育館・港島南球技場、こういった新しい施設も整備をしてきたところです。

令和7年度についても、小野浜公園球技場・王子弓道場・ポートアイランドのテニスコートといった新たなスポーツ施設の整備に着手するような予定です。

ただ、神戸市だけではなくて民間の投資も進んでおりまして、4月にはジーライオンアリーナ神戸がオープンして、6月にはS y s m e x K o b e I c e C a m p u s が、開業するようになりますので、民間投資の機会も利用して神戸のスポーツを盛り上げていくというような、そういう視点も必要だと思っております。さらに施設はかなり老朽化もしておりますので、市民の方に安心して利用していただけるというようなことはもう大前提になるんですけれども、スポーツ施設の長寿命化を図るとともに、利用者の利便性向上に資するような改修、こういうのをやっていかないといけないということで考えております。

築年数の長いようなところについては、周辺の再整備計画でありますとか老朽化の程度、建て替え用地の確保、利用者の意見などをいろいろ勘案しながら、中長期的な視点を持って取り組んでいきたいというふうに思っております。

○分科員（壬生 潤） そういうことがありますから、私は本会議で計画をきちんと立てるべきではないですかというようなことを申し上げたら、2030ビジョンの中で、ぜひ反映していきたいというようなお話ありましたですけれども、まず総論からいきまして、今まだこのスポーツの振興というのは、2019年から10年間を大体目途に、教育委員会が作成したスポーツ推進計画がずっと続いているわけなんです。数値目標とかもいろいろあるんです。そのことを意識しながら、今、原局でこのスポーツを引き受けておられて、今ある——今現在もあるんです。今あるその計画を意識しながらやっておられるかどうかという、私はそのようには何か思わないわけです。

といいますのも、それはやむを得ない部分がありました。というのは、教育委員会からスポーツ行政だけでなく、図書館も公民館も何かいろいろ引き受けられて、もうばたばたと応急的に、また救急的にしないといけないことがもうたくさんあって、もう計画を立てる前にまずは着手をして、例えば、垂水の体育館とか、今おっしゃいました磯上のとこの体育館とか、もう王子公園

のこともありましたし、もう大変忙しい思いをされているのは分かります。これまでは仕方がなかったかなというふうには思いますけれども、今後は、むしろ今と将来に向けてしっかりとビジョンもあるということは分かります。ちょうど2025で'26年から2030ビジョンでしたよね。今後5年間ということになるでしょう。

一方で、文化芸術推進ビジョンは、令和3年1月に独自で策定をされました。令和2年から本格的に文化スポーツ局となった瞬間に、もう検討を始められて、翌年1月には早々にビジョンを今後10年間ということで、ちょうど2030年までということで定められておられるのに、教育委員会で作られた——2019年につくられた推進計画があるのが分かっているのに、やはりそのままになっているということはいかがなものかというふうに思うんです。

だから、私は本会議場で、あえて今、文化スポーツ局として推進計画を独自につくるべきではないんですかというふうに申し上げたんで、特にスポーツのことというのは、今もいろいろお話ありましたけど、大変明るい話題だと思いますので、要するに、今、まずは総論的に申し上げますけれども——改めて申し上げますけれども、そういう計画なりビジョンをつくるべきではないかと思うんですけどもいかがでしょうか。

○**檀特文化スポーツ局局长** 2030ビジョンの検討する機会があるので、その機会を生かしていきたいというのが基本的な考え方ではあるのですが、スポーツ行政を進める上で、従来の教育委員会から引き継いだ取組というのを引き継いでいくというのも当然大事なことでと思っていますので、それをやりつつ、従来のことにとらわれすぎずに、スポーツの力を生かした神戸のまちの活性化に向けて、我々文化スポーツ局単独ではできない、例えば海・山であれば、港湾とか観光とか、そういった視点も必要なので、全市的な観点を持ちながら組織横断的な視点を持って、関係局、民間、それからトップスポーツチームとか競技団体、いろんなところの意見も踏まえながら、ある程度計画的に仕事を進めていきたいというふうには思っております。

民間投資の機会なんかも、急にヴィッセルが買ったとか、何かアリーナまでできるとか、かなりスピード速く動いているので、ある程度機動的にその機会を捉えてやっていくというようなことも必要だと思っております、そういう視点で頑張っていきたいと思っております。

○**分科員（壬生 潤）** それでは、ちょっと観点を変えて申し上げます。

まず、ハード面のこれからの整備、老朽施設の話がありました。主に体育館あるいは室内競技場で申し上げますと、中央体育館1965年10月1日にできました。もう今年で満60年ですか——になります。簿価1円、1円というのは、もう減価償却が終わってるけど使ってるからということでゼロ円じゃなくて1円だそうです。そういう意味で1円ということだそうです。それから、灘区文化センターの体育館です。これも1973年にできて簿価1円。でも文化センターの中にありますから、単独でというのはなかなか難しいというのは分かります。先ほど申し上げた王子スポーツセンター、これ1978年です。それから、兵庫区の文化センターの体育館、1973年、簿価1円、これも建物の中ですから一緒に考えないといけないというのはありますけれども、須磨体育館は単独で1973年、簿価1円。ポートアイランドホール、ワールド記念ホール、これは多目的ですけど室内競技もできると、1984年。それから、入札不調になりましたポートアイランドスポーツセンターは1981年、40年・50年・60年と相当長きにわたって。説明も受けました。要するに、大きな空間があるところだから、複雑な設備とか仕切りとか、そういったものがない分、長寿命化を図って何とか機能を続けていきたい。それは分かるんですけども、やはり計画性を持って、目標を持って、やはりいろいろ聞いておられると思います——利用者の方から、こんなふうになっ

たらしいねと。耐震化とかされてますけど、機能的にやはり新しい体育館からすると見劣りをするということが幾つもあると思うんです。

そういったお声に応えるためにも、この段階ではこういうふうにしたいみたいなことを目標を持って計画を立てることが必要ではないかな。このPFIが不調になりましたけど、ポートアイランドスポーツセンター、やはり計画をしっかり持っておれば、不測の事態になったときもこんなふうにしようみたいな議論がすぐさまできるとかいうようなことも可能性としては——これからの問題としても、どうするかということ——全体の何か今おっしゃいましたけど、全体の中でどういう位置づけで、これは優先順位を高くしていかないかとか、そういうことも含めて、そういったビジョンとか計画がないと、いわゆるその場しのぎみたいなようなことになりかねないというふうに思うんです。その辺はいかがでしょうか。

○**檀特文化スポーツ局局長** 委員が見ておられる資料と同じ台帳を私も持っておりまして、古い施設についてはもう1円というような形で認識しております。

施設改修については、やはり建設費の高騰とか数年前には予期しなかったようなこともありますので、なかなか計画を定めてスポーツだけで計画を定めても、なかなかそのとおりに実施がしにくいような場面も出てくると思いますので、施設の老朽化度とか、実際に耐用年数だけじゃなくて、実際に傷み具合とかきちんと診断をした上で、それから利用者の方のニーズなども踏まえて、どれを優先的に進めていくとか、そういう視点を持ちながら計画的に仕事を進めていくということは重要であるというふうには認識しています。

ただ、そこまで細かい個別のことについてまで、このビジョンの中に全市の非常に盛り込むのはちょっと難しいのかなというふうに思っております。

○**分科員（壬生 潤）** 御指摘のとおりだと思います。

ですから、個別の中期計画とかそういったものを立てておかないと、この全体のビジョンとかいう中では、なかなか今申し上げたような個別の計画というのは難しいんじゃないかなと思います。だからこそ、やはり局として、こういう目標というのは必要ではないかなというふうに思います。

あとソフト面で言いますと、まちづくりにつながるスポーツを通じた地域コミュニティの醸成とか、体育館が地域の拠点になってそういうことができたり、それから、総合型地域スポーツクラブとか地域にあります。スポーツ推進委員さんというのは各区にいらっしゃいます。その方の位置づけとか——スポーツ行政における——そういったこと。それとか、今、先ほども申し上げましたマラソン大会の運営、大型のイベントの運営、これもコースも含めて年々よくしたものにしていくために、大会の運営。K O B E ◆ K A T S Uの話もありました。競技大会の運営、そういったものを効率よくやっていく。それでは——それもありますが、各種スポーツ協会との関わり、そういったこともちょっとこれから見直していかなといかんの違うかなというふうなことも思います。

それから、先ほど申し上げました手ぶらスポーツです。スポーツツーリズムの推進、そういった観点も要るでしょう。教育委員会では、ここはこの観点はなかなか難しい。収益につながるとか、そういったようなこと。観光につながる、マラソンもそうです。教育的な見地からは、教育委員会ができて収益につながる。例えば、前回もありましたですけども、グッズを販売、もっとたくさんしましょうとか、そういうことは、文化スポーツ局やからこそ考えられるお話だと思うんです。

それとか、スポーツ情報の一元化、これも課題だというふうに書いてありました。確かにあじさいネットで各局のいろんなところの施設の利用についての情報の一元化ができるようになりました。ただ、アンケートでは、どの情報が欲しいかというと、市民の皆さんは——それも大事です。でも、それは4番目です。欲しい情報というのは、健康についての情報であつたりとか——そういうスポーツを通じた——そういったものが優先度が高いんです。ですから、もちろんあじさいネットで、もう各種文化施設も含めて検索ができるようになって、申込みができるようになった。これはすばらしいことなんです——情報の一元化の1つとして。

でも、市民の皆さんの情報に対するニーズというのは、1番目が健康・体力づくり、2番目がスポーツ教室の案内、3番目がイベント情報、この後に施設の管理の情報が欲しいということなんで、その辺のことも情報の一元化についてはやっていかんといかん。これから——今申し上げただけでもたくさんあります。これをビジョンの中に入れられますか、難しいと思います。個別具体の計画をしていかないと——今後5年、10年間でと思うんですけどもいかがでしょうか。

○**檀特文化スポーツ局局長** 2030ビジョンというのは大きなビジョンなんで、そこに入れるのはなかなか難しいというふうなことは私も思っております。

ただ、基本的なスポーツ政策のポリシーとか、各局スポーツといっても文化スポーツ局の観点のスポーツ、市民のスポーツ振興とかトップスポーツチームがあるんですけど、それ以外にもツーリズムもあるでしょうし、そういうところ全市的に議論を重ねながらビジョンをつくり上げていくというそのプロセスが非常に必要だと思っています。その上で、そのビジョンに基づいて個々の政策を我々が考え、予算を取ったり、予算が必要ない事業もあるかと思うんですけども、それを計画的に取り組んでいく必要があると考えております。

○**分科員（壬生 潤）** あと欠かしてはならないのは、人材の育成だと思います。ずっとこの頃話題になっていますK O B E ◆ K A T S U、要するに、長い人生の中で中学生世代の3年間、非常に伸び盛りでセンシティブな時代であります。部活がなくなる、どうなるんやろ、地域移行、社会移行、まさに移行後はどう考えても文化スポーツ局が主体的に担うということになるだろうというふうに私は思っているわけですが、移行後は、どんなふうにして教育委員会と連携しながら、子供たちが地域の中に入って、そして世代を超えた交流をしながら、選択肢を広げながら、なおかつ専門性を高めていく、そういったことはどうやったらできるだろうかと、その後です。そういったことも、要するに持続可能性を探っていくのも今から計画を立ててやっとなかないと、推移を見守りながらできることだけしときましようかでは、これちょっと厳しいんじゃないかなという——後でK O B E ◆ K A T S Uのことも言おうと思ったんですけど、今ちょっともうまとめて言いますけれども、本当に、要するに、中体連がもう全国の競技大会も、もう19のうち9やめます言うて、もうようしません言うて手を離すような状況になってきてるわけです。要するに、学校の先生だけでは大会の運営ももう無理ですみたいな形になってきてるわけです。それよく御存じのことで、だからこそこ心配して、来年度の予算に大会の運営のことを視野に入れた予算を入れておられると思うんですけども、その後、これからどう——年々やっぱよくしていけないといけないうけで、バージョンアップをしていかないかんわけでしょう。移行したら終わりじゃないわけです。試行錯誤をしていって、よりよいものにしていく、これはいつまでも教育委員会やるんですかという話です。いや、やらないです。やらしてはいけません。だってスポーツは——文化とスポーツは文化スポーツ局が所管ももう令和元年度から受けてるわけですから、やっとな切離しをしてくださいな話、私はそう理解すべきだというふう思うんです——

部活を。文化スポーツ局が担う。これで全世代、言ったら、文化スポーツ局がスポーツ行政を担うことになりました。完結をするという、途切れないように——キャリアが、もう幼少期から青年期までスポーツについては文化スポーツ局で任せてくださいというふうに名実ともになるのが、これは2026年9月以降という認識でいいと思うんです。それ以降のことを計画的にやっぱやらないといけないと思います。

それとか、今先ほどもお話ありましたトップチームとの関わりの中で、どうやって人材を育成していくんかいうことも、もう本当神戸は恵まれてると思うんですよ——ヴィッセル2連覇とかコベルコスティーラーズがあるとか、バスケットはこれから日本一目指してアリーナでやっていくわけでしょう。そこらじゅうにバスケットゴールを造って、まさに人材の育成をしていくもう絶好の環境は整ってるわけです。それを具体的に計画に落とし込んでやっていきたいと思いますというふうに。トップチームに出る子たちを、このぐらいの割合でとか、次の阿部兄弟とか坂本選手を育てるぞみたいな、神戸市民の皆さんが本当に喜んでもらえるような目標設定をするとか大事やと思うんです。

あと、これは以前も申し上げましたけども区単位で、これはK O B E ◆ K A T S U のときにも言うてましたけども、要するにスポーツを本格的にしたいからいうてよその地域に行ったりすることのないように、150万も人口を抱えてるわけですから、やっぱり腕に覚えのある人たくさんいらっしゃると思うんです。みんなに応援していただいて、少なくとも区単位ぐらいでは——これちょっとK O B E ◆ K A T S U の話ですけど——選べる、入れるというふうなことにして、そうなってくると競技大会なんかも神戸市で競技大会に、中学やったら総体ですけども、それがどっちかという学校単位でなくなるわけで、区単位ぐらいで総体以外にも、中学校以外も区単位で何か競争するみたいな、競技をするみたいなことになれば、地域の盛り上がりみたいなものも出てくるんじゃないかなと。あの区には負けへんみたいな、うちの区が一番やみたい感じで、そうやって競技をしていくような観点も大事じゃないかなというふうに思うんです。

そのいい例が駅伝、今兵庫県の大会で駅伝で、垂水区の女子が一番になった。私も垂水区民ですけど、うれしいわけです。そうか兵庫県で一番。京都で全国大会が行われたりいろいろしていますけれども、そういう競技を、いい意味で競いながら人材を育成していく、そういった観点も必要ではないかなというふうに思うわけです。

いろいろ申し上げましたですけども、翻って、この個別具体のいろんなことについての目標を持って計画的に進めていく。計画的なスポーツ行政の再構築が必要ではないかと思うんですけども、改めてお伺いいたします。

○**檀特文化スポーツ局局长** 教育委員会時代からの慣習とか、そういうのに固執し過ぎず、もちろん受け継いでいくことも必要なのですけれども、文化スポーツ局として、新たにスポーツ行政を再構築するというような、そういうことは非常に大切なことだと思いますし、やっていく必要があると思います。

その実施に当たっては、やはり先ほどいろんなことをおっしゃいましたとおり、地域ということであれば、区役所との連携も必要になってくるでしょうし、それから、地域スポーツクラブとかそういう地域の方の手も借りないといけないとか、それから、いろんな部署と連携をしながらこのことに——スポーツ行政に取り組んでいく必要があるんで、やはりビジョンを検討するとき、スポーツについてのビジョンを、指針的なものになるかもしれないですけども、そういうのも盛り込めるものも盛り込みつつ、個別具体的なことについても計画性を持ちながら取り組んで

まいりたいというふうに思っております。

○分科員（壬生 潤） 最後に、ワールドマスターズゲーム2027関西についてお伺いいたします。

2度にわたって延期となっていた生涯スポーツの国際総合競技大会、ワールドマスターズゲーム2027関西の開催まであと2年となりました。神戸は、昨年世界パラ陸上競技選手権大会を開催したところであり、中3年間で、また新たな国際大会を開催することとなります。世界パラ陸上とワールドマスターズは、種目や参加者数また開催目的などの点で大きな違いがあるものの、短期間の間に国内外から多くの選手関係者をお迎えして開催する国際大会であるという点は、共通であると思います。世界パラ陸上で培ったノウハウや経験、ネットワークを2年後のワールドマスターズでどのように生かそうとされているのかお伺いいたします。

○丹沢文化スポーツ局部長 ワールドマスターズ2027の件で御質問いただきました。

まず、ワールドマスターズゲームズ2027関西ですけれども、2027年5月14日から30日の17日間で13府県、政令市にわたって関西各地で開催されます。神戸市では、競歩・硬式野球・バスケットボール・オリエンテーリング・スプリント部門・それから卓球の5競技、5種目が開催される予定です。

この推進体制のほうとしては、組織委員会とそれから府・県・政令市の実行委員会とそういったことで設けておりまして、組織委員会のほうが広域的なところ、それから我々実行委員会のほうでは実施競技種目の準備運営であるとか、おもてなし、そういったところを担うこととなっております。

今委員が御指摘あったとおり、競技運営の実施に必要な会場の運営面であるとか、あるいは選手の交流、おもてなしといった面では、世界パラで培ったノウハウ・経験というものが生かされるものと思っております。

競技運営では、会場管理の運営、医療体制などについて準備を進めますし、交流・おもてなしについても経験豊かなボランティアを活用して、心温まるおもてなしを提供していくなど取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○分科員（壬生 潤） 御答弁のとおりだと思います。連携が大事かと思います。

兵庫県をはじめとする他府・県・市との連携による大会運営の効率化、また神戸市において他の局との連携による来街者の満足度向上、経済的な効果の創出と大変重要になると思いますので、併せてお願いしておきたいと思います。

以上です。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

委員の皆様に申し上げます。

この際、約20分間休憩いたします。

午後3時35分より再開いたします。

（午後3時15分休憩）

（午後3時35分再開）

○主査（松本のり子） それでは、香川委員、どうぞ。

○分科員（香川真二） では、よろしくお願いいたします。

ちょっとまずイントロに、本の紹介をさせてもらおうかなと思うんですけど、ちょっと先日読

んだ本、「天才はいない。天才になる習慣があるだけだ。」という本がありまして、今日午前中も諫山さんのほうからも言われた、若い人たちにどんどんやっぱりいろんな文化に触れてほしいという話もありましたけど、この本に書かれてるのは、いわゆる一流に触れる機会をどんどん増やせば、しっかりとしたアウトプットができる。いわゆるインプットを増やさないアウトプットが出ないということ。つまり、いい食事取らないと、体は健康にならないですよというふうなのと同じような構造で、そういったしっかりとした一流に触れるような機会を増やしていくんだというのを天才の人たちはよくやってるよというふうな話なんで、ぜひ、神戸の子供たちのほうにそういう触れる機会を増やしていただきたいと思っております。

今後、ヴィッセルのチャリティーマッチもありますし、フルートコンサートとかそういう文化に触れる機会を増やしていただければ、子供たちの将来にわたっていいアウトプットにつながるんじゃないかなと思っております。ぜひヴィッセルのチャリティーには、イニエスタさんの古巣であるバルセロナを呼んでいただきたいなと思っておりますので、ちょっと要望しておきます——これは。

ちょっと質問に入らせていただきます。

西区にあります埋蔵文化財センターのことを少し聞かせていただきたいんですが、今日も先ほどさとうさんのほうからもありましたけど、やっぱり考古学ですかね——そういったところに結構予算が使われているんだけど、何をしてるのがあまり見えてこないよっていうようなところで、私も同じような感想、印象を持っております。

西区には埋蔵文化財センターってのがありますので、私も何回か行ったことあるんですが、あまり人が来てるようなイメージは持っておりません。先日、どれぐらいの人が来ているのかっていうのを調べてもらったんですけど、年間で2万4,000人ぐらいが来館してますよっていうふうなことだったんですけど、ちょっと私の印象とは随分離れた数なんですけど、2万4,000人というと大体1日でいうと80人から100人ぐらい来てるかなと思うんですけど、ちょっとそういったイメージがないのと、例えば、垂水にある五色塚古墳なんかであれば、割とそういった考古学の中でも少し関心の高い人たちはよく行かれるという感じなんですけど、リピートが、なかなか埋蔵文化財センターはあるのかなという心配もしてるんですけど、このあたりやっぱりちょっと状況を見ててこ入れなどをしないといけないんじゃないかなと思ってるんですが、御意見を聞かせていただきたいと思います。

○三宅文化スポーツ局副局長 埋蔵文化財センターについてでございますけれども、この施設は市内各地の遺跡からの出土品の調査・整理・収蔵・展示を行う施設ということで、1991年に開館をしたものでございます。企画展や各種考古学講座、講演会などの開催を通じて、実は来館者数は、2023年11月に100万人の入場者を達成したというような状況でございます。現状、やはりコロナ禍以降、学校団体の利用が若干低迷はしてございますけれども、一方で、誰もが気軽に訪れていただけるような企画というのを取組を進めているというところでございます。

まず、周辺の施設との連携などによる新たな客層の取り込みに対する工夫というようなことで、実は、なでしこ芸術文化センターというのができましたけれども、その中に出張展示をするというような形で、いわゆる埋蔵文化財の出土品などを展示するような機会を設けておりますし、また、西図書館や西区役所とともにスタンプラリーでありますとか、謎ときラリー、こういったものも開催をしております。

また、各文化センターでの出張講座、また展示など、施設を知っていただくような活動のほか、

埋蔵文化財センターを活用したボンネットバスの展示とかコンサート、こういったこともやってまいっております。

また、現在、企画展を実施しておるものが、テーマがちょっと昔の昭和というようなことで、一昔前の身近な昭和という歴史をきっかけに、そこから神戸の遺跡なども知っていただきたいという企画でございます。こちらは親子連れでありますとか孫世代を連れた方々が結構来ていただいております、新たな客層の掘り起こしにつながっているかなというふうには考えてございます。

また、昨年秋から始めておるんですけれども、来場者から学芸員への質問票ということをやっております、質問を書いたものを入れていただくという取組なんですけれども、これを館内掲示をするということで、学芸員に聞いてみようというコーナーをつくっております。こちら手書きでやり取りをしておりますので、非常に人間味のある取組で、こちら好評でリピーターの確保にはつながっているのかなというふうには考えてございます。

今後も多くの市民の方に御来場いただけるように、いろいろと工夫をやってまいりたいと思っております。学芸員ならではの視点で考古学を見せるユニークな企画展の実施や、新たな層に向けた埋蔵文化財センターを知ってもらうための新たな取組なども情報発信を含めて取り組んでまいりたいと思います。

ちょっとこれまでの答弁で申し上げておりましたが、実はSNSとかでも結構イベント発信はしておるんですけれども、やはりなかなかフォロワーがまだ増えていけませんので、埋蔵文化財センターのイベントとかでいらっしゃった方にはSNSを紹介して、ファンを増やしていくような取組をやっていきたいと考えてございます。

○分科員（香川真二） ありがとうございます。

いろいろやっておられるんでしょうけど、それが市民の方にはまっていくかっていうところは検証していただきたいなと思います。私としては、ぜひ公園の中に古墳でも1個見つかったらいいのになとは思ってるんですけど、それぐらいの発想の転換がないとやっぱり増えないのかなと思っておりますので、ぜひよろしく願います。私もあまりいいアイデアを持ち合わせてないので、よろしくお願いいたします。

次、地下鉄海岸線による若手アーティストの作品展示について、これ、今日午前中もいろんな質問ありましたけど、私もすごくいいアイデアだと思っております。ぜひ、海岸線は、例えば一だけじゃなくて山手線もやっていただきたいと思っております。例えば、海岸線であれば海をテーマに、それで山手線は山をテーマにみたいな感じで、芸術をちょっと分けて、例えば海対山みたいな、そういった対立でどっちが好きかみたいなところを少し皆さんにアンケートで聞くのもいいのかなと思っておりますので、このあたりちょっといろいろ実施してみても拡大していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 おっしゃっていただきましたように、西神・山手線への拡張ということなんですが、すみません、まず海岸線でやらせていただいた上でちょっと検証したいというふうには思っております。その上で好評であれば、当然場所を広げていくことができるというんですけど、西神・山手線に場所が広がっちゃうと海岸線のほうに展示してくれる人がいなくなるのがちょっと心配だなという、そんなことも思ったりしてございまして、いろいろ考えさせていただければと思います。

○分科員（香川真二） ありがとうございます。

私も2年ぐらい前からですか、インスタフォローしている神戸の新進気鋭の芸術家の方がおられまして、宮道成彦さんという方なんですけど、いろいろとインスタで情報は見させていただいております。ぜひ、海のところに——ぜひともそういった宮道さんに出してもらって、またいろいろその中で出す側のアーティスト側のほうの発想で、いろいろ拡充とかもしてもらえたらいいのかなというふうに思っておりますんで、ぜひともまたそういった機会を、芸術家の方の作品展示の機会を増やしていただきたいと思います。

それと、次のテーマなんですけど、要望をちょっとさせてもらおうかなと思うんですけど、芸術家の方がいろいろ作品を展示するって、披露するっていう場が必要だというふうには思っております。それでいろいろ技術などが磨かれるんだろうなと思うんですけど、例えば子供たちにとってもやっぱりスポーツのイベントなどで親に見てもらったりとかするような、そういった企画なんかやっぱ子供たちの技術を伸ばしていくんだろうなというふうに思っております。

環境整備というのは、神戸市のほうのやれることかなと——行政のやれることかなと思うんですけど、私は中学3年生になる息子が、この3年間サッカーのクラブチームに入っていて、関西のいろんなところに遠征に行く機会があったんでいろいろ一緒に行って見てきたんですけど、今もう中学生のスポーツ、サッカーでも、ほとんど芝なんですよ——試合するのが。もう土でやったことなんか、この3年間でほぼないです。練習もほぼ芝です。いろいろ行かせてもらったんですけど、神戸の芝はいいです。港島南公園も王子スタジアムもそうですし、いろいろ見させてもらいました。いいです。ぜひ自信を持っていただきたいと思うし、王子スタジアム、今度なくなるのが残念なんですけど、今度小野浜というところに何か球技場ができるということで、ぜひその芝も期待はしてるんですけど、そういった環境を整えていくというのが、やはり皆さんスポーツをする方の下支えになるというかサポートになるというふうに思っておりますんで、ぜひそういった環境を増やしていただきたいと思いますし、先日——高校に今度進学するんですけど、やはり、クラブチームに行ってるような子たちは、どうしても芝生でできる高校を選ぶんですよね。例えば、神戸だったら滝川第二高校であるとか、三田学園さんも芝生です。神戸弘陵さんも芝生です——というふうなところに行くんです。ぜひともそういったところで、市立の高校にも芝生のグラウンドができたらいいなというふうに思ってます。公立はやっぱり難しいのかなと思ったら、先日のニュースで県立の星陵高校と社高校が芝生化をしたというふうなニュースを見ました。つい先、本当先週なんですけど、社高校の芝生を見る機会がありましたんで見てきたんですけど——見てきたというか子供が練習するんで、そこで見たんですけど、やっぱりいいです。だから、やっぱりそういう環境が整うところってのはどんどんやっぱりスポーツも強くなっていくと思いますんで、ちょっと市立高校の芝生化をぜひともやっていただけたらどうかなと思っておりますし、ぜひとも、今後、欲を言えば中学校も芝生化があればいいなと思っております。

それが1つと、あと、次、部活動の地域移行のことで1つだけちょっとお伺いしたいのが、大会とかに出ていくときに、やはり子供たちって、例えば中学校名を——どういうんですかね——背負って出ていくというふうなことは試合にあると思うんです。うちも子供が4人いるんですけど、長男のほうは公立の中学校でサッカーをやったんで、例えば、公立中学校も卒業した後でも親としては、中学校のサッカー部、どんな感じかなというふうにして、たまに新聞でちらっと見たりとかして、気になるんです。やっぱり大会に、試合に出るっていったときに、我々も地域の人間としてその中学校のファンになってるんだと思うんです。ですから、中学校名でやっぱり大会に出るというのは、地域の方に対してもすごくいい影響を与えてるんじゃないかなとい

うふうに思ってるんですけど、今後K O B E ◆ K A T S Uとかになったときに、中学校名とかで大会とかに出れるのかなって。例えば複数の中学校が1つのチームをつくったときに、一体どんなふうになるのかなと思っているんですけど、その辺何か教えていただけたらお願いいたします。

○**檀特文化スポーツ局局长** 今のところ、その辺は決まったものがない状態なので、それもちょうと課題の1つとして、教育委員会とも相談をしていくということかと思います。

○**分科員（香川真二）** ぜひともそういったところ、地域の人たちの気持ちも酌んで、また考えていただければと思っております。

最後に、今後、これまでに文化スポーツに尽力された局長にちょっと聞いてみたいことがあるんですけど、マリンスポーツの達人というふうには先ほど自分でもおっしゃられておりましたが、自分でも自らスポーツをやられておると思うんですが、ちょっとビールのCMみたいになって恐縮なんですけど、局長にとって文化・スポーツとは何でしょうか。

○**宮道文化スポーツ局局长** 生きていくに当たって欠かせない、それもウェルビーイングの生き方に欠かせないものだというふうに感じております。

○**分科員（香川真二）** ありがとうございます。

今後は4月になると時間もたくさん取れると思いますんで、4月からもアーティストとして御活躍されることを期待しておりますし、また、インスタをフォローしてますので、ぜひともそちらのほうで見させていただきます。楽しみにさせていただきますんで、御活躍をお祈りしております。

以上でございます。

○**主査（松本のり子）** お疲れさまでした。

次に、平野章三委員、発言席にどうぞ

○**分科員（平野章三）** 音楽のまち神戸ということで、ちょっと質問させてもらいたいと思います。震災の記憶を風化させず語り継ぐことを目的として、毎年チャリティーイベントとしてC O M I N G K O B E、いろいろ各地でやってます。多いときはやっぱり4万人ぐらい、もう区切って受け付けたりしてます。非常に、震災30年ということから考えると、一番のやっぱり今回メインかなと。これ毎年やってますが、必ず無料で皆さんを招待して、それで売上げ寄附で行って、それから被災されたところへ寄附を持っていくと、これ毎年ずっと続けてやっています。これ非常に大きいことで、今回の30年のイベントとしては、神戸まつりも兼ねて非常にヒットかなと思うんです。その企画が予算を相当膨らませてもらって、僕にしたら、できるかな思うぐらいの——金額は少ないけど、相当膨らましてもらった予算で、これでどんな形でできるかちょっと局長のその辺の考え方、全部はまだこれからなんでしょうけど、ちょっと言っていたらと思うんで、よろしく。

○**宮道文化スポーツ局局长** C O M I N G K O B Eが30年を迎えて、やっぱりここで発信をしていかないと、まさに風化してしまうことが——おそれがあるなというふうに思っています。

実行委員会自らクラウドファンディングで1,000万を集められました。これもニュースだったと思います。それから30年に当たって、ここを立ち上げた松原 裕さんの御子息が中学生に語るようなこととしておられます。こういうようなことだけではなくて、やっぱり神戸、もしくは阪神間で被災があったような場所からメジャーになっているようなバンドなんかを呼んでくるようなことをきちっとできひんかなと、そういうことができますと、若い人たちがたくさんやってき

ますし、彼らに経験を伝えることも可能かなと思っていますし、それをメディアが追いかけて多数に発信してくれる、そんなふうにできればなと思っています。

- 分科員（平野章三） これもう非常に重要なんで、神戸市も最初から予算を支援してますし、COMING KOBE時代から——COMING KOBEじゃないわ。GO INNG KOBEやね——あの時代からすごい局長もよう見ておられるんで、ひとつその辺はよろしく願います。

Battle de eggなんですが、これ官民連携でずっとやってコンテストという形で長年やってきて、今やっと非常に評価が上がってきて、これも上田社長にはいろんな協力をいただいて、相当広がりを見せてきてるんです。多いときは全国で400バンドぐらいの応募があって、神戸でチャレンジやっていると。これもともと皆、大阪へ進出したり東京へ行くという傾向を何とか、逆に東京から神戸へでもチャレンジに来さすという意味でのコンテストなんです。だから、これ毎年ずっとやってきてコンテストをやっていて、結構東京とかも夜中車を走らせてきたりします。だから、最終5～6バンドで優勝というような形のバンドを選定してるんですが、やっぱり優勝——やる限りは賞金というようなものが要と思うんで、これはCOMING KOBEが出場権ということで受け持ってもらって、あそこへ出たくて仕方ないという状態のバンドがたくさんいます。そういうバンドがそこへ出場できるというので、非常に価値はあるのと、もう1つ今回は、台南で音楽祭をやっていると、これ9万人規模で毎年音楽祭をやってる。今、国際便の問題もありますし、それから国際交流ということもあるんで、今回のこういうCOMING KOBEとか含めた予算の中に、台南のやっぱり交流も入ってると思うんです。Battle de eggは優勝したバンドを台南へもって交流したらどうだという今話もあって、その予算措置もしてもらってると思うんです。これ非常に、ある意味では、規模的にも大事だと思うんですけど、この交流をしていくのに継続的に——これはこの震災30年とは別に——継続的にやっていただく。毎年、台南で音楽祭をやってますから、こういう予算措置をずっとやってもらいたいと思うんですが、そういうことも含めてどうでしょうか。

- 宮道文化スポーツ局長 おっしゃっていただきましたように、4月18日から台湾などから神戸空港へチャーター便もやってまいります。私が思うのは、やっぱり親日で台湾は非常に日本の文化も人気があります。こういったことで、去年、台南のところから台湾祭から神戸のほうにも来ていただいてましたんで、こういう文化交流が神戸と台湾の交流人口の増につながったらいいなというふうに思っております。なので、文化面においてもそうした交流が引き続きできればというのは、私が思っているところでございます。

何とか続けられるように——手法はエアラインと協力するとかいろいろあるかと思いますが、考えてみたいと思います。

- 分科員（平野章三） それと1点、いろんなイベントをやっていく中で、今回音楽を取り上げとんですが、各局がばらばらでそれぞれ音楽をやってるんです。本来は、私は文化交流がいろんな局が音楽やってても、それを全部取りまとめて発信すると——神戸市として発信するという形をずっと言うてきたんですが、なかなかいい返事がない。それはよう分かるんです。今回ちょっと特に感じたのは、港湾局、例えばメリケンパークを中心に、もう音楽いろんなイベントやれと言うてたんですが、市長もとにかくあそこ人が少ないでということから、一気に音楽とかいろんなイベントを港湾局がやり出した。港湾局がやるのはいいんですが、これを発信するのは、やっぱり文化であるべきかなと、どこかがしないと、それぞれの局が自分の事業で手柄を取ってやっていると

いうのはあまりよくない。特に港湾は、もう自分で事業部局ですから相当資金もあるし、余裕を持ってやっている。それが、やっぱりかなりもっと協調性がない。だから一番港湾が嫌われとう局なんですけど、もう何とかこれもっと協力せいというふうには、明日——今度、次の委員会では言いますけど。この今ちょっと見てたら、メリケンミュージックナイツか、これやっぱり負担金として神戸市は6年度、2億3,800万、ごっついお金が入っとるんです。この中で数社のメンバーがいわゆる実行委員会になって、その実行委員会の中で1社が、こういう例えば音楽やったら音楽で運営事業者がやっとるんです。そこからいろいろ募集しとるんです。それも本当やったらプロポーザルとか入札とかきちっとせないかんねんけど、特定のところがそれをやっているんです。これ本当に、私、不透明なやり方やって港湾にごっつい今文句言うとんです。

もっとやっぱり毎年、言うたらプロポーザルでもしてしなければならないやけど、ちょっとそれが——どういうんか、特定に傾いとるんちゃうかなと。それで、何で文化スポーツ入ってないんやと、一緒にやれへんねやと、いややっていますけど言うてやってないやないかという、今そんな状態なんです。

だから、局長が今まで言いにくかったと思いますけど、港湾局は全くほかの局を無視しているというぐらい自分とこでできると、こんなことではええことない。だから、次の委員会の港湾のときに一言文句を言いますけど、多分聞かへんと思うんです——余裕あるから。だけど、やっぱりできたらそういう形で協調できるように、もうちょっと——どこの局がやろうと、音楽は1つで、市民やいろんな他都市の人とか海外からも発信できるようにちょっとまた考えてください。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

次に、上原委員、発言席にどうぞ。

○分科員（上原みなみ） 無所属の上原みなみです。よろしくお願いします。

まず、ヴィッセル神戸との連携事業について質疑いたします。

先日の代表質疑においても、ヴィッセル神戸と連携した地下鉄海岸線の活性化について質疑いたしましたが、神戸市としても日本一強いサッカーチーム、ヴィッセル神戸を支援し、さらに連携・強化を進めていくべきと考えます。令和7年度予算では、ヴィッセル神戸30周年記念事業を実施予定で、その予算8億円は企業版ふるさと納税による寄附が見込まれていると聞いております。こうした取組は、チームのファンを掘り起こすだけでなく、まちのにぎわいや活性化につながる非常によい取組で、盛況になることを期待しております。

ただ大きなイベントだけではなく、例えば公開練習による市民観覧を支援したり、本市が有する施設をヴィッセルカラーにするなど、プロサッカーチームとの連携に力を入れる横須賀市に倣って、一過性ではない継続的な事業をすることで、ヴィッセル神戸を熱烈に応援する神戸市というイメージ戦略が実を結ぶと考えますが、文化スポーツ局の御見解を伺います。

○檀特文化スポーツ局局长 J1の3連覇、アジアチャンピオンに挑んでいるヴィッセル神戸をはじめ、トップスポーツチームの存在は、まさにまちのイメージアップ、それから市民のシビックプライドの醸成にもつながるものです。これは神戸市の大きな強みであると考えております。

この恵まれた環境を生かして、御指摘の横須賀市などの取組も参考にしながら、今後、ヴィッセル神戸をはじめとするトップスポーツチームと相談して連携して、まちのにぎわいづくり、イメージアップについて継続的に取り組んでまいりたいと思います。

○分科員（上原みなみ） ぜひノエビアスタジアムで公開練習ができないかも検討していただきたいと思います。

横須賀市は横浜F・マリノスに関する数々の事業を、それぞれ企業版ふるさと納税を募って実施しています。本市でも、文化スポーツ局がヴィッセル神戸と協議して、年間事業を計画し、積極的に企業版ふるさと納税を活用したさらなる事業展開をすべきと考えますが、御見解を伺います。

- 檀特文化スポーツ局局长** ヴィッセル神戸と連携した取組につきましては、現在も小学校への選手の訪問事業・巡回サッカー教室・市民観戦会といったことを年間を通じて計画的に実施しているところです。

今回、企業版のふるさと納税を活用した取組を実施するわけですが、これはヴィッセル神戸から提案を受けて、チャリティーマッチを予定するものです。このチャリティーマッチで多額の寄附が集まるといったような場合は、今年使い切ってしまうのではなくて、次年度の事業に活用するといったような形で、一過性でない継続的な事業ができるようにヴィッセル神戸とも協議をしまいたいというふうに考えております。

- 分科員（上原みなみ）** 現在、神戸市では、スポーツで元気になる街へという項目で神戸に拠点を置くトップスポーツチーム応援としてふるさと納税を募集し、集まった寄附は各チームが実施する地域貢献事業や市のスポーツ振興に活用されていると伺っております。現状、複数のチームをまとめて募集していますが、結果として訴求力が弱くなっているのではないかと考えます。例えば、ヴィッセル神戸について単独で募集することにより、多くの方に目に留まり、市内外の応援したい人が集まりやすくなる結果、ふるさと納税の寄附額の増加が見込まれ、ヴィッセル神戸をはじめ市内スポーツ振興に直結する様々な事業展開が可能になるのではないかと考えますが、御見解を伺います。

- 檀特文化スポーツ局局长** 今現在、ヴィッセル神戸と連携したふるさと納税の募集については、みんなのノエスタアップグレードプロジェクトを実施しておりまして、これについては、今年度、約1億2,000万円の寄附が集まりまして、これをスタジアムのトイレの美装化などに活用していくという予定です。これは、ヴィッセル神戸のファン・サポーターをはじめ、ノエビアスタジアム神戸を利用する方が使いやすくなって居心地のよい環境の実現にも寄与するものなので、これは大いに意義があるというふうには思っています。

今後、新たなプロジェクトを立ち上げることについては、ヴィッセル神戸をはじめ関係者の意見、声をよく聞きながら、ふるさと納税の使途メニューを寄附者に分かりやすくするという視点、それからプロジェクトの乱立、寄附の分散を下げるといったような視点も含めて、市として実施する必要性などをよく踏まえた上で検討してまいりたいというふうに考えております。

- 分科員（上原みなみ）** 神戸市でもヴィッセル神戸のナンバープレートができたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

次に、青少年科学館のプラネタリウムPRについて質問いたします。

昨年度の予算特別委員会において、オンライン予約の導入や青少年科学館の夜間利用促進について提案し、令和7年1月24日からオンライン予約の開始、また、夜間利用促進についても大人向けの企画で夜のプラネタリウム上映などが実施されていると伺っております。

ただ、オンライン予約比率は、ドームシアターが4.4%、展示室3.1%と非常に低い状況です。スタートしたばかりというのかもしれませんが、利用する側からすると、待ちに待ったオンライン予約であるにもかかわらず、これほど活用されていないのはPR不足ではないかと感じますが、どのような取組をされているのでしょうか。

○宮道文化スポーツ局長 今やっています取組では、あまり効果的なことができてないのかなと思っています。

やっていますのは、科学館のホームページ、それからX、それからフェイスブックなどです。今は、冬季って比較的客人が少ないことと、リニューアルの工事中というのが1つ影響しているのかなと思ってまして、何よりもオンライン予約が威力を発揮するのは、利用者が増えます春休みだとかリニューアルのオープンをしますちょうどその頃ですので、それに合わせる格好で、これからしっかりとPRやってまいりたいと思っています。

○分科員（上原みなみ） 一方で、夜間のプラネタリウム利用については満席になったプログラムが非常に多くて、想像どおり十分なニーズがあるのではないかと感じております。

令和7年度は、もっと多くの夜間プログラムを実施していただきたいですし、特に若いカップルにも来館してほしいことから、プラネタリウムにロマンチックなフォトスポットを設置したり、ハッシュタグをつけてSNS投稿した人には特典をつけるなどの広報促進の工夫が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○三宅文化スポーツ局副局長 若者を取り込んでいく取組といたしまして、実は令和6年10月からプラネタリウムの上映前に、ハロウィンでありますとかダイヤモンドダストなどの映える動画コンテンツを投影いたしまして、それをお客様にスマホで撮影いただいてSNSで拡散していくというような呼びかけをしたことがございます。

ただ、さらなる工夫の1つとして、ただいま委員から御提案のありましたフォトスポットの設置でありますとかハッシュタグの取組につきましても、ぜひ検討させていただきたいと考えております。

○分科員（上原みなみ） 例えば、プラネタリウムの上映前などに積極的に写真撮影し、SNSに投稿したくなることと、その写真を見た人が同じように写真を撮りたいと来館したくなることというのが非常に重要な取組だと思います。

また、ハッシュタグを提案したんですけれども、青少年科学館というと、やはり学習施設というイメージが前面に出てしまいますので、若者を引きつけるにはいまいちかもしれません。特にプラネタリウムについては、親しみやすい愛称をつくり、それをハッシュタグとして周知してもらうのがよいと考えますが、御見解を伺います。

○三宅文化スポーツ局副局長 実は、現在プラネタリウムを更新したときに、ドームシアターというふうに名称を変えたんですけど、やっぱりなかなか定着せず、やっぱり皆さんプラネタリウムというふうに呼ばれますので、現在、実はタグにつきましては、バンドー神戸青少年科学館という固い名前ですしておりますので、もう少し若い人たちに親しみのあるようなハッシュタグについては、取組を検討してまいりたいと考えております。

○分科員（上原みなみ） ありがとうございます。ぜひ神戸もつけていただきたいなと思います。

プラネタリウム内で写真撮影をしてはいけないと思われがちですので、上映中以外は撮影オーケーという周知もお願いしたいと思います。

次に、神戸「本」の文化振興プロジェクトの推進について伺います。これは要望になるかもしれませんが。

2024年7月から、本と人との出会いの場をつくり、本を買う人を増やし、神戸の本文化を振興していく神戸「本」の文化振興プロジェクトを推進していると聞きました。本には様々な魅力があって、文字からの想像力を養い、また人生で経験できない事柄について本を通じて学ぶなど、

本との出会いで得られるものは相当大きいと思います。ぜひ、本を買いたくなるような動画などを使って推進していただきたいと要望しておきます。

○主査（松本のり子） お疲れさまでした。

以上で、文化スポーツ局関係の質疑は終了いたしました。

当局、どうも御苦労さまでした。

○主査（松本のり子） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

長時間の審査、お疲れさまでした。

次回は、3月3日、午前10時より、ここ27階第2委員会室において、港湾局関係の審査を行いますので、よろしくお願いいたします。

本日はこれをもって閉会いたします。

（午後4時11分閉会）